

資料1 地域協議会向けアンケート 調査票



## 地域協議会の運営状況についてのアンケート

貴協議会の概要等について（ご記入ください）

地域協議会名	
アンケート記入者名	
アンケート記入者の連絡先	電話番号
	メールアドレス

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業において、活動組織への支援・指導を行う地域協議会の皆様を対象に、各種の支援活動等の状況や運営上の課題などをお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様のご参考にしていただくことを目的としています。  
ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- アンケート調査は林野庁から委託を受け、（公財）日本生態系協会が実施しています。
- 本アンケートは、貴協議会における活動組織の支援・指導に関する取り組みの全体像を把握されているご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- 皆様からのご回答は、本調査の目的以外に使用することはありません。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢のチェック欄（）にチェック（）をお願いします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、**令和元年 10 月 25 日（金）**までに同封の返信用封筒または E メールにて、本アンケート調査票をご返送いただきますようお願いいたします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。
- アンケート調査票は、本紙を含め 34 ページ（全 36 問）です。

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会（担当：野口、佐久間）

住 所：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話：03-5951-0244

Eメール：shinrin2019@ecosys.or.jp

調査票ダウンロードサイト：<http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>

## Q1 | 貴協議会の担当職員数

令和元年度現在、貴協議会において、本交付金（森林・山村多面的機能発揮対策交付金）を担当する職員の数（パート、アルバイト、臨時職員含む）を教えてください。

※本交付金に関する作業時間が少ない場合でも、担当者であれば、1名と数えるようにしてください。

該当の記入欄に、整数で数字を記入してください。

常勤の担当職員	名	うち常時対応	名
繁忙期に応援を頼むことのできるおおよその職員数（常勤担当職員以外）			名

## Q2 | 貴協議会のご担当が所有する森林関係の資格

令和元年度現在、貴協議会において、本交付金を担当する職員の方がお持ちの森林関連の資格あるいは学歴について教えてください。複数の担当者がいらっしゃる場合には、どなたか1名でもお持ちの資格があれば、チェックをお願いします。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 森林インストラクター
- 技術士、技術士補（森林部門）
- 林業普及指導員
- 林業技士
- 労働安全衛生法による特別教育の修了者（チェンソー、刈払機など）
- 樹木医
- 森林・林業関係の大学院・大学・短大を卒業
- 林業大学校・林業短期大学校卒業
- その他の森林・林業関連の資格（自由記述欄にご回答ください）
- 特に森林・林業関係の資格・学歴は保有していない

「その他の森林・林業関連の資格」に回答の協議会は、具体的な資格を教えてください



### Q3 | 募集開始日

平成30年度と令和元年度において、貴協議会が本交付金の募集を始めた日（募集開始日）を教えてください。なお、チラシ等の郵送の場合は、発送日をもって募集開始日としてください。

該当の記入欄に、整数で数字を記入してください。

	年（西暦記入）	月	日
平成30年度（2018年度）	年	月	日
令和元年度（2019年度）	年	月	日

### Q4 | 募集・申請

平成30年度と令和元年度において、貴協議会が実施した本交付金の募集回数を教えてください。なお、締め切りを決めていない場合は、「随時募集」にご回答ください。

横1行ごとに当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

	1回	2回	3回	4回以上	随時募集
平成30年度	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
令和元年度(予定含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### Q5 | 募集に当たっての説明会の実施回数及び実施箇所数

平成30年度と令和元年度において、貴協議会が、申請団体を募集するにあたって実施した説明会の回数と、市町村単位での説明会の実施箇所数、市町村名について教えてください。

該当の記入欄に、整数で数字と地名を記入してください。

	説明会実施回数	説明会実施箇所数	説明会を開催した市町村名
平成30年度	回	市区町村	
令和元年度	回	市区町村	

## Q6 | 募集に当たっての広報手段

平成30年度と令和元年度において、貴協議会が、本交付金の募集を行うにあたり、具体的にどのような広報手段を用いたのかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 地域協議会の Web サイト（Facebook など SNS を含む）での情報発信※
- 都道府県が管理する Web サイト（Facebook など SNS を含む）での情報発信※
- チラシなどの独自の広報用資料の作成
- 都道府県の担当部局に広報を依頼
- 市町村の担当部局に広報を依頼
- 新規申請団体向けの説明会の開催
- ボランティア団体向け施設での広報活動（チラシ設置など）
- 都道府県や市町村を通じて実施に関する情報を提供
- 本交付金取得経験のある団体へのメール、メーリングリストでの連絡
- 本交付金取得経験のない団体へのメール、メーリングリストでの連絡
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に新規団体募集のための広報活動は行っていない

※ あるいは と回答の場合は、Web サイトのアドレスを教えてください

地域協議会	
都道府県	

「その他」に回答の協議会は、具体的な広報手段を教えてください

貴協議会が本交付金の募集を行うに当たり、申請する団体が応募しやすくするために令和元年度に行っている取り組みについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 本交付金に関する説明会の開催
- ② 都道府県と協力・連携した指導
- ③ 市町村と協力・連携した指導
- ④ 林野庁作成資料の公開・配布
- ⑤ 申請書類作成にあたっての独自のQ&Aの作成・公開・配布
- ⑥ 申請書類記入例の作成・公開・配布
- ⑦ 申請書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- ⑧ 過年度と比べての変更点をまとめた資料の作成
- ⑨ 独自の募集用チラシ・パンフレットの作成・公開・配布
- ⑩ Webサイトでの最新の申請書類の公開
- ⑪ モニタリング調査に関する説明会・講習会の開催
- ⑫ モニタリング調査のための手引き等の資料の作成
- ⑬ 安全講習の講師・指導者の紹介、斡旋
- ⑭ 森林ボランティア活動のための保険の斡旋・宣伝
- ⑮ 対象地の面積の算定支援
- ⑯ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑰ 特に申請を行いやすくするための取り組みは行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な取り組みについて教えてください

令和元年度において、貴協議会が実施した、活動組織の申請に対する指導・修正内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 申請書類の記載漏れ、記載ミスがあった
- 交付金対象外の活動が申請されていた
- 適切な計画図（森林計画図や縮尺 1/5,000 以上の図面）が準備されていなかった
- 0.1ha 以上という面積の要件が満たされていなかった
- 面積の算定が適切かどうか分からなかった
- 活動対象地に関する協定書が適切な内容ではなかった
- 森林経営計画の対象地が含まれていた
- 交付金の使途に適切ではない内容があった
- 添付された写真では対象森林の現況を把握することが困難であった
- 活動スケジュールが適切ではなかった
- 安全のために着用する装備が十分ではなかった
- 保険に未加入ないしは、補償内容が不十分だった
- 安全講習の内容が適切ではなかった
- モニタリング調査の内容が適切かどうか分からなかった
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に指導・修正は行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な指導・修正内容について教えてください

平成30年度と令和元年度に、貴協議会が、活動組織の連携や協力関係を促進させるために行った取り組み、支援策について教えてください。

※貴協議会の管内以外の団体との連携や協力関係を行う場合も含めてご回答ください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 活動事例発表会等の開催
- 他の活動組織の活動現場を対象とした現地見学会の開催
- 他の活動組織の活動現場で研修会を実施
- 活動組織間の交流会（上記①発表会・②見学会・③研修会を除く）の実施
- 活動事例集の発刊
- ホームページ、Facebook など SNS や掲示板サービスなど、web による情報発信
- 他の活動組織が行うイベント情報、通信誌等の共有
- メールングリストを活用した情報共有
- 活動組織間の連絡網の作成
- 活動組織間での協力（資機材の融通や人員確保等）の斡旋
- 市町村による活動組織や森林ボランティアの連携に向けた取り組みへの協力
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に活動組織間の連携や協力関係を促進するための取り組みは行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な取り組み、支援策について教えてください

## Q10 | 活動組織への協力依頼

本交付金による活動を円滑に進めるため、現在交付金を取得している活動組織、あるいは本交付金の活動を終了した活動組織に、協力を依頼することがあるかについて教えてください  
具体的に協力を依頼したことがある場合には、具体的な内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 書類作成の支援の協力依頼
- 具体的な作業に対する助言の協力依頼
- 作業に対する人員面での協力依頼
- 資機材貸与の協力依頼
- 活動組織の安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習への協力依頼
- 活動組織のモニタリング調査への協力依頼
- 活動事例報告への協力依頼
- 活動に関する現地見学会等への協力依頼
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に協力の依頼を行ってはいない

「その他」に回答の協議会は、具体的な協力依頼について教えてください

## Q11 | 現地調査の実施回数と対象団体数

平成30年度に、貴協議会が、活動組織の取り組みについて、現地調査（現地視察）を行った回数（おおよその日数）と、活動組織数を教えてください。なお、同日内に同じ活動組織の現地調査を行った場合は、複数の活動対象地を回った場合でも現地調査1回と数えてください。

該当の記入欄に、整数で数字を記入してください。

現地調査ののべ回数	回	現地調査を行った日数	日
30年度の活動組織数	団体	うち調査した活動組織数	団体

平成30年度と令和元年度において、現地調査（現地視察）を行った際に、どのようなことについて確認や助言をするのかについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 作業の実施状況の確認
- 作業方法についての助言・相談対応
- 作業時の安全対策の実施状況の確認
- 作業時の安全対策についての助言・相談対応
- 活動対象地の森林の状態の確認
- 活動対象地の位置、面積、境界の確認（図面との照合等）
- 本交付金で購入された資機材／物品の利用状況の確認
- モニタリング調査の調査区（標準地）の設定状況の確認
- モニタリング調査についての助言・相談対応
- モニタリング調査の調査結果の妥当性の確認
- 活動記録や金銭出納簿などの事務書類の記録状況の確認
- 事務書類の作成に関する助言・相談対応
- 活動対象地周辺への影響の有無の確認
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に意識して確認していることはない

「その他」に回答の協議会は、具体的な確認・助言内容について教えてください

平成 30 年度と令和元年度において、交付金の採択以降、実績報告書の提出前の段階において、活動組織が実際に活動を行うにあたり、地域協議会にどのような相談があったのかについて、教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 作業を行う人数を確保できない
- 作業を行うのに必要な資機材を用意できない
- 活動記録や金銭出納簿など、必要な事務書類の書き方が分からない
- 活動記録上、必要な写真の撮り忘れがあった
- 作業中に参加者にけが人があった
- 活動対象地で自然災害による被害が生じた
- 活動対象地で鳥獣による被害が生じた
- 作業により周辺に物損事故があった（電線へのかかり木など）
- モニタリング調査について※
- 具体的に購入可能な資機材について
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に相談を受けていない

※モニタリング調査に関する詳細な問い合わせ内容については Q14 にてご回答をお願いします。

「その他」に回答の協議会は、具体的な相談内容について教えてください



平成 30 年度と令和元年度において、活動組織がモニタリング調査を行うにあたり、地域協議会に寄せられた問い合わせの内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- どのような調査を行えばよいかかわからない
- ガイドラインに、目指す森林の状態を把握するのに適した調査方法がない
- 調査区（標準地）をどこに設定すればよいかかわからない
- どのように数値目標を決めればよいかかわからない
- 数値目標の大きさをどれくらいにすればよいかかわからない
- いつ初回調査を行えばよいかかわからない
- いつ年次調査を行えばよいかかわからない
- モニタリング結果報告書にどんな数値を書けばよいかかわからない
- モニタリング結果報告書にどんな写真を添付すればよいかかわからない
- モニタリングの調査方法の変更をどのようにすればよいかかわからない
- モニタリングの数値目標の変更をどのようにすればよいかかわからない
- モニタリングの調査区（標準地）の変更をどのようにすればよいかかわからない
- 積雪や災害被害等で、モニタリング調査を実施できない
- モニタリング調査の結果が悪く、数値目標を達成できる見込みがない
- 独自の調査方法でモニタリングを実施したい
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特にモニタリング調査について問い合わせはない

「 その他 」に回答の協議会は、具体的な問合せの内容について教えてください

平成 30 年度と令和元年度において、貴協議会が活動組織のモニタリング調査を円滑に進めることができるようにするために実施した支援の内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① モニタリング調査の際に、地域協議会の担当者も参加し、適宜助言を行う
- ② モニタリング調査を実施する上で参考となる資料を独自に作成した
- ③ モニタリング調査を実施する上で参考となる資料の紹介を行っている（独自作成除く）
- ④ モニタリング調査についての助言や支援が可能な個人（専門家）の紹介を行う※
- ⑤ 本交付金を取得している活動組織から、モニタリング調査について助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑥ 本交付金を取得していない団体から、モニタリング調査について助言や支援が可能な団体を紹介している
- ⑦ モニタリング調査の実施方法に関する講習会・学習会を実施する
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ モニタリング調査に関連して、特に支援を行っていない

「 その他 」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

※「④ モニタリング調査についての助言や支援が可能な個人（専門家）の紹介を行う」にご回答の場合には、可能でしたら、具体的な専門家のお名前、ご所属、専門分野を教えてください。

お名前	ご所属	専門分野

平成 29 年度から義務化されたモニタリング調査について、平成 30 年度から令和元年度にかけて、具体的に直面した課題について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- モニタリング調査の方法が妥当であるかどうか判断ができない
- 提案された独自調査が適切であるかどうか判断ができない
- 承認されていない独自調査のみを実施する団体がいる
- モニタリング調査の調査場所が適切であるかどうか判断ができない
- 混み合っていない森林など、モニタリング調査のガイドラインで想定されていない状態の場所を調査場所とする団体がいる
- 初回調査の調査結果が適切であるかどうか判断ができない
- 初回調査に不備があった際の対応方法が分からない
- 活動組織にモニタリング調査の方法を理解してもらうことが難しい
- 活動組織がモニタリング調査に必要な道具を準備することができない
- なぜモニタリング調査が必要であるのかを説明ができない
- 調査方法について助言や指導を行うことのできる地域協議会の担当者がいない
- 調査方法について助言や指導が可能な個人・団体に協力を仰ぐことができない
- 活動組織の決めた数値目標が妥当であるかどうか判断ができない
- 数値目標を決める際の前提となる「活動組織が実現可能な作業量」を評価できない
- 初回調査実施後に、数値目標の達成が難しいと判明した団体にどう指導すればよいのかわからない
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に課題と感じるようなことはない

「その他」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください

## Q17 | モニタリング調査に関連する課題の発生状況

モニタリング調査について、令和元年度の課題の発生状況について教えてください。

当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

- 去年、一昨年に比べ、モニタリング調査に関する課題の量が増えている
- 去年、一昨年に比べ、モニタリング調査に関する課題の量はほぼ変わらない
- 去年、一昨年に比べ、モニタリング調査に関する課題の量は減っている

## Q18 | モニタリング調査に関連する問題とその対応

貴協議会が、モニタリング調査に関連して、他の地域協議会と共有することが望ましいと考えられる印象に残った問題あるいは、対応が難しかった事例について、教えてください。

あわせて、該当する問題に、貴協議会がどのように対応したのかを教えてください。

自由記述にてご記入をお願いします。

他の協議会と共有することが望ましいと考えられる「モニタリングに関する問題」について教えてください（自由記述）

上記の問題を解決するために、貴協議会が行った対応について教えてください。（自由記述）

上記の問題について、具体的に問題が解決できたかどうかについて教えてください。（択一回答）

- ① 解決できた
- ② 解決できなかった
- ③ わからない

平成 30 年度と令和元年度において、貴協議会が所轄管内での活動組織の安全対策を推進するために、活動組織に対して行っている取り組みを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- ① 安全講習会の実施（地域協議会（事務局団体を含む）が主催あるいは共催するもの）
- ② 他団体（自治体等）が主催する安全講習会への参加呼びかけや案内の送付
- ③ 安全装備購入などの安全対策に交付金を利用するように指導
- ④ 保険加入の斡旋
- ⑤ 安全対策の不備が見つかった場合は事情聴取する ※
- ⑥ 安全マニュアルの配布・紹介（※独自に作成したものでなくても構いません）
- ⑦ 記録写真による活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑧ 現地確認の際の活動組織の安全対策の実施状況の確認と指導
- ⑨ 事故情報に関する周知などの安全に関する注意喚起
- ⑩ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑪ 特に安全対策を推進するための取り組みを実施していない

※「⑤安全対策の不備が見つかった場合」については、写真記録などでヘルメット等の安全装備の着用がなかった場合を指します。

「 その他 」に回答の協議会は、具体的な取り組みについて教えてください

平成30年度と令和元年度において、貴協議会が、活動組織で実施される安全講習や森林施業技術向上のための講習を円滑に実施できるようにするために、どのような支援を行っているのかについて、教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 講師の紹介あるいは斡旋
- 講習内容の指導
- 講習に役立つマニュアル等の資料の配布あるいは紹介
- 活動組織内の講師候補向けの安全講習の実施
- 活動組織内の講師候補向けに、他の活動組織の安全講習の紹介、参加呼びかけ
- 地域協議会主催の安全講習会の実施
- 都道府県が実施する安全講習会の紹介
- 市区町村が実施する安全講習会の紹介
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 活動組織に義務づけられた講習に関連して、特に支援を行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

貴協議会から見て、安全講習や森林施業技術向上のための講習を活動組織が進めていくうえで課題と感ずることがございましたら教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 講師の予定者が講師として適任であるかどうか判断がつかない場合がある
- 活動参加者の人数に対して講師の数が少ない
- 講習日の日程調整がうまくいかない団体がある
- 外部講師の所在地が、活動組織の所在地と離れていて認めてよいかわからない
- 活動組織が具体的に何を学ぼうとしているのかわからない
- 活動組織（内部講師）が提案した講習内容が、適切な内容ではなかった
- 活動組織（内部講師）で独自に行う講習が、本当に適切な内容であるかわからない
- どのような条件を満たせば、講習の義務を果たしたと考えてよいかわかっていない
- 活動組織の活動対象地が講習に適した場所ではない場合がある
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に課題と感ずるようなことはない

「その他」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください

平成 30 年度と令和元年度において、活動組織の撮影した写真に関連して、どのような問題や課題が生じたのかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 撮影された写真が少なかった
- 目印がないなどで、森林の状態の変化が分からない状態の写真があった
- 作業日ごとの写真の整理ができていなかった
- 写真がない、あるいは撮影枚数の少ない作業日があった
- 参加人数がわかる集合写真がない場合があった
- 作業前の写真がない場合があった
- 作業中の写真がない場合があった
- 作業後の写真がない場合があった
- 購入物品に関する写真がない場合があった
- 活動場所の遠景写真がない場合があった
- 活動場所の近景写真がない場合があった
- モニタリング結果報告書に必要な写真が不足していた
- 同一日の活動記録に、明らかに違う日に撮影された写真が混在していた
- 作業前後の写真が、明らかに異なる場所となっている写真があった
- 手振れなどで不鮮明な写真が活動記録に利用されていた
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に写真に関連して問題は生じていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください



平成 30 年度と令和元年度において、書類に必要な写真を確保するために、貴協議会が活動組織を対象として行った取り組みについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 説明会等において、写真撮影に関する留意点を説明した
- 書類に関する説明資料で、必要な写真について説明した
- 写真撮影に関する独自の解説資料を作成した
- 写真撮影用看板など、写真整理に利用できる資料（機材）を作成した
- 写真の整理の方法について活動組織に助言した
- 書類に使用する写真について、複数の候補も併せて送るよう指導した
- デジタルカメラを持たない活動組織のために写真の電子データ化（スキャン）をした
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に、写真撮影と写真の整理に関する支援は行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な取り組みについて教えてください

平成 30 年度の年度末における実施状況報告書等の書類提出に関連して、どのような問題や課題が生じたのかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 必要な書類がそろわない
- 活動記録が取られていない日がある
- 書類に添付する写真が適切ではない状態だった（不鮮明であるなど）
- 書類に添付する写真が不足していた
- 本交付金の使途に適切ではない内容があった
- 事前に申請された活動対象地とは異なる場所での作業・活動も含まれていた
- 誤字脱字が多かった
- 計算ミス、計算漏れがあった
- 安全上、不適切な状態を示す写真があった（ヘルメットを着用しないなど）
- 事前に相談がない状態で、モニタリング調査の内容が変更されていた
- 安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習が行われていなかった
- モニタリング調査が実施されていなかった
- 保険への加入がされていなかった
- 災害などのやむを得ない事情により、十分な作業を実施できていない団体があった
- 作業量が申請内容や事前に受けた報告から見て十分といえない団体があった
- 作業区域が申請された計画どおりに実施できていない団体があった
- 締め切りが守られなかった
- 関連の書類について把握している事務担当者に連絡がつかなかった
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に問題や課題は生じていない

「 その他 」に回答の協議会は、具体的な課題について教えてください

平成 30 年度の年度末における実施状況報告書等の関連書類等の円滑な提出に向けて、貴協議会が行った具体的な支援の内容について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 書類作成のための説明会の開催
- 書類作成にあたっての独自の Q&A の作成・公開・配布
- 書類記入例の作成・公開・配布
- 書類作成を指導・支援する別団体の紹介・斡旋
- 地域協議会事務所にて相談が可能な旨の連絡・周知
- 書類作成状況についての事前確認の実施（定期的に活動記録が取られているかなど）
- 提出物に関するリストの作成・公開・配布
- 金銭出納簿についての独自様式（自動計算有など）の作成
- モニタリング結果報告書の独自様式の作成
- と 以外の書類の独自様式の作成
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に問題や課題は生じていない

「 その他 」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

## Q26 | 本交付金終了後の団体の状況の把握状況

貴協議会が、本交付金の活動を終了した活動組織の活動状況についてどれくらいの団体について把握しているのかについて、教えてください。

**当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。**

- 交付金活動終了後の活動組織のほとんどについて活動状況を把握している
- 交付金活動終了後の活動組織の半数程度について活動状況を把握している
- 交付金活動終了後の活動組織のうち一部について活動状況を把握している
- 交付金活動終了後の活動組織の活動状況はほぼ把握していない

## Q27 | 本交付金終了後の団体への支援

貴協議会が、本交付金の活動を終了する活動組織に対して、活動を継続していくための支援を行っているようでしたら、その具体的な内容について教えてください。

**当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。**

- 本交付金以外に活用可能な補助制度を紹介
- 林産物の販売収入に関する情報を提供
- 自立的な活動に向けた協力団体を紹介
- 過去に自立化に成功した活動団体の事例を紹介
- 該当団体の web サイトへのリンクを地域協議会の web サイトに掲載
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に支援は行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な支援の内容について教えてください

本交付金による活動を円滑に進めるために、貴協議会の管轄内の市町村からどのような協力を得ているのかについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 活動組織の申請書類の事前確認／作成支援
- 活動組織の具体的な作業状況の確認
- 活動組織の活動対象地が、森林経営計画の範囲内かどうかの確認
- 活動組織の活動場所の提供、斡旋
- 安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習・指導の実施
- 森林内での作業に対する助言
- 本交付金の募集に関する広報
- 活動組織の活動に関する広報
- 年度末書類（実施状況報告書等）の作成に関する事前確認／作成支援
- 活動組織向けの資機材の貸与
- 森林・林業関係（新たな森林管理制度の取扱い等）の情報の提供
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に本交付金に関連した協力は行っていない

「その他」に回答の協議会は、具体的な協力の内容について教えてください

貴協議会が本交付金の取り組みを行うにあたり、どのような団体や専門家と、どのような内容での協力関係にあるのかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

協力内容 協力団体	書類作成の指導	作業や活動についての助言	安全等の講習の実施	資機材の貸与	広報活動	モニタリング調査の支援	特に協力関係はない
都道府県	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
別の地域協議会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
森林組合	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公益法人、NPO	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学・研究機関（研究者）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他（下括弧に協力相手を記入） （ ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「大学・や研究機関（研究者）」で協力がある旨にご回答の場合で、お名前、ご所属等を教えていただける場合には、以下の記入欄に、具体的なお名前、ご所属、専門分野及び協力内容についてご回答ください（モニタリング調査関連の協力のみの場合、Q15 に記載をお願いします。）

お名前	ご所属	専門分野／協力内容

貴協議会が、本交付金の活動を円滑に進めるために、令和元年度に独自に作成した資料がございましたら、その資料内容と公開状況について教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

資料内容 作成・公開状況	作成している 関連資料を独自に	Webで公開している	印刷物として 配布を行っている
① 本交付金全般についての独自の手引き ※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 本交付金の申請のための独自の募集要項	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 本交付金で必要な書類の記載例	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 必要な書類のチェックリスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 安全対策に関する資料	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ モニタリング調査に関する資料 ※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 活動組織の活動事例集	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 該当の地域協議会独自の Q&A	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ その他 (自由記述欄にご回答ください)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 特に独自に作成している活動組織向けの資料はない	<input type="checkbox"/>		

※「①独自の手引き」もしくは「⑥モニタリング調査に関する資料」を令和元年度に独自に作成しており、webでの公開を行って“いない”場合は、お手数かとは存じますが、アンケートに同封ないしは添付して、(公財)日本生態系協会までお送りいただきますようお願い申し上げます。

「その他」にご回答の協議会は、具体的にどのような資料であることを教えてください。

貴協議会が、本交付金の活動を円滑に進めるために、平成30年度及び令和元年度に実施した説明会や講習会などがございましたら、その具体的な内容について教えてください。

一つの説明会／講習会で複数の内容が含まれる場合には、それぞれの該当する選択肢にチェックを入れてください。例えば、1回の説明会／講習会で、安全講習とモニタリング調査についての勉強会を兼ねている場合には、「④ 森林内での活動についての安全対策」と「⑦ モニタリング調査関係」の双方にチェックを入れてください。

**当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。**

- ① 申請書類の作成
- ② 交付金対象として採択された後の書類作成（実施状況報告書等）
- ③ 動力付き機械（チェーンソー、刈払機など）の利用方法、技能習得
- ④ 森林内での活動についての安全対策（動力付き機械の利用以外。熱中症防止など）
- ⑤ 森林整備の手法（施業方法の考え方、かかり木の処理、大径木の伐採方法など）
- ⑥ 活動事例発表、実際に活動を行っている団体の現地視察会など
- ⑦ モニタリング調査関係
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答ください）
- ⑨ 特に説明会・講習会は実施していない

「その他」にご回答の協議会は、具体的な内容について教えてください。



令和元年度より「教育・研修活動タイプ」が廃止となりました。

これに関連して、貴協議会が把握している、あるいは活動組織から寄せられたご意見より推測できる「教育・研修活動タイプ」の廃止の影響のうち、特に重要であると考えられることについて教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

- 小中学生の森林体験活動を行いにくくなった
- 森林教育・環境教育を行いにくくなった
- 森林作業についての講習が行いにくくなった
- 森林活動に関わる新たな参加者を集めにくくなった
- 活動組織の活動に女性が参加しにくくなった
- 森林活動に関わる全体的な参加者数が減った
- 森林資源を活用した伝統文化に関連する活動がやりにくくなった
- 森林資源の利用（竹や特用林産物等の利用）がやりにくくなった
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に説明会・講習会は実施していない

「その他」にご回答の協議会は、具体的な影響について教えてください。

貴協議会の所轄管内にある活動組織の活動の成果の全体的な傾向として、下記に示す項目に関する進捗状況について、貴協議会から見た印象を教えてください。

横1行ごとに当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

<div style="text-align: center;">進捗状況</div> <div style="text-align: center;">活動の成果</div>	十分取り組みが進んでいる	ある程度取り組みが進んでいる	どちらともいえない	やや取り組みが進んでいない	取り組みが進んでいない	よくわからない
① 活動を行う上での安全性の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 森林管理を行う人材の育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 森林の整備による景観の改善	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林由来の資源の利用の増加	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林・林業に関する理解の向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 地域の(集落)コミュニティの活性化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 関連する人や団体間の連携・協力	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 関連する企業からの支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 活動を継続するための財源の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

平成 30 年度以降の取り組みの中で、他の協議会と共有すべき事例として、貴協議会が運営を行う上で特に苦勞したことについて教えてください。また、その苦勞した問題について、どのように解決をしたのか、あるいは解決ができなかったとすれば、どのような理由によるものかを教えてください。

当てはまるすべての選択肢にチェックを入れてください。

「苦勞したこと」を教えてください。（自由記述）

苦勞したことは（  解決した ・  対応中 ・  解決できなかった ）

当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

「苦勞したこと」をどのように解決したのか、あるいは解決が困難である理由を教えてください。（自由記述）

上記の「苦勞したこと」を解決ないしは予防するために、貴協議会で実施している独自の取り組みがありましたら教えてください。（自由記述）

Q35 | 国に対するご意見、ご要望

本交付金に関連して、今年度以降に国に対して要望することがございましたら教えてください。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。

本年度事業において、全国の活動組織が参考とできるような活動組織に関する取り組みについての現地ヒアリング調査、事例集作成および事例発表会を行います。つきましては、所轄管内にある活動組織のうち、上記の視点から他地域でも参考となる先進的な活動を行っていると考えられる団体を最大3つまで、その理由も併せて教えてください。

**【Q36 に関する注意事項】**

※推薦理由に関する記入欄が不足する場合は、別紙にご記入ください。

※ご紹介いただいた団体の一部につきましては、別途、活動組織に対する現地でのヒアリングを実施させていただく場合がございます。その際には、地域協議会の皆様に、対象となる活動組織への事前連絡や仲介をお願いする場合がございます。ご協力をお願いいたします。

※現地ヒアリングをさせていただいた団体につきまして、本年度以降の活動事例集への掲載や、本年度に実施される活動発表会の候補団体とすることを考えております。ただし、個人情報保護などの観点から、活動組織の代表者ないしは事務担当者の同意がない場合には、活動組織の取り組みの具体的な内容については、活動事例集や一般公開する報告書に掲載いたしません。

※Q36 への回答につきましては、後日、インターネット等で公開する報告書においても結果を掲載することはありません。

(推薦する活動組織その1)

活動組織名	
活動タイプ	<p>※対象となる活動組織が令和元年度に交付金を取得する（予定の）活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</li><li><input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</li><li><input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ</li><li><input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ</li></ul>
推薦理由	<p>※活動組織の選定理由にチェックを入れてください。（いくつでも） ※チェックのない団体についても推薦いただくことが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 活動の自立化に取り組んでいる</li><li><input type="checkbox"/> 森林・竹林の整備において、効果的な活動を行っている</li><li><input type="checkbox"/> 森林・山村のめぐみを活かした地域の活性化に取り組んでいる</li><li><input type="checkbox"/> 書類作成などの事務作業で他団体の模範となる立場にある</li><li><input type="checkbox"/> 具体的な森林作業や安全対策等で他団体の模範となる立場にある</li><li><input type="checkbox"/> モニタリング調査について先進的といえる取り組みを行っている</li></ul> <p>※選定理由とした活動内容を具体的にご記入ください。</p> <div data-bbox="327 1355 1476 2038" style="border: 1px solid black; height: 305px; width: 720px;"></div>

(推薦する活動組織その2)

活動組織名	
活動タイプ	<p>※対象となる活動組織が令和元年度に交付金を取得する（予定の）活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）</p> <p><input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</p> <p><input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</p> <p><input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ</p> <p><input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ</p>
推薦理由	<p>※活動組織の選定理由にチェックを入れてください。（いくつでも）</p> <p>※チェックのない団体についても推薦いただくことが可能です。</p> <p><input type="checkbox"/> 活動の自立化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/> 森林・竹林の整備において、効果的な活動を行っている</p> <p><input type="checkbox"/> 森林・山村のめぐみを活かした地域の活性化に取り組んでいる</p> <p><input type="checkbox"/> 書類作成などの事務作業で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/> 具体的な森林作業や安全対策等で他団体の模範となる立場にある</p> <p><input type="checkbox"/> モニタリング調査について先進的といえる取り組みを行っている</p> <p>※選定理由とした活動内容を具体的にご記入ください。</p> <div data-bbox="327 1326 1476 2011" style="border: 1px solid black; height: 300px; width: 100%;"></div>

(推薦する活動組織その3)

活動組織名	
活動タイプ	<p>※対象となる活動組織が令和元年度に交付金を取得する（予定の）活動タイプにチェックを入れてください。（いくつでも）</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> ① 地域環境保全タイプ「里山林保全」</li><li><input type="checkbox"/> ② 地域環境保全タイプ「侵入竹除去、竹林整備」</li><li><input type="checkbox"/> ③ 森林資源利用タイプ</li><li><input type="checkbox"/> ④ 森林機能強化タイプ</li></ul>
推薦理由	<p>※活動組織の選定理由にチェックを入れてください。（いくつでも）</p> <p>※チェックのない団体についても推薦いただくことが可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 活動の自立化に取り組んでいる</li><li><input type="checkbox"/> 森林・竹林の整備において、効果的な活動を行っている</li><li><input type="checkbox"/> 森林・山村のめぐみを活かした地域の活性化に取り組んでいる</li><li><input type="checkbox"/> 書類作成などの事務作業で他団体の模範となる立場にある</li><li><input type="checkbox"/> 具体的な森林作業や安全対策等で他団体の模範となる立場にある</li><li><input type="checkbox"/> モニタリング調査について先進的といえる取り組みを行っている</li></ul> <p>※選定理由とした活動内容を具体的にご記入ください。</p> <div data-bbox="327 1305 1476 1989" style="border: 1px solid black; height: 300px;"></div>

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました



資料2 活動組織向けアンケート 調査票



## 森林・山村多面的機能発揮対策に係る活動状況についてのアンケート

団体名、団体所在地、アンケート記入者名、連絡先をご記入ください。

団体名			
団体所在地 (市区町村まで)	都・道・府・県	市・区・町・村	
アンケート記入者名			
連絡先	(電話番号) :		
	(Eメールアドレス) :		

- このアンケート調査は、林野庁が実施する森林・山村多面的機能発揮対策事業を活用して森林づくりや地域活性化に取り組む団体（活動組織）の皆様を対象に、各種の活動状況や活動計画の内容をお尋ねし、回答の集計結果を今後の施策提言への活用や、森林づくり・地域活性化に取り組む関係者の皆様のご参考にしていただくことを目的としています。  
ご多忙中のところ誠に恐れ入りますが、アンケート調査へのご協力をお願い申し上げます。
- 本アンケートは、貴団体の森林づくり・地域活性化の取り組みの全体像を把握されている団体の代表者様、ご担当者様などにご記入をお願いいたします。
- 選択式の質問では、あてはまる選択肢のチェック欄 (□) にチェック (☑) をお願いします。
- お忙しいところ恐縮ですが、ご記入後、**令和元年 10月 25日 (金)** までに同封の返信用封筒か Eメールにて、本アンケート用紙をご返送いただくようお願いいたします。
- Eメールでのご回答を希望される場合は、下記調査票ダウンロードサイトにて調査票をダウンロードしていただくか、下記の (公財) 日本生態系協会へご連絡をお願いします。
- ご不明な点がございましたら、下記のお問い合わせ先までご連絡をお願いします。
- アンケート調査票は、本紙を含め 28 ページです。質問数は全 30 問です。
- **別紙の「森林・山村多面的機能発揮に対する効果チェックシート」もご記入の上で、同封あるいは同じ Eメールにてご返送ください。**

<調査委託元>

林野庁

<お問い合わせ及びご回答の送付先>

公益財団法人 日本生態系協会 (担当: 野口、佐久間)

住 所: 〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル

電 話: 03-5951-0244

Eメール: [shinrin2019@ecosys.or.jp](mailto:shinrin2019@ecosys.or.jp)

調査票ダウンロードサイト: <http://www.ecosys.or.jp/activity/granddesign/shinrin.html>

## Q1 | 活動組織の形態

貴団体の形態について教えてください。

当てはまる選択肢に1つだけチェックを入れてください。

- 任意団体（自治会やサークル、親睦会などの法人格のない団体）  
 財団法人・社団法人     NPO 法人     森林組合  
 企業     学校・幼稚園・保育園     その他

## Q2 | 交付金のタイプ

貴団体が平成30年度および令和元年度に取得している本交付金の内容、活動タイプを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

	A 平成30年度	B 令和元年度
① 活動推進費（初年度のみ）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 地域環境保全タイプ 里山林保全活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 地域環境保全タイプ 侵入竹除去、竹林整備活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 森林資源利用タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 森林機能強化タイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 教育・研修活動タイプ	<input type="checkbox"/>	
⑦ 資機材への支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 本交付金を取得していない（しない予定である）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

### Q3 | 活動対象地となる森林

貴団体が本交付金を使った活動の対象としているのは、どのような森林であるのかについて、教えてください。（現在の状態でご回答ください）

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- |                               |  |                                |
|-------------------------------|--|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 針葉樹林 | <input type="checkbox"/> 広葉樹林                  | <input type="checkbox"/> 針広混交林 |
| <input type="checkbox"/> 竹林   | <input type="checkbox"/> その他（自由記述欄にご回答をお願いします） |                                |

「その他」にご回答の場合には、具体的な活動対象地の状態について教えてください

### Q4 | 使用している動力付き機械

本交付金による活動を行うにあたり、平成30年度及び令和元年度に貴団体が利用した動力付き機械について教えてください。

※団体が所有せずに、レンタルして利用しているものも含まれます。

当てはまる選択肢にすべてにチェックを入れてください。

- |   |  |                              |
|---|--|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> チェーンソー           | <input type="checkbox"/> 草刈機（刈払機）              | <input type="checkbox"/> 枝打機 |
| <input type="checkbox"/> チルホール（けん引器具）     | <input type="checkbox"/> チッパー                  | <input type="checkbox"/> 薪割機 |
| <input type="checkbox"/> トラック（小型含む）       | <input type="checkbox"/> その他（自由記述欄にご回答をお願いします） |                              |
| <input type="checkbox"/> 特に動力付き機械は使用していない |  |                              |

「その他」にご回答の場合には、具体的に使用している機械について教えてください

## Q5 | 活動日 1 日当たりの参加人数

平成 30 年度と令和元年度の貴団体が交付金を用いた活動について、“活動日 1 日当たり”で実際に活動に参加されている方のおおよその平均参加人数について年齢層別に教えてください。

※平成 30 年度の「教育・研修活動タイプ」は含めずにご回答ください。

※回答はおおよその数字で構いません。（参加者に年齢等を改めて尋ねる必要はありません。）

横 1 行ごとに当てはまる選択肢に一つだけチェックを入れてください。

年齢 \ 人数	参加なし	1～5人	6～10人	11～20人	21人以上
未成年(20歳未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20～39歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
40～59歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
60～69歳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
70歳以上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## Q6 | 地元住民の参加状況

貴団体の本交付金を用いた活動について、地元住民の方の参加状況について教えてください。

※活動対象地周辺の集落の住民を「地元住民」と考えます。「大字」単位程度で見て、活動対象地と同じあるいは隣接する集落の場合には「活動対象地周辺の集落」と考えてください。

当てはまる選択肢に 1 つだけチェックを入れてください。

- ほぼ 100%が地元住民である
- 75%以上 99%未満程度が地元住民である
- 50%以上 75%未満程度が地元住民である
- 25%以上 50%未満程度が地元住民である
- 地元住民は 25%未満である。



貴団体が本交付金を取得した活動を行う際に、目的としていることを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 景観を良くしたい
- 地球温暖化防止に貢献したい（大気中の CO<sub>2</sub> を減らしたい）
- 地域の生物多様性を守りたい
- 森林から得られる森林資源を活用したい
- 対象となる森林での鳥獣被害を軽減したい
- 対象となる森林周辺の農地等における鳥獣被害を軽減したい
- 森林の近くの道路を安心して通れるようにしたい
- 森林の有する水源涵養機能を守りたい
- 森林で土砂災害等の災害が発生しないようにしたい
- 道路、住宅、農地等への樹木や竹の倒伏・侵入の被害を防ぎたい
- 活動に関係する人々間の交流を深めたい
- 森林を利用した教育活動や自然体験活動を行いたい
- 森林に関連する雇用を生み出したい
- 森林に関わる取り組みと農業との連携を進めていきたい（肥料づくりなど）
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に目標とすることはない

「⑤その他」にご回答の場合には、具体的な目標について教えてください



Q9 | 活動資金の捻出方法

貴団体の、森林における活動を行うための本交付金以外の資金捻出方法について、平成30年度の資金捻出方法と、令和元年度の資金捻出方法（見込含む）を教えてください。

交付金を取得していない年度についてもご回答をお願いします。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

資金捻出方法 \ 年度	A 平成30年度	B 令和元年度
個人からの会費・寄付金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
企業からの会費・寄付金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
インターネット募金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公益法人からの助成金（緑の募金、緑と水の森林ファンドなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
国からの交付金・助成金（※本交付金は除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
都道府県からの交付金・助成金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
市区町村からの交付金・助成金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
企業からの助成金・支援金	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自治会・町内会からの支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
森林から得られる生産物（薪、炭、山菜など）の販売収益	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
イベント・講習会の参加費	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
他の収益事業部門からの収益	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他（自由記述欄にご回答をお願いします）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
特に資金源はない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「⑬その他」にご回答の場合には、具体的な資金捻出方法を教えてください

Q10 | 他団体からの協力

貴団体が本交付金の取り組みを行うに当たり、どのような団体や専門家から、どのような内容の支援を得て活動を行っているのかを教えてください。

横1行ごとに当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

支援を受けた内容 協力団体	A 書類作成	B 森林内での活動 (助言)	C 安全講習	D 資機材の貸与	E 広報活動	F モニタリング調査	G 特に協力関係はない
都道府県	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
市町村	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
地域の森林組合等の林業関係団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
NPO、森林ボランティア団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大学や研究機関（研究者）※	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「大学や研究機関（研究者）」で協力がある旨にご回答の場合で、お名前、ご所属等を教えていただける場合には、以下の記入欄に、具体的なお名前、ご所属、貴団体の構成員か否かについてご回答ください

お名前	ご所属	(専門分野)	貴団体の構成員か否か
			<input type="checkbox"/> 構成員である <input type="checkbox"/> 構成員ではない
			<input type="checkbox"/> 構成員である <input type="checkbox"/> 構成員ではない
			<input type="checkbox"/> 構成員である <input type="checkbox"/> 構成員ではない
			<input type="checkbox"/> 構成員である <input type="checkbox"/> 構成員ではない

本交付金では、申請段階で、いくつかの書類を提出することになります。

申請時の書類提出に当たり、修正指導を受けた書類がございましたら、どのような書類で指導を受けたのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 様式第 9 号 事前着手届（採択決定前着手届）
- 様式第 10 号 活動組織規約（新規参加組織のみ）
- 様式第 10 号 団体への参加同意書（構成員や代表、役員を記載した書類）
- 様式第 11 号 協定書（森林所有者が活動組織以外の場合等）
- 様式第 12 号 活動計画書の「6. 地域活性化への寄与」
- 様式第 12 号 活動計画書の「7. 年度別スケジュール」
- 様式第 12 号 活動計画書の「8. モニタリング調査方法」
- 様式第 12 号 活動計画書の「9. 安全講習等の名称及び内容」
- 様式第 12 号 活動計画書の「12. 計画図（5,000 分の 1 の地図など）」
- 様式第 12 号 活動計画書の「13. その他（1）写真」
- 様式第 12 号 活動計画書の「13. その他（2）収入」
- 様式第 12 号 活動計画書のうち、上記 ～ 以外の内容
- 様式第 13 号 採択申請書の「6. 月別スケジュール」
- 様式第 13 号 採択申請書のうち、上記 以外の内容
- 資機材の購入予定に関する書類
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に指導を受けた書類はない（11 頁の Q13 に移動してください）

「 その他 」にご回答の場合には、具体的に指導を受けた書類を教えてください

Q11 の質問で、申請時の書類作成に当たり、修正指導を受けた経験があると回答した団体にお伺いします。

具体的な修正指示の内容について、教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 交付金の使途に適切ではない内容があった
- 必要な添付書類を用意できなかった／必要な添付書類が不足していた
- 誤字脱字や計算ミスがあった
- 必要箇所についての記載漏れがあった
- 使用した写真が不適切であるといわれた
- 記載内容が交付金を取得するための必要条件を満たしていなかった  
(たとえば、面積や参加人数について交付金の取得条件を満たしていないなど)
- 協定書の内容が適切でなかった
- 森林経営計画が策定された森林が含まれていた
- 内容が交付金の期間中には実現が難しいといわれた
- 安全のために着用する装備が十分でなかった
- 安全講習の内容が適切ではなかった
- 保険に未加入、または、保障内容が不十分であった
- モニタリング調査の内容が適切ではなかった
- その他 (自由記述欄にご回答をお願いします)

「その他」にご回答の場合には、具体的な修正指示の内容を教えてください

本交付金の申請を行う際に苦勞したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 活動計画書など必要な書類を作成することが難しかった
- 活動対象地の面積を算定することが難しかった
- 活動計画図を用意することが難しかった
- 土地の境界が不明でどこまで活動対象地にできるのかわからなかった
- 活動組織の規約を作ることを難しかった
- 名簿（参加同意書）に記載する参加者を集めることが難しかった
- 活動対象地を確保することが難しかった（土地利用協定書の締結が困難 等）
- 活動の候補地が、交付金の要件を満たしているかどうかの確認が難しかった
- どのような保険に加入すればよいのかわからなかった
- どのようなモニタリング調査を選べばよいのかわからなかった
- 希望する森林づくりの目的に適したモニタリング調査方法がガイドラインになかった
- 地元の市町村から有効性、妥当性の同意を得ることが難しかった
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に苦勞したことはない（13 頁の Q15 に移動してください）

「 その他 」にご回答の場合には、具体的に苦勞したことを教えてください

申請を行う際に苦労したことについて、どのように解決したのかについて教えてください。  
また、他団体に相談をすることで、問題を解決している場合には、具体的な相談内容のうち、主なものについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 地域協議会に相談した
- 都道府県（地方事務所を含む）に相談した
- 市町村に相談した
- 他の市民団体や活動組織に相談した
- 学識経験者など、関連の問題に知見を持つ個人（専門家）に相談した
- 活動組織の構成員のみで解決した
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- いまだ問題は解決できていない

～ など、他団体に相談をした場合には、具体的な相談内容について教えてください

「その他」にご回答の場合には、具体的にどのように解決したのかを教えてください

本交付金に関連して、実際に活動を行う上（モニタリング調査を除く）で苦労したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 活動記録の作成が難しい
- 作業時における写真撮影（集合写真、作業前、作業中、作業後）が難しい
- 作業写真整理帳の作成が難しい
- 金銭出納簿の作成（領収書の整理含む）が難しい
- 作業員・参加者の人数の確保ができない
- 必要な技術を持つ作業員・参加者の確保ができない
- 交付金をどのような用途で利用できるのかが分からなかった
- 活動資金が不足している
- 資機材・安全装備を用意できない
- 作業中・活動中に病人・けが人が発生した
- 周辺の物品（家屋や電柱・電線等）の破損事故が生じた
- 急傾斜地など、活動対象地の地形的な理由で作業が難しい
- 対象地においてシカやイノシシ等による鳥獣被害が生じた
- 大雨、地震、台風等により、活動対象地で倒木や斜面崩壊等の被害が生じた
- 活動組織内の人間関係でうまくいかないことがあった
- 活動組織内で、目指す森林の目標像が一致しなかった
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に苦労したことはない（15 頁の Q17 へ移動してください）

「その他」にご回答の場合には、具体的に苦労したことを教えてください

Q15 の質問で、活動の際に苦勞したことがあると回答した団体にお伺いします。

実際に活動を行う上（モニタリング調査を除く）で苦勞したことについて、どのように解決をしたのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 地域協議会からの支援を受けた
- 都道府県（地方事務所を含む）からの支援を受けた
- 市町村からの支援を受けた
- 他の市民団体や活動組織からの支援を受けた
- 学識経験者など、関連の問題に知見を持つ個人（専門家）からの支援を受けた
- 自治会や町内会などの地縁団体より支援を受けた
- 企業からの支援を受けた／企業に業務委託をした
- 森林組合からの支援を受けた／森林組合に業務委託をした
- 活動組織の構成員のみで解決した
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- いまだ問題は解決できていない

「 その他 」にご回答の場合には、具体的な解決方法を教えてください



本交付金による作業を行うにあたり、具体的にどのような安全対策を行っているのかについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 作業実施前に活動参加者間で注意事項の確認をしている
- 参加者全員が森林内に入るときにはヘルメットを着用する
- 参加者全員が長袖・長ズボンの作業に適した服装をする
- 動力付き機械を使用する際は必ず、関連した安全装備を装着する
- 機械・工具のメンテナンスを適切に行う
- 機械・工具は、外部の安全講習会へ参加するなど適切な使い方を学んだうえで利用する
- 活動の際には必ず救急用医薬品を用意する
- 熱中症対策のための飲料を用意する
- 活動対象地周辺における緊急時のための病院の場所や連絡先を把握している
- 応急手当／応急処置の講習を受けたものが作業に参加している
- 参加者全員が対象となる形で、傷害保険に加入している
- 賠償責任保険に加入している
- 木を倒すなどの危険作業時には、危険範囲内に人がいないことを確認する
- 指さし安全確認を行っている
- 参加者に対象森林内の危険生物（クマ、ハチ、ヘビ等）についての周知を行う
- 作業終了後に、安全上、ヒヤリ・ハットしたことがないかを参加者間で確認する
- 悪天候時に作業を中止するなど、最新の気象情報を把握するようにしている
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に安全対策は行っていない

「その他」にご回答の場合には、具体的な安全対策の内容を教えてください

本交付金では、安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習を行うことが義務付けられています。

平成 30 年度および令和元年度に実施した（予定含む）、安全講習や森林施業技術の向上に向けた講習の内容について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 安全装備の着用および安全装備が必要な理由
- ② 動力付き機械（チェーンソー、刈払機など）の使用方法
- ③ 動力付き機械（チェーンソー、刈払機など）の点検・メンテナンス方法
- ④ 手工具（ノコギリ、鉋、鎌など）の使用方法
- ⑤ 手工具（ノコギリ、鉋、鎌など）の点検・メンテナンス方法
- ⑥ 樹木の伐倒時の安全対策
- ⑦ 樹木の運搬時の安全対策
- ⑧ 森林内の危険生物（クマ、イノシシ、ハチ、ヘビ、ツタウルシ等）対策
- ⑨ 急病や負傷時の応急措置
- ⑩ 熱中症対策
- ⑪ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑫ まだ、安全講習の内容は決まっていない

「その他」にご回答の場合には、具体的な講習（予定）の内容を教えてください

貴団体が、平成30年度及び令和元年度に実施した（予定含む）モニタリング調査の内容について、教えてください。

多数の調査を実施している場合には、「モニタリング結果報告書」に記載予定の調査について教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 木の混み具合調査（相対幹距比調査）
- 木の混み具合調査（間伐率調査）
- 木の混み具合調査（胸高断面積調査）
- 植生調査（下層植生調査）
- 萌芽再生率調査
- 樹木の本数調査
- 見通し調査
- 苗木の活着状況調査
- 竹の本数調査
- 木材資源利用調査
- 特用林産物等利用量調査
- 植生調査（植栽木の成長量調査）
- その他 （自由記述欄にご回答をお願いします）
- 活動計画書と異なる調査を行うが、まだ具体的な調査方法は決まっていない

「その他」にご回答の場合には、具体的なモニタリング調査の内容を教えてください

貴団体が、モニタリング結果報告書に記載するためのモニタリング調査を選ぶにあたり、どのような理由で選んだのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 目指す森林づくりの進捗状況を把握する上で適切であったため
- 地域協議会より勧められたため
- 具体的に必要な作業量が分かりやすかったため
- 交付金取得期間中に数値で結果を示すことができる見込みが大きかったため
- 調査の仕方が分かりやすかったため
- 調査に当たっての作業負担が少ないと考えられたため
- もともと該当の調査を実施していたため
- 他の活動組織が実施しているので、相談等がしやすかったため
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 活動計画書と異なる調査を行うが、まだ具体的な調査方法は決まっていない

「その他」にご回答の場合には、具体的な理由を教えてください

実際にモニタリング調査を実施するにあたり、貴団体が苦勞したことを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- モニタリング調査を行うのに必要な資機材がない、あるいは不足していた
- モニタリング調査を行うのに必要な人手が不足していた
- モニタリング調査の目的や必要性の理解を構成員内で共有することが難しかった
- モニタリング調査を行うのに必要な技術がなかった
- モニタリング調査を行うのに必要な専門知識がなかった（樹種名がわからないなど）
- 何を対象として調査を行えばよいのかわからなかった
- どのように数値目標を決めればよいのかわからなかった
- 想定される作業量からみて、実現可能な数値目標の設定が難しかった
- 過大な数値目標を立ててしまい、目標を達成するのに必要な作業負担が大きかった
- 調査対象地がモニタリング調査を行うことができるような状態になかった
- 調査区（円形調査区、方形調査区）の面積が広すぎて負担が大きかった
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特にモニタリング調査で苦勞したことはない（21 頁の Q23 に移動してください）
- まだモニタリングの初回調査を実施していない（21 頁の Q23 に移動してください）

「 その他 」にご回答の場合には、具体的に苦勞したことを教えてください

Q21 の質問で、モニタリング調査を行うために、苦労したことがあると回答した団体にお伺いします。

モニタリング調査で苦労したことについて、どのように解決をしたのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 地域協議会の助言・支援を受けた
- 地域協議会より調査について詳しい方の斡旋・紹介を受けた
- 都道府県（地方事務所を含む）からの助言・支援を受けた
- 市町村からの助言・支援を受けた
- 大学や研究機関等からの助言・支援を受けた
- 調査について経験や知見を持つ別の団体の助言・支援を受けた
- 調査について経験や知見を持つ個人（専門家）の助言・支援を受けた
- 外部の講習会等を通じて、活動組織の参加者の能力や知識を高めることで対応した
- 他の助言・支援を受けずに、活動組織内での努力で対応した
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- まだ、モニタリング調査で森林・竹林の状態を把握することができていない

「その他」にご回答の場合には、具体的な解決方法を教えてください

本交付金の活動を行うにあたっては、いくつかの場面で、写真撮影が必要となります。

写真撮影および写真の整理に関連して、過去に指導を受けた経験がある場合には、どのような理由で指導を受けたのかについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 必要な写真が不足していた
- 作業前、作業中、作業後の写真が同じ場所かどうかの判別がつかない状態だった
- 写真の整理ができていなかった
- いつ撮影した写真なのか判別できなくなった
- 手振れ等で、写真が状況を判別できる状態ではなかった
- 写真の解像度が荒すぎた
- 看板や目印など、写真撮影の際に必要とされるものが写っていない※
- 縮小や加工等で画像を改変した結果、該当の日付の写真ではないと判断された
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に写真撮影で指導を受けたことはない

※ の「看板や目印」については、地域協議会ごとに指導している内容が異なる場合があります。  
都道府県によっては、看板などは写真撮影時に必須でない場合があります。

「 その他 」にご回答の場合には、具体的な指導の内容を教えてください

写真撮影および写真の整理に当たって、苦労したことについて教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 参加者がバラバラに集まるなど、作業前の集合写真が撮りづらい
- 写真撮影係を確保できない（参加人数が少ない）ため、作業中の写真が撮れない
- 参加者がバラバラに解散するなど、作業後の集合写真が撮りづらい
- 写真を撮る際に安全を確保しにくい場所がある（急傾斜など）
- どの場所からどのような写真を撮ればよいのかわからない
- 被写体となるものが多すぎて、どこにピントを合わせればよいのかわからない
- 作業前と作業後の差が分かるようにするための目印になるようなものがない
- 手振れやピンぼけなどで不鮮明な写真が生じている
- パソコンの不具合などで、写真の電子データが消えてしまった
- 「作業写真整理帳」「モニタリング結果報告書」などの必要な書類の様式に、撮影した写真のデータを貼り付けることができない
- 撮影した写真の整理が難しい
- 撮影した写真を保管する場所がない
- フィルム式カメラを使っているので、現像するまで使えるかどうかかわからない
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に写真で苦労したことはない

「その他」にご回答の場合には、具体的に苦労したことを教えてください



写真撮影および写真の整理に当たって、問題が生じないように工夫をしていることがございましたら、教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 写真撮影係を毎回決めている
- ② 撮影した写真は撮影日ごとにフォルダに分けて整理している
- ③ 撮影する写真についての情報を記した看板等と一緒に撮影している
- ④ 複数の参加者が写真を撮るようにしている
- ⑤ できる限り多くの写真を撮るようにしている
- ⑥ 必要な写真に漏れがないかどうかについて、現地で確認をしている
- ⑦ 作業前、作業後の写真撮影に際しては、同じ場所で撮影するように目印をつけている
- ⑧ その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- ⑨ 特に写真撮影で工夫していることはない

「その他」にご回答の場合には、具体的に工夫していることを教えてください

**次ページの Q26 から 27 ページの Q29 までは、平成 30 年度に交付金を取得した団体の皆様を対象とした質問です。令和元年度より交付金を取得した団体の皆様は、最終ページ（28 ページ）の Q30 に移動してください。**

**平成 30 年度に交付金を取得した団体にお伺いします。**

本交付金では年度末に、実施状況報告書などの書類を提出することになります。

年度末に提出する関連書類で、修正の指示を受けた書類がございましたら、どの書類で修正指示を受けたのかを教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- ① 様式第 17 号 活動記録
- ② 様式第 17 号 (別添 1) 作業写真整理帳
- ③ 様式第 17 号 (別添 2) 作業写真整理帳 (デジカメ写真の場合で主要でないもの)
- ④ 様式第 18 号 金銭出納簿
- ⑤ 様式第 19 号 モニタリング結果報告書
- ⑥ 様式第 20 号 実施状況報告書
- ⑦ 様式第 20 号 (別紙) 実施状況整理票
- ⑧ その他 (自由記述欄にご回答をお願いします)
- ⑨ 特に年度末に提出する書類で修正の指示は受けてはいない  
(26 頁の Q28 に移動してください)

「その他」にご回答の場合には、具体的な修正指示を受けた書類を教えてください

Q26 の質問で、年度末に提出する関連書類作成に当たり、修正・指導を受けた経験があると回答した団体にお伺いします。

具体的な修正や指導の内容について、教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 提出書類が不足していた
- 必要事項の記入漏れがあった
- 計算間違いがあった
- 名簿や領収書などの必要な添付書類が不足していた
- 領収書等の必要な書類に不備があった（日付等が正しく記載されていないなど）
- 必要な写真が不足していた（写真の添付漏れがあった）
- 適切な写真が使われていなかった（写真が不鮮明で証明用の資料にならないなど）
- 書類の内容と写真の内容が合っていなかった（作業日と写真の日付が異なるなど）
- 本交付金の対象とならない活動や物品を含めていた
- 活動記録や金銭出納簿などの書類間の記載内容の整合性が合っていなかった
- 提出期限に遅れた
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）

「その他」にご回答の場合には、具体的な指導の内容を教えてください

平成 30 年度に交付金を取得した団体にお伺いします。

年度末に提出する関連書類の作成に当たり、苦労したことについて、教えてください。

当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。

- 必要な書類（添付書類含む）が何かわからなかった
- 領収書など必要な書類の保管・整理が難しかった
- 必要な写真を用意するのが難しかった
- フィルム式のカメラを使っているため、報告書様式に合わせるのが難しかった
- パソコンの利用が分からなかった（慣れていなかった）ため、書類作成に苦労した
- 活動日数が多いため、記述する内容も多数で書類作成の負担が大きかった
- 作業写真整理帳などに掲載（利用）できる写真が少なかった
- 金銭出納簿などで必要な計算が難しかった
- 本交付金の対象となるのかどうかの判断が難しい内容があった
- 年度末の書類をまとめる際に必要な記録を十分に取っていないかった
- 書類作成を行うことのできる構成員が少なかった
- モニタリング調査など、必要な作業を必要書類作成時点で実施していなかった
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 特に苦労したことはなかった（28 頁の Q30 に移動してください）

「その他」にご回答の場合には、具体的に苦労したことを教えてください

**Q28の質問で、苦労したことがあると回答した団体にお伺いします。**

年度末に提出する関連書類の作成に当たり、苦労したことについて、どのように解決したのかを教えてください。

他団体に相談をして解決した場合には、その相談内容について教えてください。

**当てはまる選択肢すべてにチェックを入れてください。**

- 地域協議会に相談した
- 都道府県（地方事務所を含む）に相談した
- 市町村に相談した
- 他の市民団体や活動組織に相談した
- 学識経験者など、関連の問題に知見を持つ個人（専門家）に相談した
- 活動組織の構成員のみで解決した
- その他（自由記述欄にご回答をお願いします）
- 結局、課題は解決できないままだった

～ など、他団体に相談をした場合には、具体的な相談内容について教えてください

「その他」にご回答の場合には、具体的にどのように解決したのかを教えてください

本交付金事業全般あるいは地域協議会に対するご意見ご要望がございましたら、ご記入ください。

また、本アンケートに添付されている、効果チェックシートについて、記入を行う上で、気になった点などがございましたら、併せてご意見などをいただければ幸いです。

自由記述にてご回答ください。回答は任意です。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました

資料3 活動組織補足調査 調査票





## 森林・山村多面的機能発揮対策交付金の活動による効果を

### 「お金の価値に換算して評価」することに関するアンケート

- 森林・山村多面的機能発揮対策交付金のような国の経費には、税金が使われています。そのため、それによって本当に効果があったのか、その結果を国民の皆様を示すことが求められています。効果があったことを示すことができないと、国の予算を査定している財務省との協議で、この交付金の予算が削減されてしまったり、場合によっては事業そのものが廃止されてしまうことがあります。
- このようなことから、本交付金を活用した森林整備活動の効果を客観的に数字によって示すことなどを目的として、平成 29 年度からモニタリング調査が導入されました。しかしながら、本交付金による効果（プラスの影響）は、モニタリング調査で調べることができる森林の状態の改善以外にも、景観の改善や獣害被害の防止など、多様な効果があるところです。
- 本交付金の効果や重要性については、できるかぎり客観的に示すことが、この交付金を今後も継続させていく上で、とても重要となっています。
- 現在、チェックシート等を利用して、モニタリング調査では調べることができない本交付金の効果を、客観的に評価する方法等を検討しています。その際、可能な限り、活動組織の皆様にとっても、目標管理やモチベーションの向上などに役立つ内容にすることができればと考えています。
- 今回、皆様へのヒアリング記録をもとに、皆様の本交付金を通じた活動の効果について、お金の価値に換算して評価する取組を行いました。皆様に今回の調査結果で得られた結果について、ご報告いたしますので、今後の活動の参考としてご活用いただければ幸いです。
- 今回お送りする結果に関連して、今後の評価方法の検討のために、皆様より、活動の効果をお金の価値に換算して評価する方法について、ご感想やご意見をお伺いできればと考えています。
- お忙しい中大変お手数かと存じますが、可能な範囲で、ご記入をいただければと思います。なにとぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

---

Q 1：皆様の活動の効果をお金の価値に換算して評価するために、「活動・打合せの参加人数」「活動・打合せの平均時間」、「活動・打合せの年間回数」「メディアでの掲載回数」「イベント実施回数」「整備面積」をお伺いいたしました。今回お伺いした内容について、回答のための負担について、次の選択肢から一つだけ選んでご回答ください。

---

- とても負担が大きかった
- 負担が大きかった
- どちらともいえない
- 負担は小さかった
- ほとんど負担は感じなかった

---

Q 2 : 今回皆様にお配りした皆様の活動の効果をお金に換算した評価結果について、その金額は高いと感じましたか、それとも低いと感じましたか。一つだけ選んでご回答ください。

---

- 自分たちの活動の評価としては、とても高い金額（過大評価）だと感じた
  - 自分たちの活動の評価としては、高い金額（過大評価）だと感じた
  - おおむね妥当な金額であると感じた
  - 自分たちの活動の評価としては、低い金額（過小評価）だと感じた
  - 自分たちの活動の評価としては、とても低い金額（過小評価）だと感じた
  - 高いか低いか、よくわからない
- 

Q 3 : 皆様の活動の効果をお金に換算した評価結果をみて、今後の活動内容等に活かしていきたいと感じましたか。当てはまるものすべてにご回答ください。

---

- 活用していきたい
  - どちらともいえない
  - 特に活用したいとは思わない
  - よくわからない（どう活用すればよいのかわからない）
- 

Q 4 : 今後、皆様の活動の効果をお金に換算した評価を続けるとした場合、追加で評価の対象にしてほしいと感じたことについて、自由記述にてご回答ください。  
特にない場合には、空欄のままで、次の質問に移動してください。

---

---

Q 5 : 皆様の活動の効果をお金に換算した評価結果について、どのように活用・利用したいと思われましたか。当てはまるものすべてにご回答ください。

---

- 都道府県、市町村などの行政への説明資料に使いたいと思った
- 活動組織の内部で、自分たちの活動の意義を確認するために使いたいと持った
- 別の参加者を集めるための資料として使いたいと思った
- 本交付金とは別の交付金・助成金等に応募する際に使いたいと思った
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- どのように活用・利用できるかはまだわからないが、何かに使えそうだと思う
- 活用・利用をする意思はない

---

Q 6 : 皆様の活動の効果をお金に換算した評価結果について、不満や懸念などがございましたら教えてください。当てはまるものすべてにご回答ください。

---

- 結果について信用できるものなのかわからない（計算根拠がわからない）
- 本交付金での活動の効果について、十分に評価できているとは思えない
- お金に換算した評価では、どのように活動を改善すればよいのかわからない
- お金に換算した評価をもらっても、どのように利用すればよいのかわからない
- お金に換算した評価の内容が難しい
- 自分たちで計算できるようにしてほしい
- お金に換算した評価を行う理由が良くわからない
- その他（自由記述欄にご回答ください）
- 特に不満や懸念は感じない
- 内容が良くわからず、不満や懸念を考えるための情報が不足している

---

Q7：今回の活動の効果をお金に換算した評価について、仮に、今後、すべての団体を対象として実施していくこととした場合、どのように思われますか。

---

- すべての団体を対象として実施したほうが良いと思う
  - 希望する団体に限定して実施したほうが良いと思う
  - 今の内容であれば、お金に換算した評価を行う意義を感じない
  - お金に換算した評価そのものを行う意義を感じない
  - わからない（賛成とも反対ともいえない）
- 

Q8：皆様の活動の効果をお金に換算した評価に関連して、貴団体が林野庁に要望することについて、自由記述にてご回答ください。

※今後の評価方法の検討のための参考情報とさせていただきたいと思いますので、今回の経済価値評価や、10月にアンケートとともに実施した「効果チェックシート」に関連する内容についても、ご記入をいただければ幸いです。

---

アンケートは以上です。ご協力いただきありがとうございました。

資料 4 現地検討会 配布資料



令和元年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業  
現地検討会 次第

日時：令和元年 9月 20日（金）

13:00～16:50

場所：しずおか里山体験学習施設  
遊木の森（静岡県静岡市）

【概要紹介：@遊木の森 あずまや】

13：00 開会あいさつ（林野庁）

13：05 参加者紹介・本日の流れ説明（事務局）

13：15 遊木の森の紹介[施設概要、森林管理に係る考え方・取組み]（静岡県・しずおか環境教育研究会）

13：25 遊木の森の植生・特性等について（静岡大学 小南教授）

13：40 モニタリング調査及び同調査結果報告書の問題点等を共有（事務局）

【現場確認・意見交換：@遊木の森 フィールド】

（フィールド内へ移動）

14：00 現地の状況をみながら参加者による意見交換

*サイト1（人の手が入っていない箇所）へ移動*

1. 小南先生による説明(15分程度)

2. 質疑・意見交換（35分程度）

*サイト2（人の手が入っている箇所）へ移動*

1. 小南先生による説明(15分程度)

2. 質疑・意見交換（30分程度）

【振りかえり・まとめ：@遊木の森 あずまや】

15：50 モニタリング調査に係る課題と解決策について参加者による意見交換

16：50 閉会あいさつ（林野庁）

現地解散 送迎必要な方を静岡駅まで送迎

< 配布資料 >

資料1：現地検討会次第

資料2：参加者名簿

資料3：小南先生説明資料

資料4：小南先生説明資料（補足資料）

資料5：モニタリング調査及び同結果報告書の問題点

資料6：現地検討会アンケート

令和元年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 現地検討会  
参加者名簿

(都道府県)

河合 征彦	静岡県	くらし・環境部環境局	環境ふれあい課長
橘川 涉	静岡県	環境ふれあい課	自然ふれあい班長
木田 倫裕	静岡県	くらし・環境部環境局	環境ふれあい課
石川 圭美	静岡県	中部農林事務所	森林整備課 主事
満井 千鶴人	滋賀県	琵琶湖環境部	森林政策課

(地域協議会)

花市 和宏	いしかわ森林・山村多面的機能発揮対策協議会
松本 豊	公益財団法人 静岡県グリーンバンク 常務理事
上村 哲代	公益財団法人 静岡県グリーンバンク 臨時職員
速見 昌宏	兵庫県森林組合連合会
二宮 知彦	公益財団法人 森林ネットおおいた

(関係団体)

柴崎 千賀子	認定 NPO 法人 しずおか環境教育研究会
今永 正文	NPO 法人 ホールアース研究所
馬場口 勝彦	NPO 法人 ホールアース研究所

(講師)

小南 陽亮	静岡大学 教育学領域 理科教育系列 生物学分野 教授
-------	----------------------------

(検討委員会委員)

森本 淳子	北海道大学大学院 農学研究院 准教授
原田 明	一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構

(林野庁)

木下 仁	林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 室長
山本 満久	林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 課長補佐
松本 全弘	林野庁 森林利用課 山村振興・緑化推進室 指導係長

(事務局)

松浦 重徳	(公財) 日本生態系協会 事務局長
亀田 聡	(公財) 日本生態系協会 グランドデザイン総合研究所 副所長
野口 剛嗣	(公財) 日本生態系協会 主任研究員
佐久間 元成	(公財) 日本生態系協会 主任研究員



**令和元年度森林・山村多面的機能發揮対策評価検証事業  
現地検討会 講座資料**

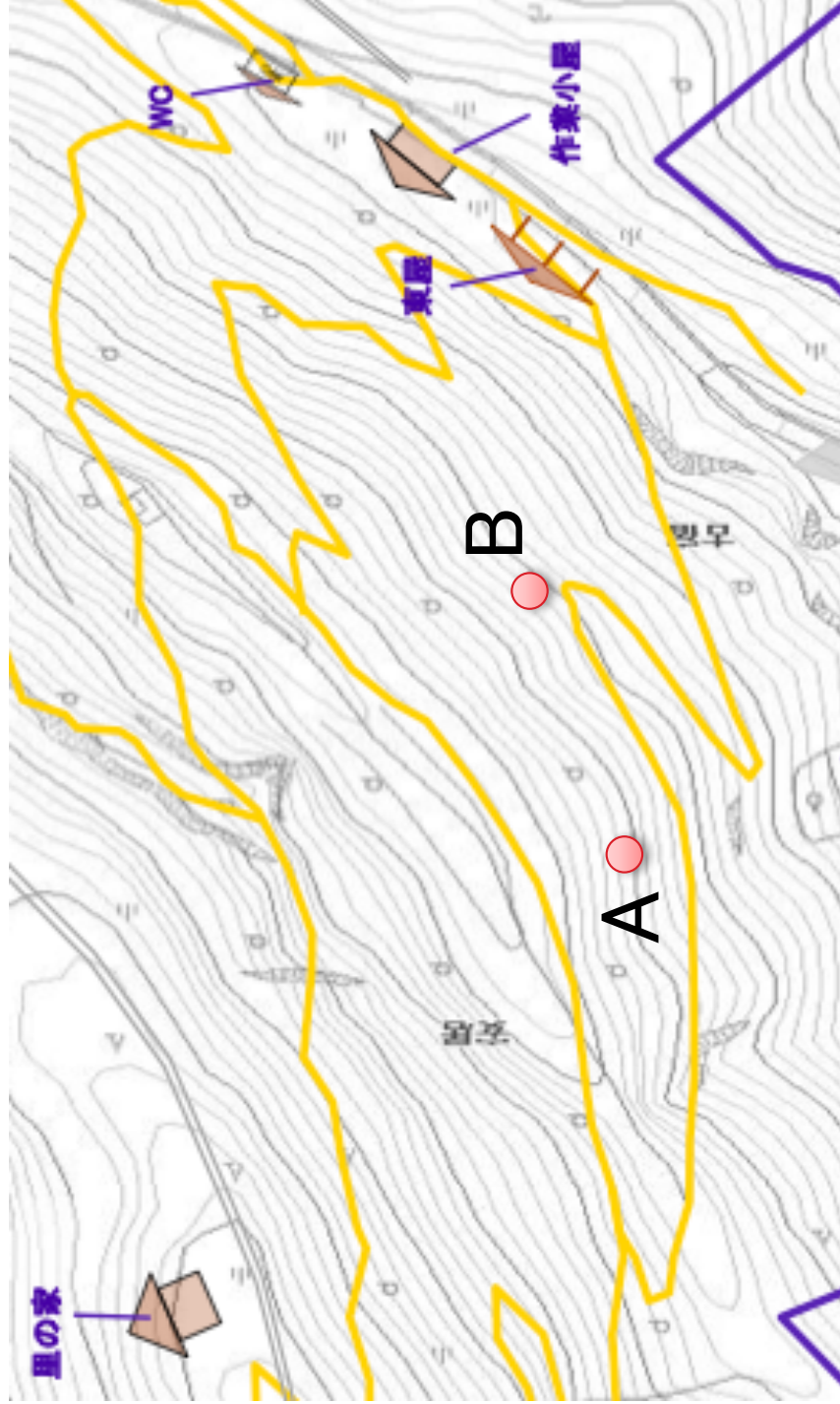
令和元年9月20日

小南 陽亮 静岡大学教授

## 遊木の森がある有度山の地形・地質・気候

- 有度山：静岡平野の海側に位置する標高が約300m、東西・南北とも約6kmの半円状をした丘陵
- 丘陵部分の地質の多くは、久能山礫層（およそ13～20万年前の安倍川河口付近に形成された扇状地の堆積物）
- 静岡市の年平均気温は16.5℃、年間降水量は2325mmで、気候帯としては暖温帯
- 潜在自然植生は、タブノキ、スダジイなどで構成される照葉樹林（常緑広葉樹林）

## 調査区



20m × 20mの調査区を、常緑樹が多くなりつつある林分Aと比較的明るい林分Bの2箇所を設定

航空写真

1961年





航空写真

1975年



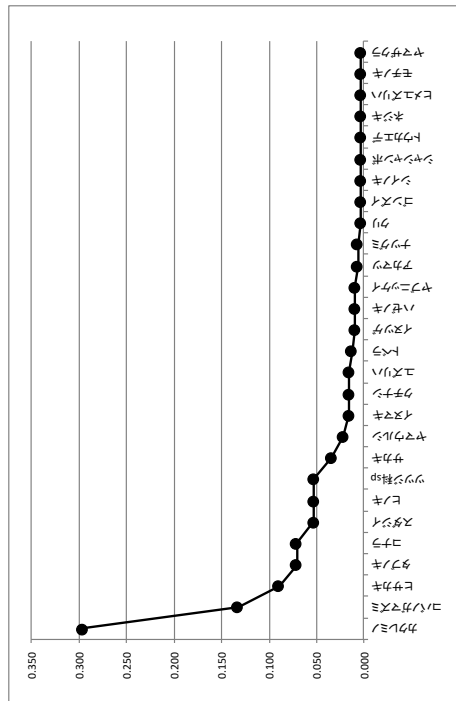
航空写真

2009年

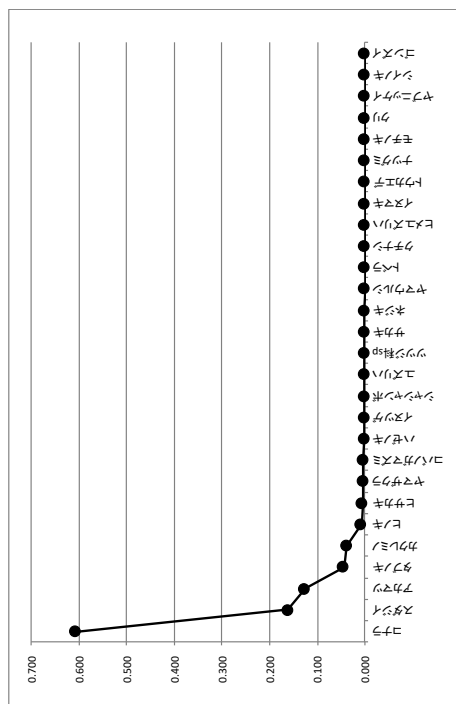


# 遊木の森における森林の構造と動態

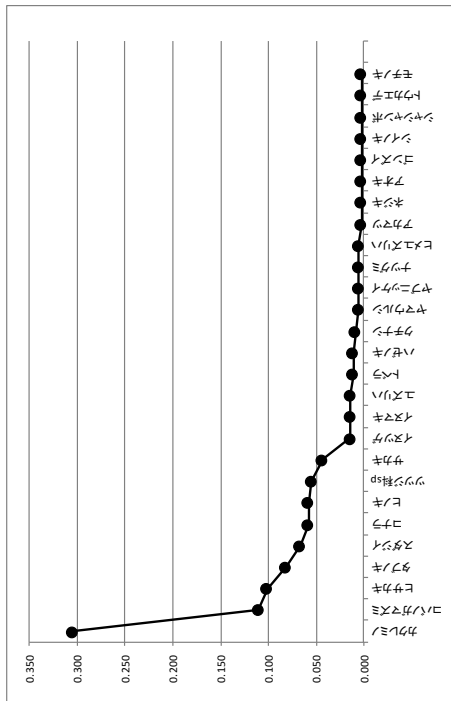
調査区A 2013 本数



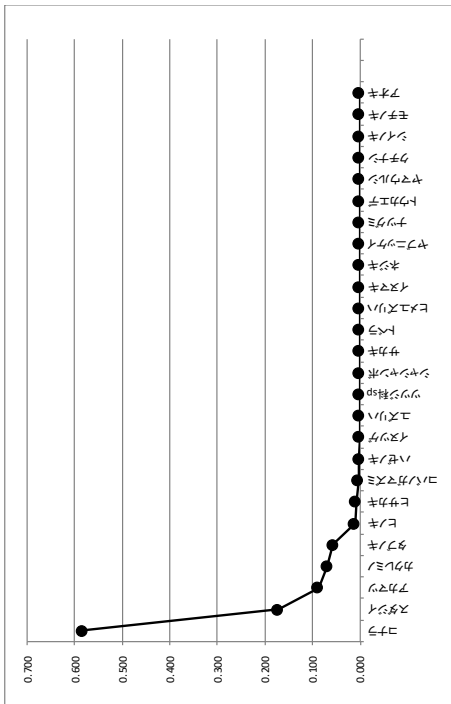
調査区A 2013 胸高断面積合計



調査区A 2016 本数



調査区A 2016 胸高断面積合計







## 遊木の森における森林の構造と動態

- 調査区 A では、2013年～2016年にかけて群集構造に大きな変化はみられなかった
- 調査区 A では、胸高断面積合計で評価すると、コナラが最優占しているが、本数では、カクレミノ、ヒサカキ、タブノキ、スダジイなどの常緑樹が優占しつつある
- 調査区 B では、2013年～2016年にかけてコナラが最優占する点は同じであったが、本数ではコナラが衰退し、樹高1.3m以上の樹種が増加した
- 調査区 B では、タブノキ、カクレミノなどの常緑樹が増加する兆候がみられた

## 遊木の森における森林の構造と動態

### 多様性指数の変化

	調査区A		調査区B	
	2013	2016	2013	2016
本数				
Simpson	0.87	0.86	0.80	0.90
Shannon-Wiener	1.07	1.06	0.89	1.18

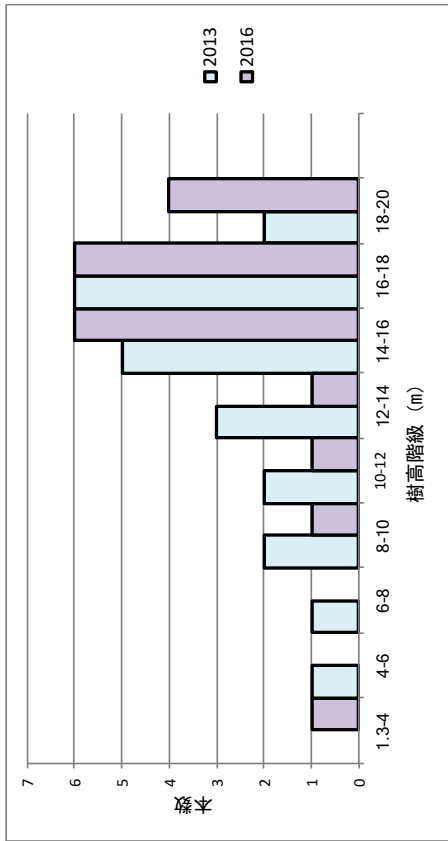
### 胸高断面積合計

Simpson	0.59	0.61	0.37	0.41
Shannon-Wiener	0.55	0.59	0.36	0.42

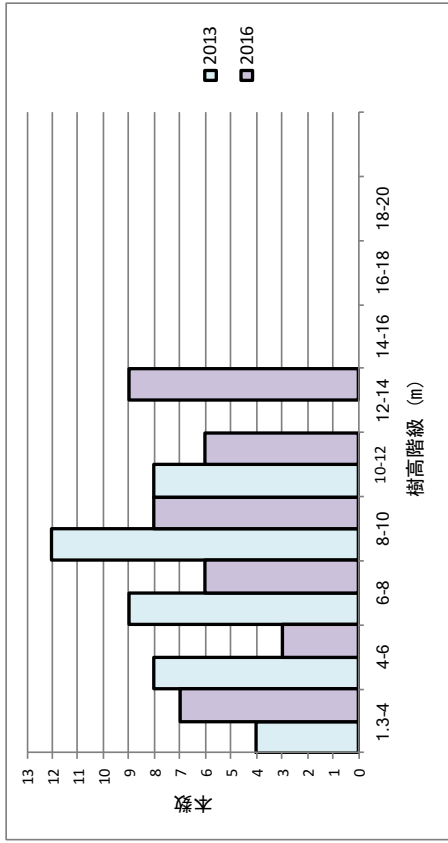
調査区Bでは、多様性の増加がみられた

# 遊木の森における森林の構造と動態

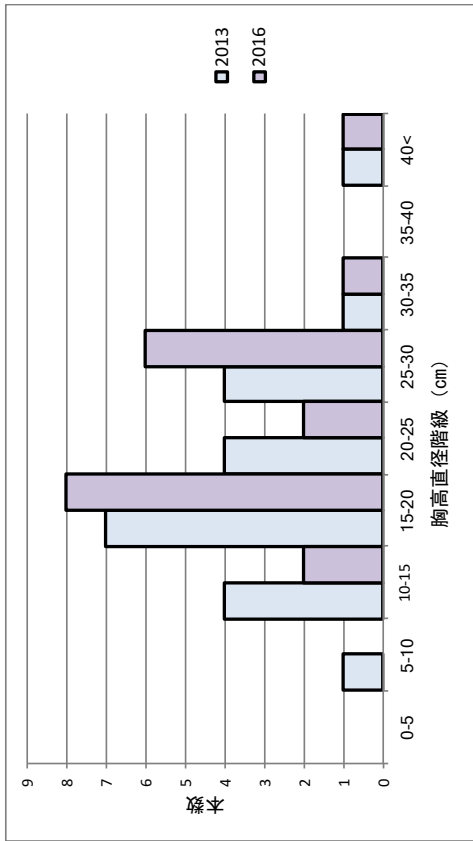
調査区A コナラ 樹高分布



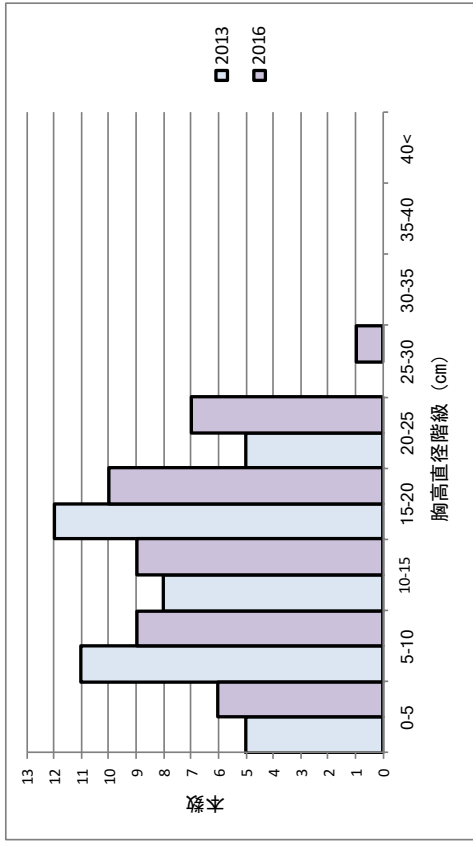
調査区B コナラ 樹高分布



調査区A コナラ 胸高直径分布



調査区B コナラ 胸高直径分布

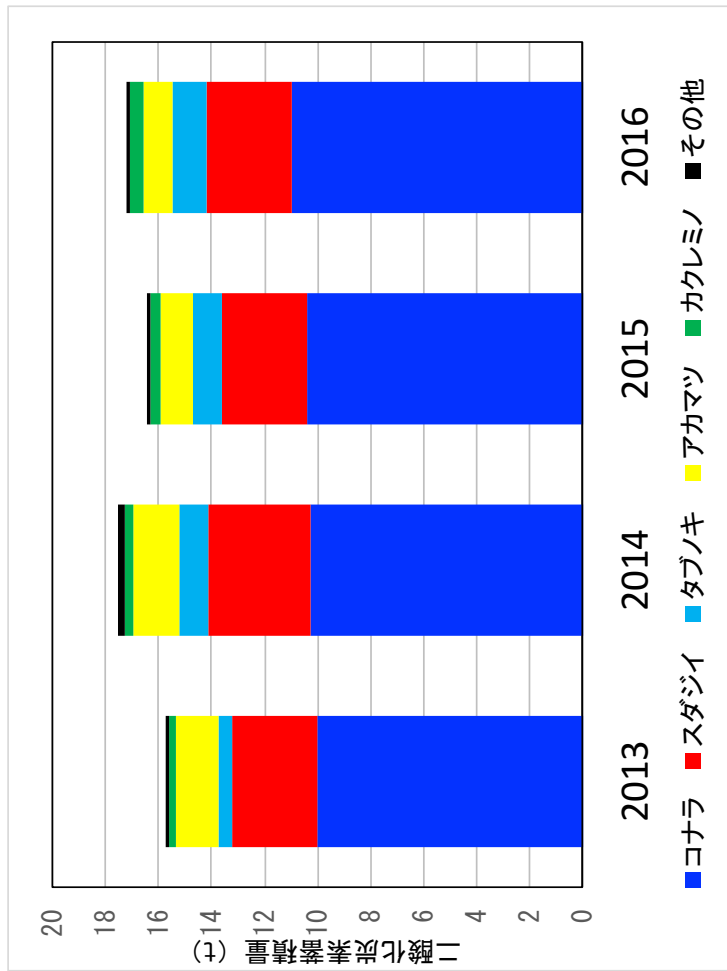


## 遊木の森における森林の構造と動態

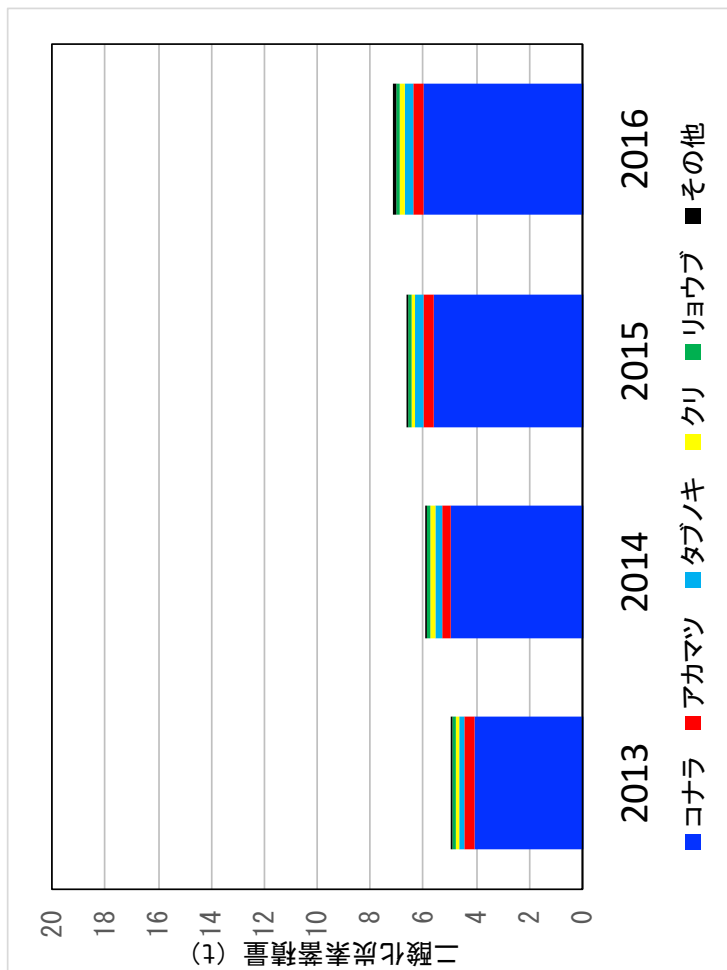
- 調査区Aのコナラは、大型の個体がほとんどを占め、後継樹が更新していない状況
- 調査区Bのコナラは、Aと比べて若い個体が多いが、今後Aと同様な状態に推移すると予想される
- 調査区AとBともに、今後、時間差はあるが、常緑広葉樹が優占する森林に推移すると予測される
- タブノキやスダジイが優占する潜在植生に移行するかは、現時点では不明
- カクレミノやヒサカキなどの小高木が優占しつつ状態が長く続くかもしれない

# 遊木の森が蓄積する二酸化炭素量とその変化

調査区A



調査区B

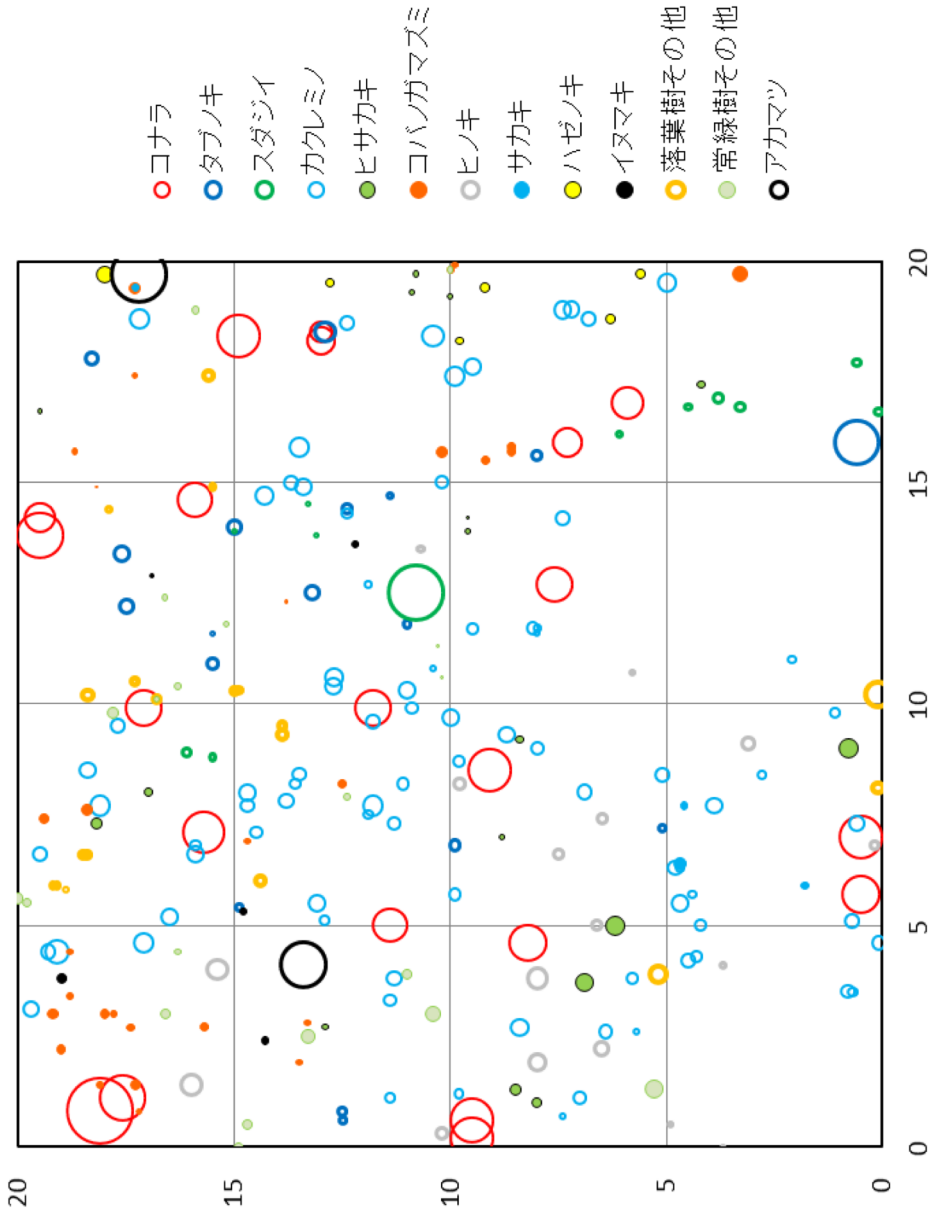


## 遊木の森が蓄積する二酸化炭素量とその変化

- 調査区 A の二酸化炭素蓄積量は、調査区 B の 3 倍前後
- どちらも **コロナによる蓄積量が最も多い**
- 調査区 A では、スダジイやタブノキなどの常緑広葉樹による蓄積量も、少なからぬ割合を占めるようになっている
- コロナが衰退した場合に、コロナに匹敵するほどの蓄積をすする樹種は、しばらくは期待できない

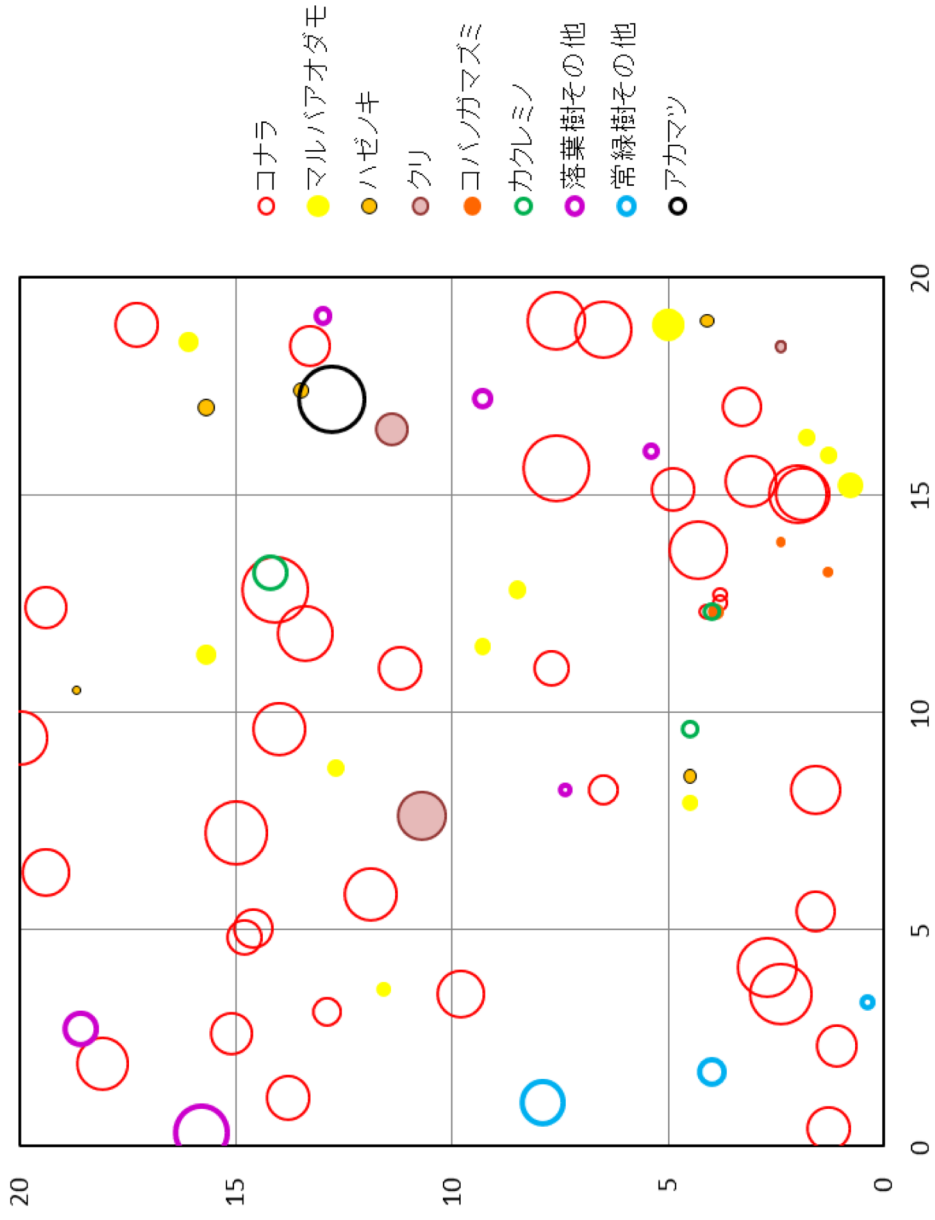
# 樹木の分布

## A調査区



# 樹木の分布

## B調査区





## 森林の現状

## 人とのかかわりの歴史

- ・ 日本人は古くから森林を狩猟・採集の場として利用し、植生の改変も行ってきた
- ・ 西日本では2000年前頃からアカマツ・クロマツの増加がみられ、人為的な森林破壊による代償植生への移行が早くから行われてきた（東日本では1500年前以降）

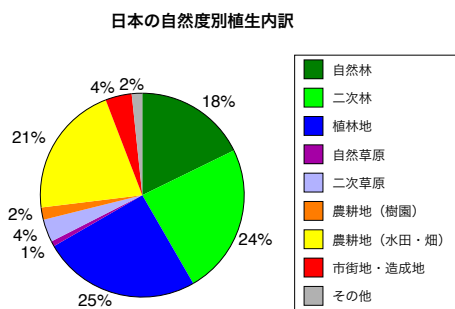
## 森林の現状

## 人とのかかわりの歴史

- ・ 江戸時代には、個人が森林を所有することは認められず、その利用は厳しく管理
- ・ 明治時代になると、森林の個人所有が認められて民有林が出現し、近代林業が始まった
- ・ 1950年代から始まった拡大造林によって、自然林が大規模に伐採され、スギやヒノキの人工林に改変

## 森林の現状

## 森林の構成

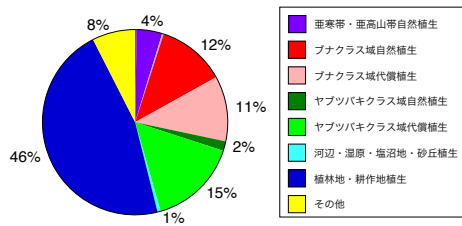


日本のおよそ3分の2は森林  
里山二次林は2割程度

## 森林の現状

### 森林の構成

日本の植生タイプ内訳



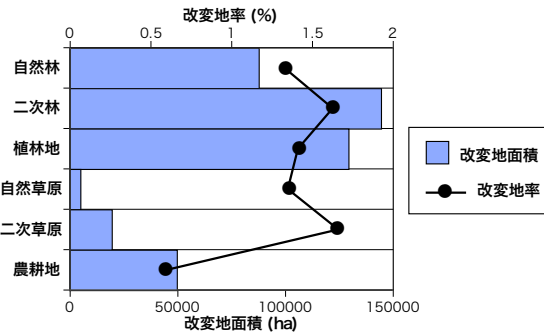
照葉樹林、落葉広葉樹林、亜寒帯・亜高山帯針葉樹林の順に人為的な改変を強く受けている

人間とかわって来た歴史が現存植生に強く反映している

## 森林の現状

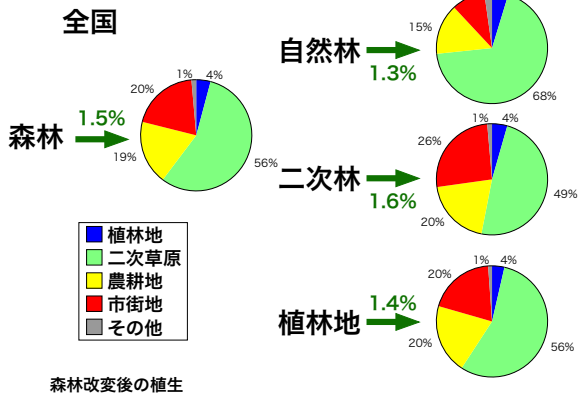
### 森林の改変

植生の改変地面積と改変地率（平成6～10年）



## 森林の現状

### 森林の改変



## 里山の現状

### 里山とは

**里山**：人里に隣接する丘陵地の森林と水田、畑、ため池などの農業的自然を統合した自然

伝統的な里山の森林利用としては、堆肥をつくるために落葉、落枝を集める「**農用林**」と薪や炭を生産する「**薪炭林**」が主

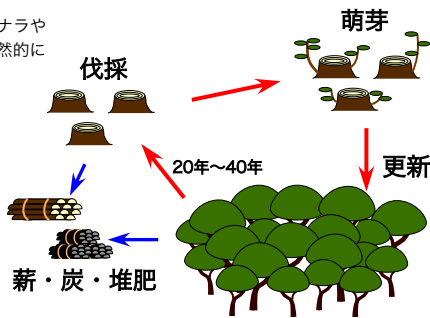
江戸時代、里山は入会地として集落共同で管理され、草木の採集量、時期、道具などが厳しくとりきめられ、植物資源の供給が途切れることがない持続的な利用が実現

## 里山の現状

### 里山とは

里山の薪炭林では、伐採して薪・炭を生産し、切り株から萌芽再生してきた幹をまた伐採するという繰り返しが20～40年サイクルで行われてきた

萌芽再生力が強いコナラやシイなどの樹種が必然的に優占



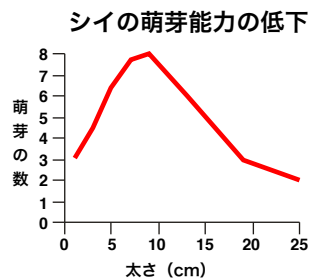
## 里山の現状

### 里山の変化

- ・ 里山の二次林は、薪炭林や農用林としての利用が低下し、多くは管理されなくなった

- ・ 現在の里山の二次林は、継続的に利用されていた頃と比べて、林齢が高くなってきている

- ・ 二次林で優占する樹種の中には、樹齢が高くなると萌芽能力が低下するものがあり、その場合、森林の再生能力が衰える



令和元年度森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業

## 現地検討会

～モニタリング調査及び同結果報告書の問題点～

令和元年度9月20日

開催地：しずおか里山体験学習施設  
遊木の森（静岡県静岡市）

# モニタリング調査について

森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業では、活動組織に対して活動計画書に「活動の目標」と「モニタリング調査方法」を記載するとともに、モニタリング調査を実施し、交付金による活動の成果を自己評価し、毎年、目標達成度を「数値」で示して報告することを義務づけ。

## ■モニタリングの目的

本交付金を活用した活動が、森林の状態の改善に寄与し、多面的機能の発揮の向上につながっているかを、数値に基づいて説明できるようにすること。

## ■モニタリング調査の必要性

- ①森林の多面的機能が改善されたのかを調べるためには、まず、活動対象地となる森林等が、活動前にどのような状態にあるのかを知る（示す）こと。
- ②目指す森林づくりに向けて必要な作業・活動とそれらの意味、さらには目標に向けた進捗状況などを知る（示す）こと。
- ③交付金による活動が、森林での多面的機能を発揮する上で効果的であることを示し、国の予算が有効に利用されていることを証明すること。

# モニタリング調査の流れ

## 1 森づくりの目標と調査方法を決めよう



目標林型の例  
スギ・ヒノキの大径材生産林の整備・利用、広葉樹の森の整備・景観改善、生物多様性に富む森づくり、針広混交の複層林化、タケノコの採れる美しい竹林づくり、竹の侵入の防止など



## 2 初回調査をしよう

初回調査は交付金の活動を開始する前の対象森林の現状を把握するために行います。通常は1年目の採択を受けた後に実施します。

調査場所は？

活動対象地となる森林において、標準的といえる場所に設ける。同じ林相(同じ目標)の活動対象地内の、最低1か所に設ける。



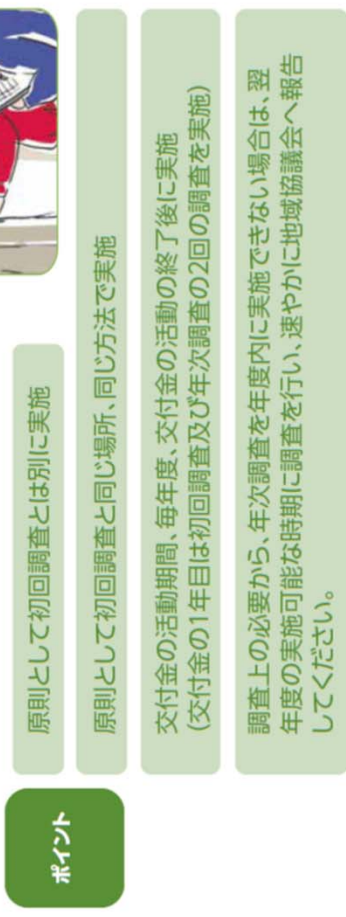
## 3 数値目標を決めよう

初回調査の結果を踏まえ、交付金の活動期間(原則3年間)の終了時に達成すべき数値目標を決めてください。



## 4 年次調査について

毎年度の活動による成果を確認するために行います。



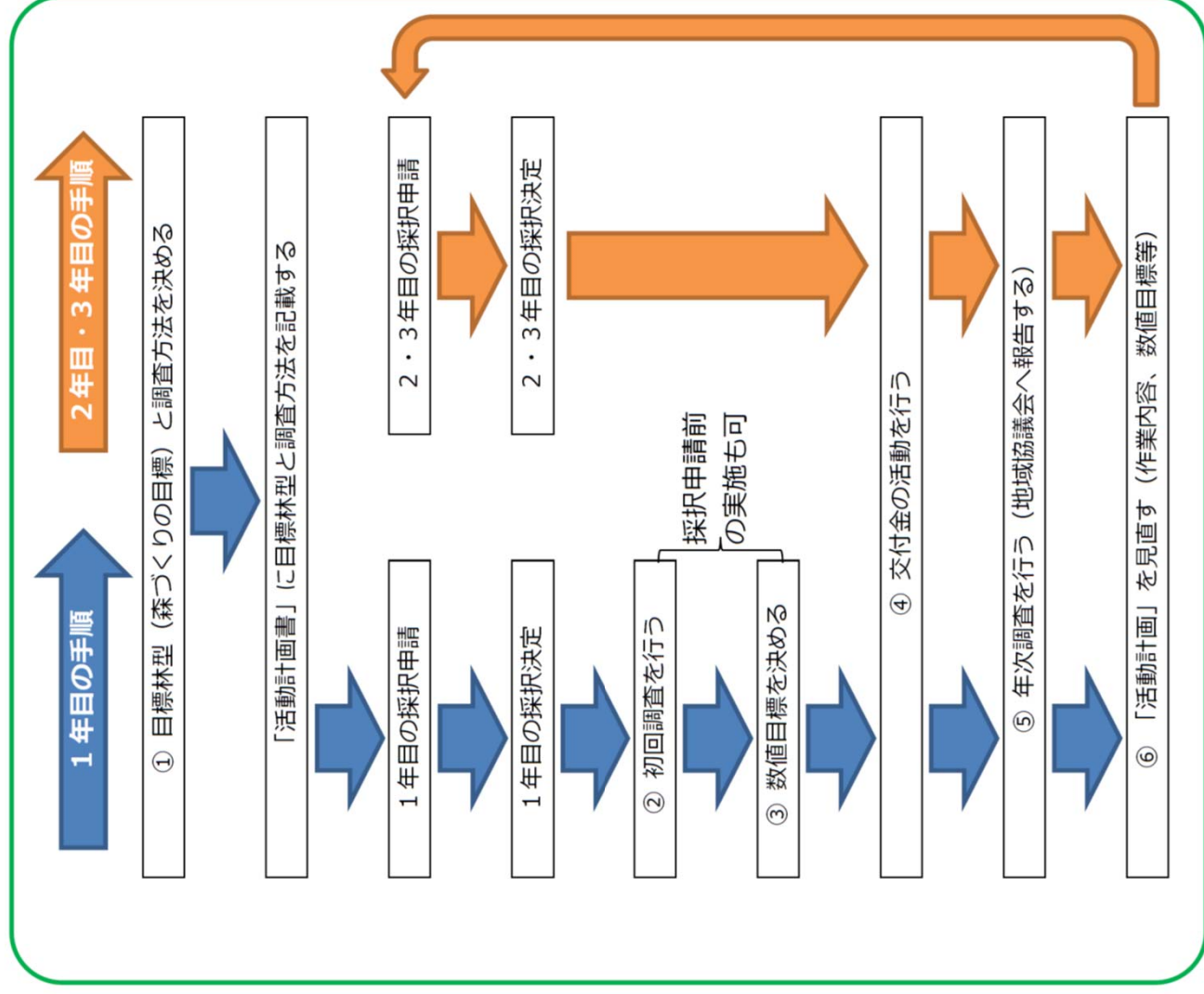
## 5 活動計画・数値目標の見直しをしよう

年次調査の結果に基づいて、必要な場合は次年度の改善策を活動計画に反映してください。





# モニタリング調査の実施・報告の流れ



- 交付金の活動期間は原則3年間

- 初回調査の結果を踏まえ、交付金の活動期間（原則3年間）の終了時に達成すべき数値目標を設定

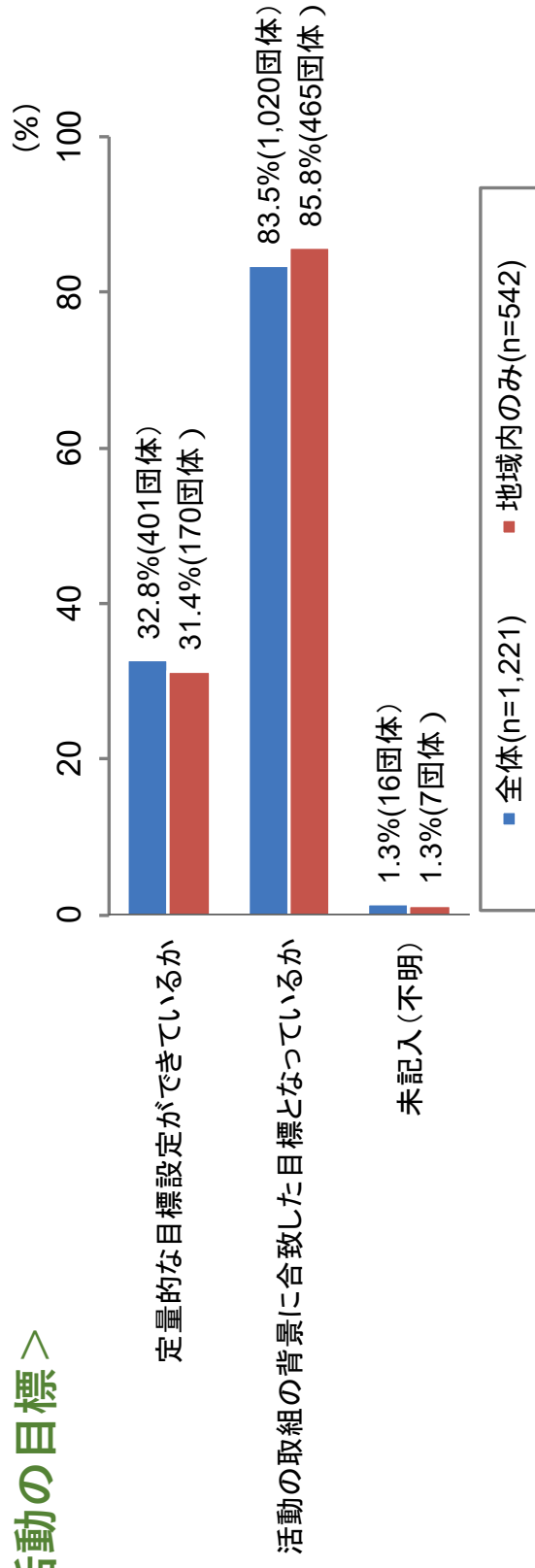
- 年次調査の結果に基づいて、必要に応じて数値目標やモニタリング方法の変更が可能

- 交付金終了後はモニタリングを実施する義務はないが、より良い状態へと改善していくためには、定期的に状態を把握し、活動を継続することが有効

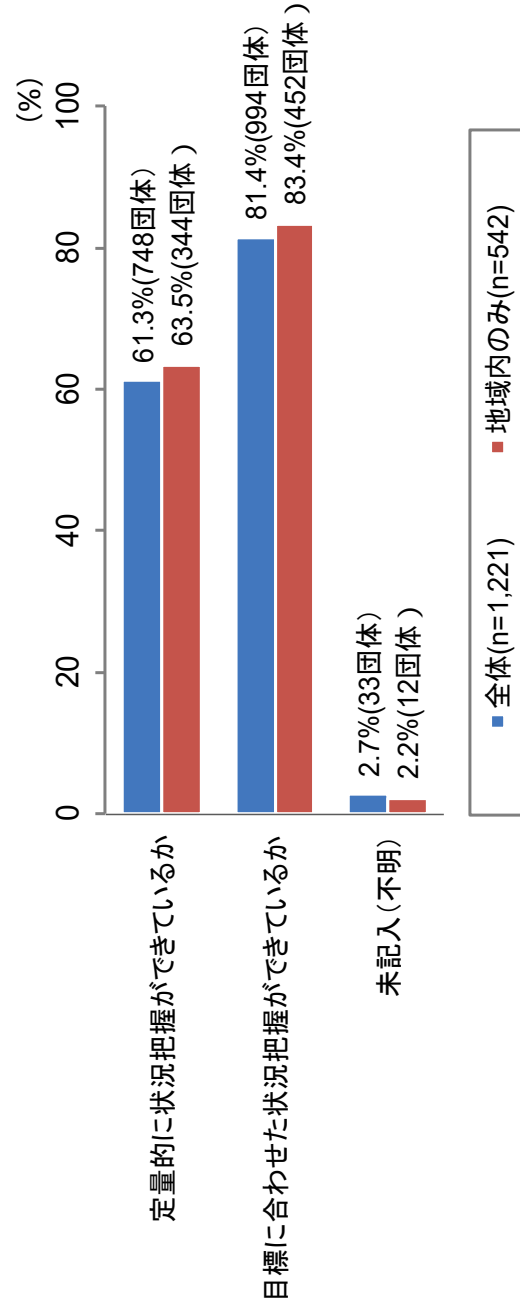
# 目標の設定・標準地の状況把握

(H29年度モニタリング調査報告書より分析)

## <活動の目標>



## <活動実施前の標準地>

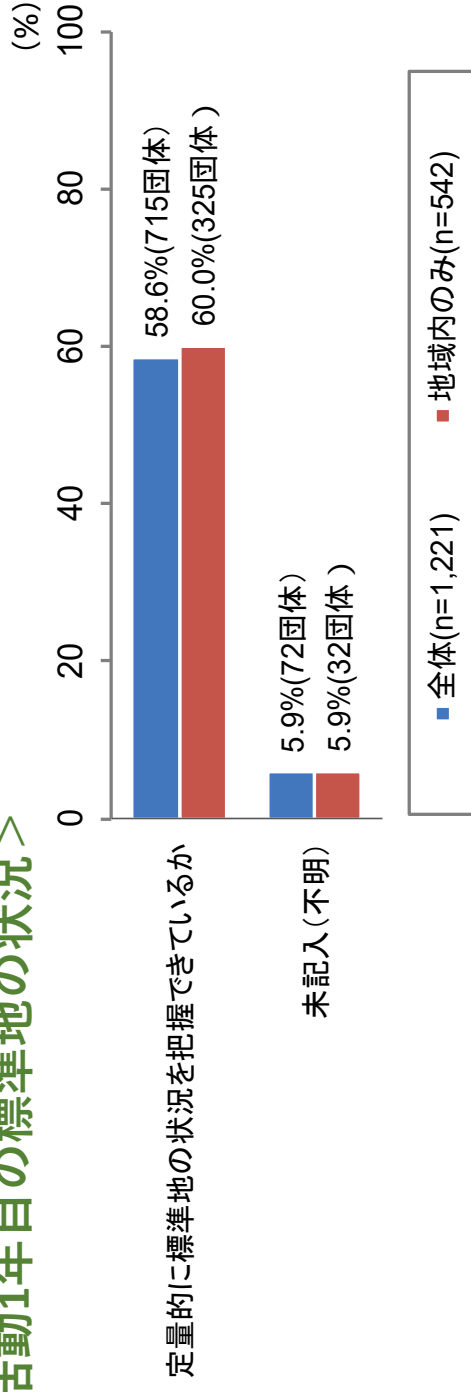




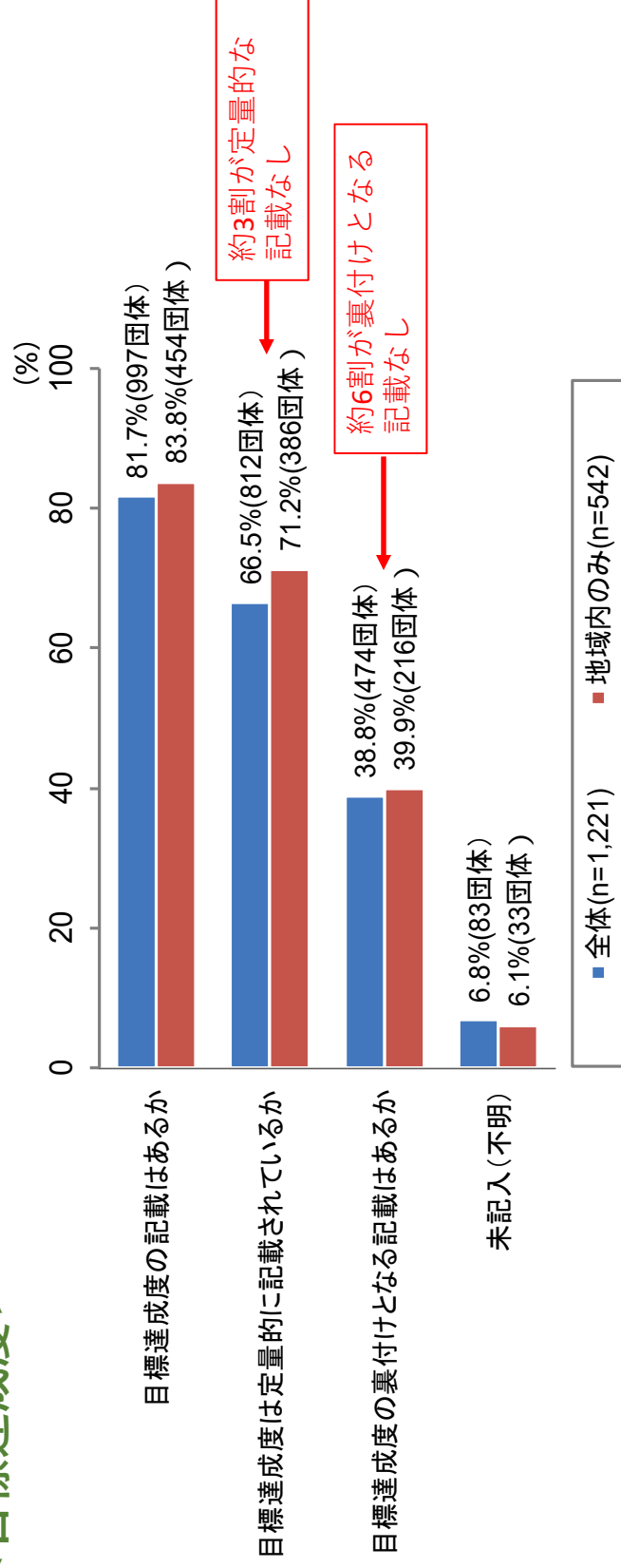
# 標準地の状況把握、目標達成度

(H29年度モニタリング調査報告書より分析)

## <活動1年目の標準地の状況>

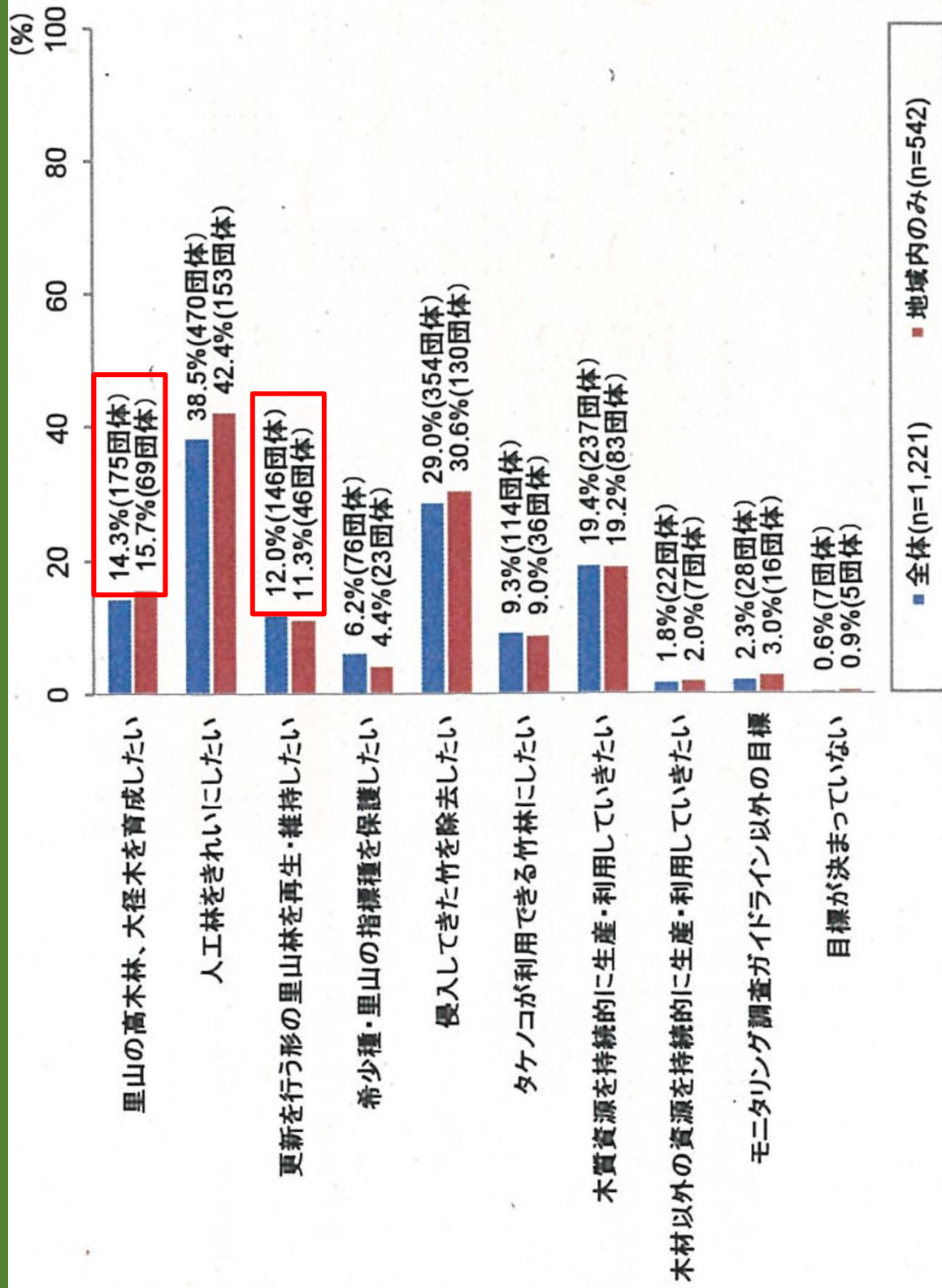


## <目標達成度>



# 目指す森づくり（目標の設置状況）

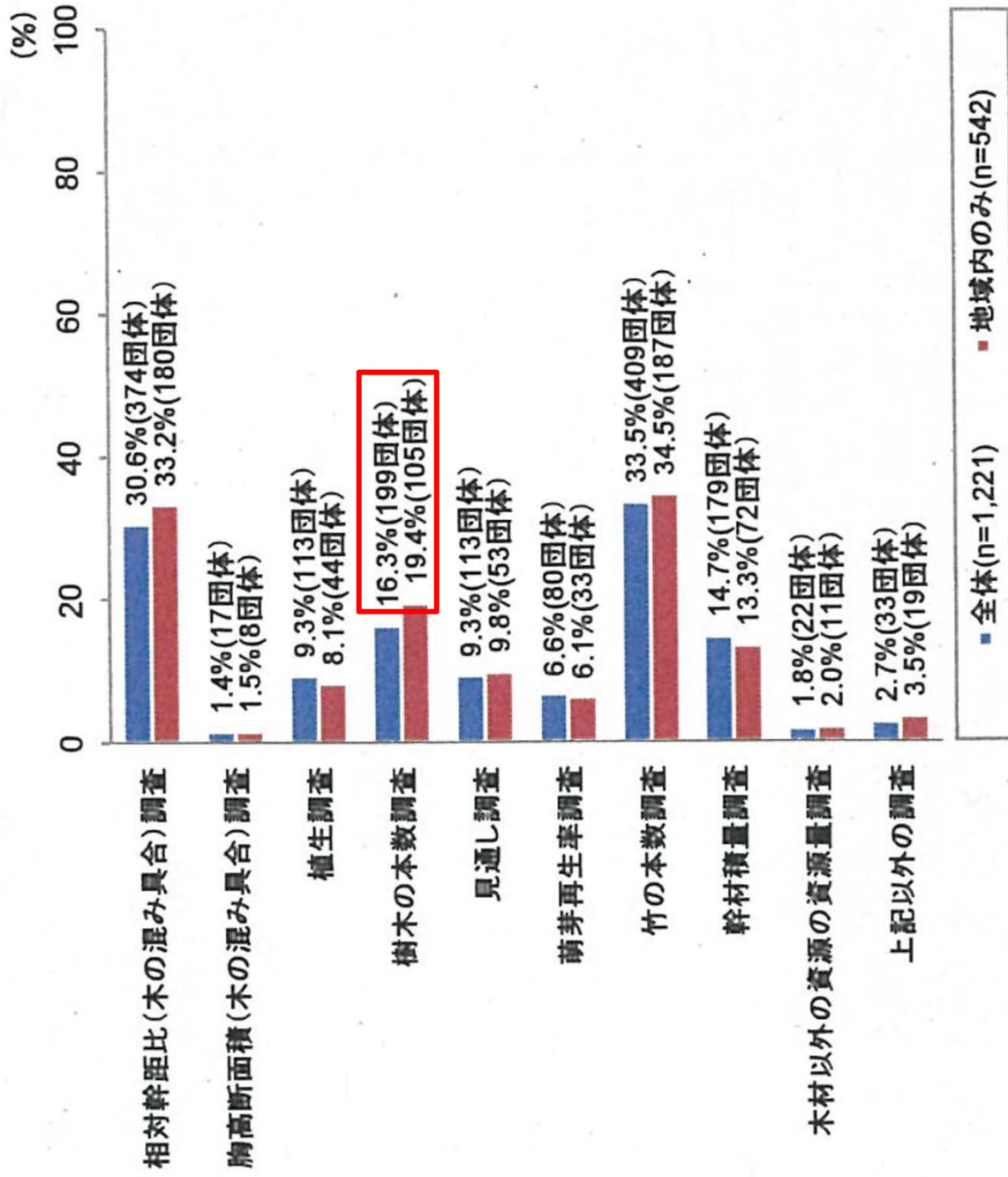
（H30年度活動計画書の分析結果）



「人工林をきれいにしたい（約40%）」、「木質資源を持続的に生産・利用していきたい（約30%）」のほか、約10%の活動組織が「里山の高木林、大径木を育成したい」や「更新を行う形の里山林を再生・維持したい」等を挙げている。

# モニタリング方法の採用状況

(H30年度活動計画書の分析結果)

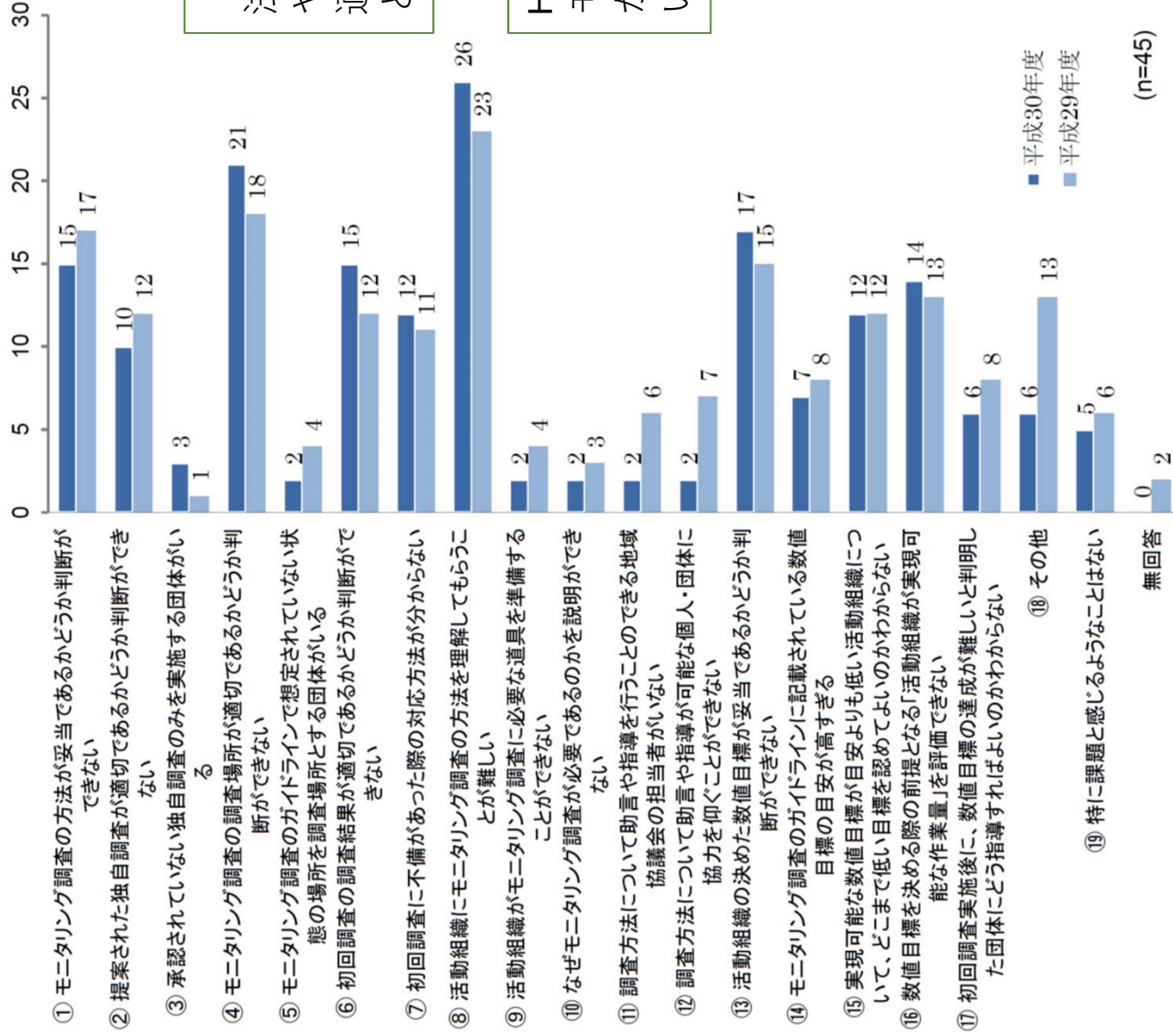


約30%の活動組織が「竹の本数調査」「樹木の本数調査」を挙げている。

「相対幹距比調査」、約20%の活動組織が

# モニタリング調査の課題

(地域協議会へのアンケート調査結果 (H29、30))



「活動組織にモニタリング調査の方法を理解してもらったことが難しい」や「モニタリング調査の調査場所が適切であるかどうか判断できない」との回答が多い。

H29、30とも同様の傾向を示しており、モニタリング調査を導入してから2年が経過した時点でも課題は解決していない状況。



# モニタリング調査報告書の記載に係る課題

- 1. 定量的な形で、目標を達成できているのか確認ができない**
  - 「数値目標」「初回調査結果（活動前の森林の状態）」「年次調査結果（活動後の森林の状態）」について、それぞれ抜けがあるか、統一された数字が記載されていないケース。
  - 特に「数値目標」が記載されていないケースが多い。
  - 調査結果について、数値ではなく、定性的な表現のみが記載されているケース。
- 2. 独自の調査の中には、調査対象が森林の状態や森林から得られる資源ではない事例が見られる**（ホタルの生息数、来場者数、登山者数など）
- 3. モニタリング調査方法が変更され、経年的な変化等が分からないケースがある**
  - 申請段階で作成する活動計画書と年度末に提出されるモニタリング結果報告書では調査内容が異なるケース。
  - 調査内容が（初回調査のやり直しなしで）1年目と2年目でまるで異なるといったケース。
- 4. モニタリング結果報告書の写真が適切とは言えないケースがある**
  - 活動開始前の標準地と活動後の調査場所について、同じ場所で行われているのかどうか判別できないケース。
  - 標準地の状態を示す「モニタリング調査結果」ではなく、「モニタリング作業時の記録」で終わっているケース。

# (参考) 目指す森林の姿 (目標林型)、モニタリングの調査方法・調査項目の例

目標林型	モニタリング方法	調査項目の例	調査概要	調査区	タイプ
スギ、ヒノキの大径材生産林の整備・利用	木の混み具合調査 (相対幹距比・間伐率)	相対幹距比 (S r 値) 間伐率 (%)	木の混み具合を数値化することにより、その森林において間伐が必要か状態が、どの程度の伐採が必要かなど調べます。主に針葉樹林に適した調査です。	100 m <sup>2</sup>	里山林
	木材資源利用調査	材の搬出量 (m <sup>3</sup> )	伐採した木材を林内から搬出して、木材、薪、燃料などとして利活用する場合の利用実態を把握し、持続的な森林管理を行うために、その搬出量を調べます。	100 m <sup>2</sup> * ※初回調査	資源
人工林をきれいにする	木の混み具合調査 (相対幹距比・間伐率)	相対幹距比 (S r 値) 間伐率 (%)	上述	100 m <sup>2</sup>	里山林
	樹木の本数調査	立木本数 (本)	林床の光環境の改善などを目的に林内中低木の除去を行う際、調査区画内の一定の高さ以上の樹木がどれだけあり、どの程度を伐採するかを調べます。本数を数える対象とする樹木の高さ (樹高) をどの程度にするかは、現地の状況に応じて設定します。	100 m <sup>2</sup>	里山林
広葉樹の森の整備・景観改善 生物多様性に富む森づくり	見通し調査	林縁部等からの見通し距離 (m)	灌木やササ等が密集した森林で伐採を行う場合で、初回調査時に草本や灌木の本数調査を行うことが困難な場合等、林縁部からの視認距離の改善状況を調べます。見通しを確認する際の地上高 (cm) は、不法投棄防止や獣害防止など、活動目的に応じて決めめます。	定点調査	里山林
	木の混み具合調査 (胸高断面積調査)	胸高断面積 (m <sup>3</sup> )	木の混み具合を改善し、胸高断面積を一定水準内にすることで、生物多様性の向上などに寄与するために、どの程度の伐採が必要かなど調べます。主に常緑樹を交えた広葉樹林での活動に適した調査です。	100 m <sup>2</sup>	里山林
	植生調査 (下層植生調査)	目的とする植物の確認個体数ないしは開花個体数	藪払いや灌木の除去などにより、林床環境を改善し、目標とする植物の生育状況などを調べます。目標とする植物は「希少種」あるいは「里山林の指標種」とします。	25 m <sup>2</sup>	里山林
	萌芽再生率調査	萌芽再生率 (萌芽再生した株の数 / 萌芽再生を想定して伐採した本数)	萌芽更新を想定して伐採した木のうち、萌芽が再生し、その萌芽が生存している株の割合を調べます。	25 m <sup>2</sup>	里山林
針広混交の複層林化	樹木の本数調査	立木本数 (本)	上述	100 m <sup>2</sup>	里山林
	見通し調査	林縁部等からの見通し調査 (m)	上述	定点調査	里山林
	木の混み具合調査 (相対幹距比・間伐率)	相対幹距比 (S r 値) 間伐率 (%)	上述	100 m <sup>2</sup>	里山林
	⑦ 苗木の活着状況調査	活着状況 単位面積当たりの植栽本数 (本)	森林再生のための植栽木 (苗木) の活着状況を調べます。苗木は、遺伝子資源の維持の観点から、できる限り苗木の植栽予定地と近隣で採取された実生を利用するようにします。	100 m <sup>2</sup>	里山林
森林再生 (植栽地)	⑧ 植生調査 (植栽木の成長量調査)	樹高 (m)	植栽した樹木の成長を促すための雑草木の刈払い等の効果を調べます。	25 m <sup>2</sup> 又は 100 m <sup>2</sup>	里山林
	⑨ 苗木の活着状況調査	活着状況 単位面積当たりの植栽本数 (本)	上述	100 m <sup>2</sup>	里山林
タケノコの採れる竹林づくり	⑩ 植生調査 (植栽木の成長量調査)	樹高 (m)	上述	25 m <sup>2</sup> 又は 100 m <sup>2</sup>	里山林
	竹の本数調査	調査区内の竹の本数 (本)	望ましい竹林の状態の維持や侵入竹の防止に向けて、必要な作業や進展状況を確認するため、立竹の本数を調べます。竹の本数の目標値について、それぞれの地域や都道府県で目標の目安がある場合は、そちらに従ってください。	25 m <sup>2</sup> 又は 100 m <sup>2</sup>	竹林
竹の侵入の防止	竹の本数調査	調査区内の竹の本数 (本)	望ましい竹林の状態の維持や侵入竹の防止に向けて、必要な作業や進展状況を確認するため、立竹の本数を調べます。目標値は原則として0本としますが、森林の状況に応じて、森林としての機能が失われない程度に定めます。	25 m <sup>2</sup> 又は 100 m <sup>2</sup>	竹林
山の恵みを利用できる森づくり	木材資源利用調査	材の搬出量 (m <sup>3</sup> )	上述	100 m <sup>2</sup>	資源
	⑩ 特用林産物等利用調査	生産量・販売量 (m <sup>3</sup> 、t など)	利用を想定する非木材資源 (きのこ類、たけのこ等) の年間の利用量・販売量 (数値目標) を調べます。	-	資源

タイプは「里山林」が地域環境保全タイプ里山林保全活動、「竹林」が地域環境保全タイプ侵入竹除去・竹林整備活動、「資源」が森林資源活用タイプ

# (参考) モニタリング結果報告書の記載例 (定量的な形で、目標を達成できているのか確認ができない例)

(様式第 19号)

平成30年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標

木質資源を持続的に生産し利用する。

2 活動実施前の標準地の状況 (平成30年度)

標準地の状況を記載  
枯損木、竹の侵入も見られる



写真

3 活動1年目の標準地の状況 (平成30年度)

標準地の状況を記載  
枯損木等を伐採。  
目標達成度  
10% 地区内で軽トラ1台分薪として出荷  
次年度に向けた改善策  
枯損木中心に整備したため利用量は少なかつたので今後、有効利用を図る。



写真

(様式第 19号)

平成30年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標

希少種、あるいは里山の指標種を保護する。

2 活動実施前の標準地の状況 (平成30年度)

標準地の状況を記載  
雑草が繁茂し、視界がわるい。



写真

3 活動1年目の標準地の状況 (平成30年度)

標準地の状況を記載  
1年目は見通しをよくすること念頭に作業。  
目標達成度  
10%  
次年度に向けた改善策  
当面は見通しをよくすることに重点を置く。



写真

4 活動2年目の標準地の状況 (平成〇年度)

標準地の状況を記載  
目標達成度  
次年度に向けた改善策

写真

具体的な利用量の数値や、調査の対象種が記載されていない。

# (参考) モニタリング結果報告書の記載例 (調査対象が森林の状態や森林から得られる資源ではない例)

(様式第 19 号)

平成 30 年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標

地域の環境保全を第一義に里山保全 (侵入竹除去・雑草木刈り払い・立木伐採) に来たる所 (場所) から出来る者が自分達の地域は自分達で守る強い信念の同志による一貫した組織の活動目標としている。

2 活動実施前の標準地の状況 (平成○年度)

標準地の状況を記載	
-----------	--

写真

3 活動 1 年目の標準地の状況 (平成○年度)

標準地の状況を記載	
目標達成度	
次年度に向けた改善策	

写真

4 活動 2 年目の標準地の状況 (平成 30 年度)

標準地の状況を記載	関係地区 21 世帯に (詳細別紙参照) アンケートを実施、20 人から回答 (回収率 95%)
目標達成度	○本活動について知っているのと答えた人は、16 人 (80%) ○本活動に参加している、したことがある 5 人。参加出来ない、していない 8 人 (約 62%) ○鳥獣被害等に対して、18 人中 15 人 (83%) から苦慮しているとの回答。

写真

(様式第 19 号)

平成 29 年度 モニタリング結果報告書

1 活動の目標

地域環境保全タイプ：登山者数の増加 (登山の登録者数名簿による確認) 当月 4 回以上の登山者を名簿登録して管理 (ノートに日付・時間・氏名を記載して頂き 4 回以上の方を登録) 登録者については (月間・年間登山回数) を集計。但し、名簿登録者で 1 年間 未登山の方は記録台帳から削除とする

2 活動実施前の標準地の状況 (平成 28 年度)

標準地の状況を記載	平成 29 年 4 月登山登録者 361 名
-----------	------------------------

写真

3 活動 1 年目の標準地の状況 (平成 29 年度)

標準地の状況を記載	平成 30 年 3 月登山登録者 368 名 (未登山者 - 36 名) (新規登録者 + 43 名)
目標達成度	7 名増加
次年度に向けた改善策	① 登山道の整備 ② 登山名簿登録への周知

写真

4 活動 2 年目の標準地の状況 (平成 30 年度)

標準地の状況を記載	
目標達成度	
次年度に向けた改善策	


写真

調査方法がアンケート調査 (左) や登山者数の増減調査 (右) となっている。 12




(参考) モニタリング結果報告書の記載例 (報告書の写真が適切とは言えない例)

3 活動1年目の標準地の状況 (平成29年度) 写真

 <p>標準地の状況を記載</p>	<p>目標達成度</p> <p>一年目は下刈程度をいまままだ陽がさすままではいけないので次年度に行いたい</p>	<p>次年度に向けた改善策</p> <p>スギの下枝落としと雑木の伐採を行い日当たりを良くしたい。 日当たりよくすることにより、杉の成長や地被植物の成長がみられるのではないかと思える。</p>
--	--	--



4 活動2年目の標準地の状況 (平成30年度) 写真

 <p>標準地の状況を記載</p>	<p>目標達成度</p> <p>2年目は前年度の予定通り雑木(常緑樹等)の伐採作業を行い、陽の光もだいぶ射すようになりました。</p>	<p>次年度に向けた改善策</p> <p>2年目に雑木の伐採を行った結果 地被植物の成長がみられると思う。</p>
--	---	---

標準地、活動1年目、活動2年目の場所が異なる場所で撮影されている。



# (参考) モニタリング結果報告書の記載例 (モデルとなる事例)

(様式⑯)

平成30年度モニタリング結果報告書 (エリア1)

1 活動の目標

(目標林型)

人工林をきれいにしたい。

(数値目標)

本数間伐率 20%

2 活動実施前の標準地の状況 (平成30年度)

調査日：平成30年11月11日 (別添調査票参照)

調査区：100㎡の方形調査区

【27小班】

- スギとヒノキの混交林 ✓
- 立木本数 13本 ✓
- 樹高 20m ✓
- 相対幹距比 13.9 ✓
- 風雪の害が懸念されることから、本数間伐率を2割程度とし、相対幹距比を15.8に改善するため3本伐採する。 ✓

→ 本数間伐率 23.1% ✓

【31小班】

- スギとヒノキの混交林 ✓
- 立木本数 22本 ✓
- 樹高 16m ✓
- 相対幹距比 13.3 ✓
- 風雪の害が懸念されることから、本数間伐率を2割程度とし、相対幹距比を15.2に改善するため、5本伐採する。 ✓

→ 本数間伐率 22.7% ✓

標準地の状況を記載

3 活動1年目の標準地の状況 (平成30年度)

調査日：平成31年1月8日 (別添調査票参照)

【27小班】

- スギとヒノキの混交林 ✓
- 立木本数 10本 ✓
- 樹高 20m ✓
- 相対幹距比 15.8 ✓
- 本数間伐率=3÷13×100%=23.1% ✓

標準地の状況を記載

【31小班】

- スギとヒノキの混交林 ✓
- 立木本数 17本 ✓
- 平均樹高 16m ✓
- 相対幹距比 15.2 ✓
- 本数間伐率=5÷22×100%=22.7% ✓

目標達成率=本数間伐率の数値目標÷本数間伐率の実績値×100%

【27小班】

目標達成率=23.1%÷20%×100%=115.5% ✓

【31小班】

目標達成率=22.7%÷20%×100%=113.5% ✓

活動前の相対幹距比が低いので、風や雪の被害が懸念されるため、次年度は間伐を行わずに状況を見守ることとし、風雪による被害の恐れが無いと判断された場合は、3年目にも間伐を実施する。

3年目の本数間伐率は、2年目の年次調査で改めて数値を計測し、形状比を考慮しつつ、相対幹距比17~20の範囲を目指す方向で設定する。

次年度に向けた改善策

調査方法が明確であり、調査の結果が定量的に示されている。



## 令和元年度森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 現地検討会アンケート

このたびは「森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業 現地検討会」にご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の事業推進や情報提供等に当たっての参考とさせていただくため、アンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

【ご所属】 1. 都道府県 2. 地域協議会 3. その他 ( )

団体名： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

Q1：今回の現地検討会についての感想を教えてください。

1. 大変参考になった      2. 参考になった      3. ふつう  
4. あまり参考にならなかった      5. 参考にならなかった  
6. その他（自由記述）

( )

Q2：現地検討会の開催時期についてお答えください。

1. この時期で良かった      2. 別の時期（具体的に： \_\_\_\_\_ 月頃）が良かった  
3. その他（自由記述）

( )

Q3：現地検討会の時間配分等についてお答えください。

1. 適当である      2. 長かった      3. 短かった      4. 午前からの開催を希望  
5. その他（自由記述）

( )

Q4：現地検討会の参加者等についてお答えください。

1. 適当である      2. 参加者が多い      3. 参加者が少ない      4. 特に意見なし  
5. その他（自由記述）

( )





資料5 普及セミナー 配布資料





**令和2年2月6日**  
**森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー・プログラム**

**9:40 開場**

**10:00～10:05 開会挨拶**

**10:05～10:50 基調講演「森林と災害 森林ボランティアの観点から」**

■ **講演者**

蔵治 光一郎（東京大学大学院 農学生命科学研究科 附属演習林 教授）

**10:50～10:55 休憩**

**10:55～12:10 活動組織の活動事例報告**

10:55～11:15 白山瀨波の会（石川県）

11:15～11:35 春日山原始林を未来へつなぐ会（奈良県）

11:35～11:55 現川里山保全の会（長崎県）

11:55～12:10 質疑応答

**12:10～13:00 昼休み**

**13:00～15:00 パネルディスカッション**

■ **コーディネーター**

山本 信次（岩手大学 農学部 教授）

■ **パネリスト**

丹羽 健司（特定非営利活動法人地域再生機構 木の駅アドバイザー）

伊藤 道男（千葉県里山林保全整備推進地域協議会事務局長）

原田 明（一般財団法人 都市農山漁村交流活性化機構 業務第2部  
コミュニティビジネスチーム長）

井野 道幸（熊本県森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 事務局長）

木下 仁（林野庁森林整備部森林利用課山村振興・緑化推進室 室長）

■ **テーマ**

- (1) モニタリング調査の目標を効果的に設定するにはどのような方法がよいか
- (2) 森と人とのつながりなど、森林整備以外の多面的機能をどのように評価していくか

**15:00 閉会**

（敬称略）

# 森林と災害

## 森林ボランティアの観点から

蔵治 光一郎

東京大学大学院農学生命科学研究科  
附属演習林 教授

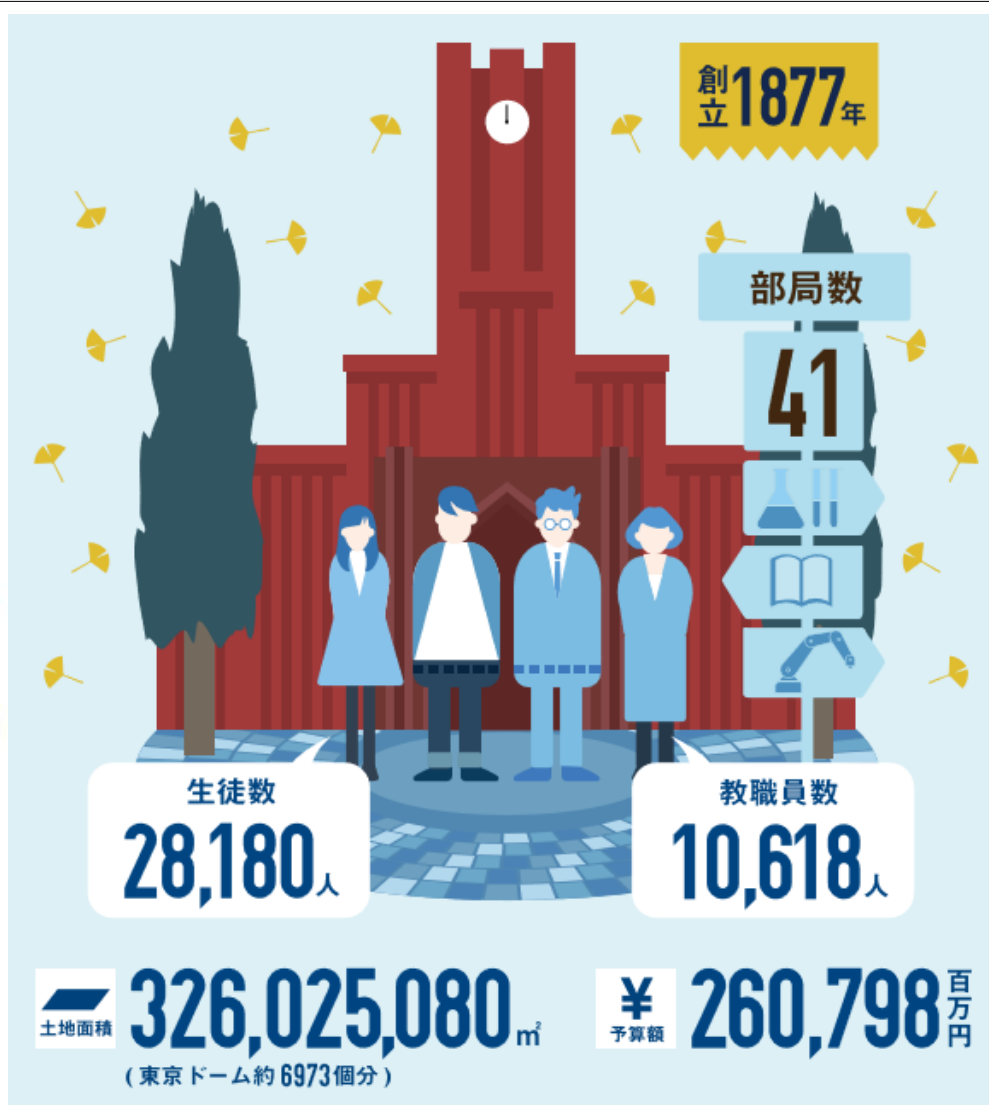
### 自己紹介

- 1965年生まれ、東京大学農学部林学科卒、青年海外協力隊員としてマレーシア・サバ州森林研究所でボランティアに従事、1996年に東京大学演習林に就職、1998年に東京工業大学に移籍、2001年に復帰、現在に至る
- 教育：大学生への講義、研究の指導
- 研究：森林と水の関係（緑のダム）の研究
- 社会連携：大規模森林所有者として、国や地方自治体との連携、小中高等学校との連携、ボランティア団体との連携など
- 中間管理職としての仕事

# 東京大学 演習林

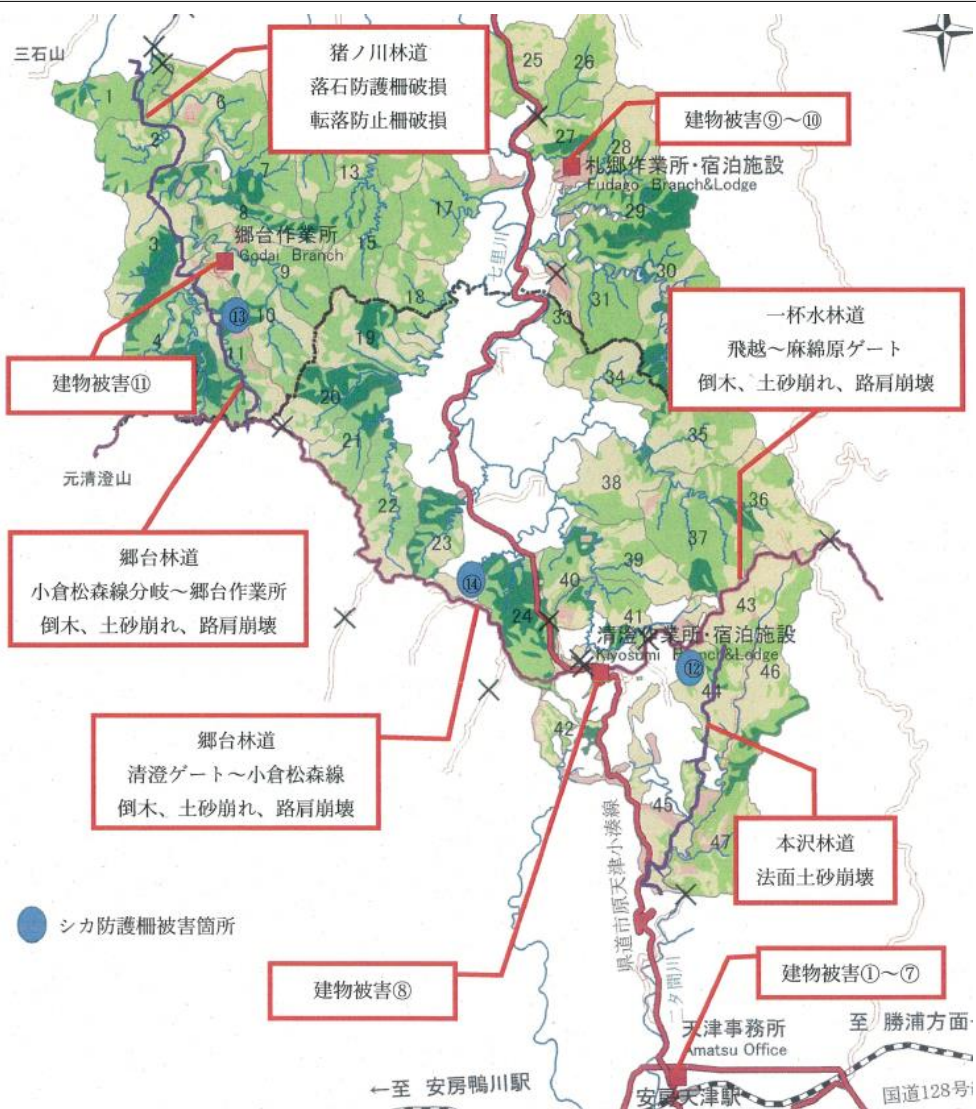


322,539,651m<sup>2</sup>  
(東京ドーム6,898個分)



## 千葉演習林の被災 2019年 台風15,19,21号

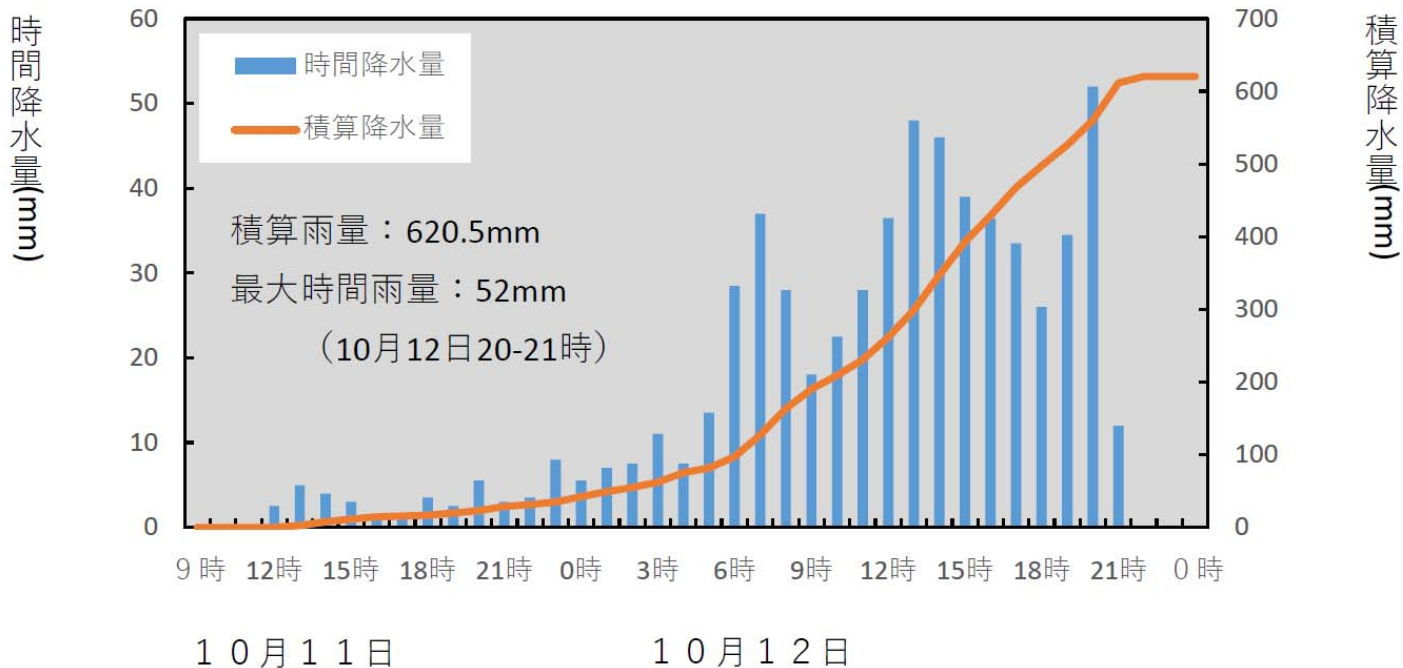
- 被害箇所数：15号141箇所（建物14、林道127）、19号33箇所、21号94箇所（重複含む）
- 停電：4～6日間
- 崩壊（土量）：26箇所（355.2 m<sup>3</sup>）
- 倒木本数：15号236本（林道沿いのみ）林道沿いでない森林の倒木本数は不明。今後調査
- 構造物損壊：8箇所
- 電柱損傷：7箇所



## 秩父演習林の被災 2019年 台風19号

- 被害箇所合計：103 箇所
- 建物損壊：川俣学生宿舎
- 堆積土量：推定4,084 m<sup>3</sup> (50 箇所)
- 路面洗堀、路肩崩落等：57 箇所
- 倒木本数：31 本
- 構造物損壊箇所：18 箇所
- モノレール：バケモノ沢モノレール浸水、中山沢モノレール支柱洗堀
- 量水堰：バケモノ沢量水堰 土砂に埋没

台風19号に伴う降水量変化（秩父演習林大血川作業所）



2019年（令和元年）10月14日（月曜日）

第2総合

(2)

# 日降水量の国内1位更新

## 列島各地で記録的豪雨 秩父も史上最高635ミリ

大型の台風19号は関東を縦断して福島県付近から太平洋に抜け、13日正午の観測で日本の東で温帯低気圧に変わった。各地で記録的な雨が降り、神奈川県箱根町では12日の降水量が922.5ミリに達して国内最高記録を更新した。従来は高知県馬路村で2011年7月19日に観測された851.5ミリが1位だった。

一度の災害で最多の13都県（東京都、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡各県）の自治体に発表された大雨特別警報は13日午前8時40分の岩手県を最後に全て解除された。

特別警報の対象地域には福島第1原発、第2原発が立地する福島県の大熊、双葉、楢葉、富岡各町が含まれたが、東京電力によると、台風の被害は確認されていない。気象庁によると、他に12日の日降水量は静岡県伊豆市が689.5ミリ、秩父市は635.0ミリ、東京都檜原村は602.5ミリ、静岡市葵区は597.5ミリ、相模原市緑区は595.0ミリ、宮城県丸森町は558.0ミリで、各地点で観測された。

### 12日の日降水量

※単位はミリ、各地点で観測史上1位の記録を更新

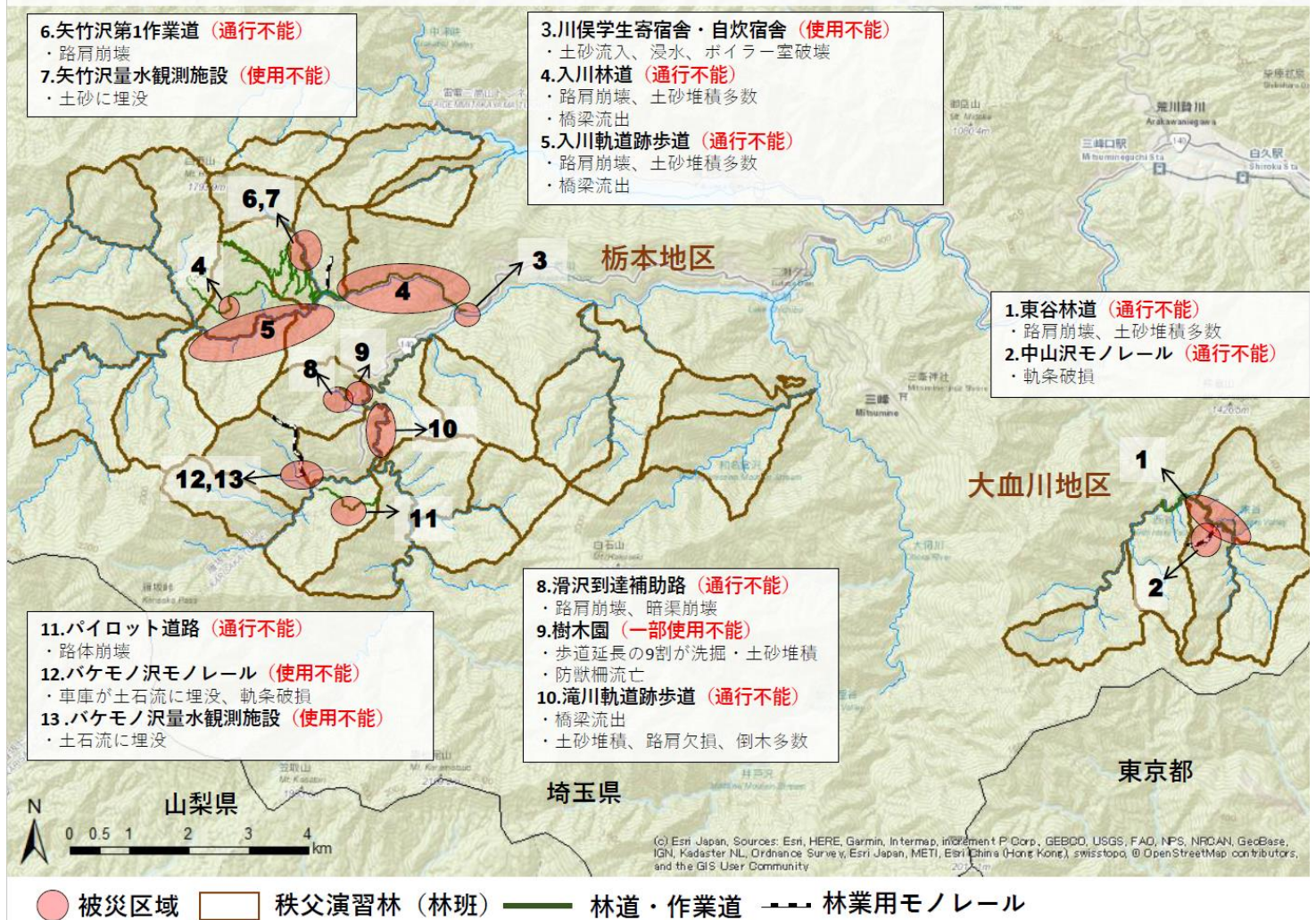
神奈川県箱根町	922.5
静岡県伊豆市	689.5
埼玉県秩父市	635.0
東京都檜原村	602.5
静岡市葵区	597.5
相模原市緑区	595.0
宮城県丸森町	558.0

最大瞬間風速は12日に東京・神津島で44.8メートル、横浜市中区と東京・葛西臨海公園で43.8メートル、羽田空港で42.7

米津島で44.8メートル、横浜市中区と東京・葛西臨海公園で43.8メートル、羽田空港で42.7



# 秩父演習林台風19号被害概要図（2019年10月20日時点）



## 代表的な森林災害

- 気象害
  - 風害、雪害、大雨・地震による崩壊・土石流
- 病虫害
  - マツ枯れ、ナラ枯れ、獣害
- 山火事
- 人災
  - 盗伐、誤伐
- 長期計画を立てても、被災により根底から崩れる可能性が常にあることを想定しておく

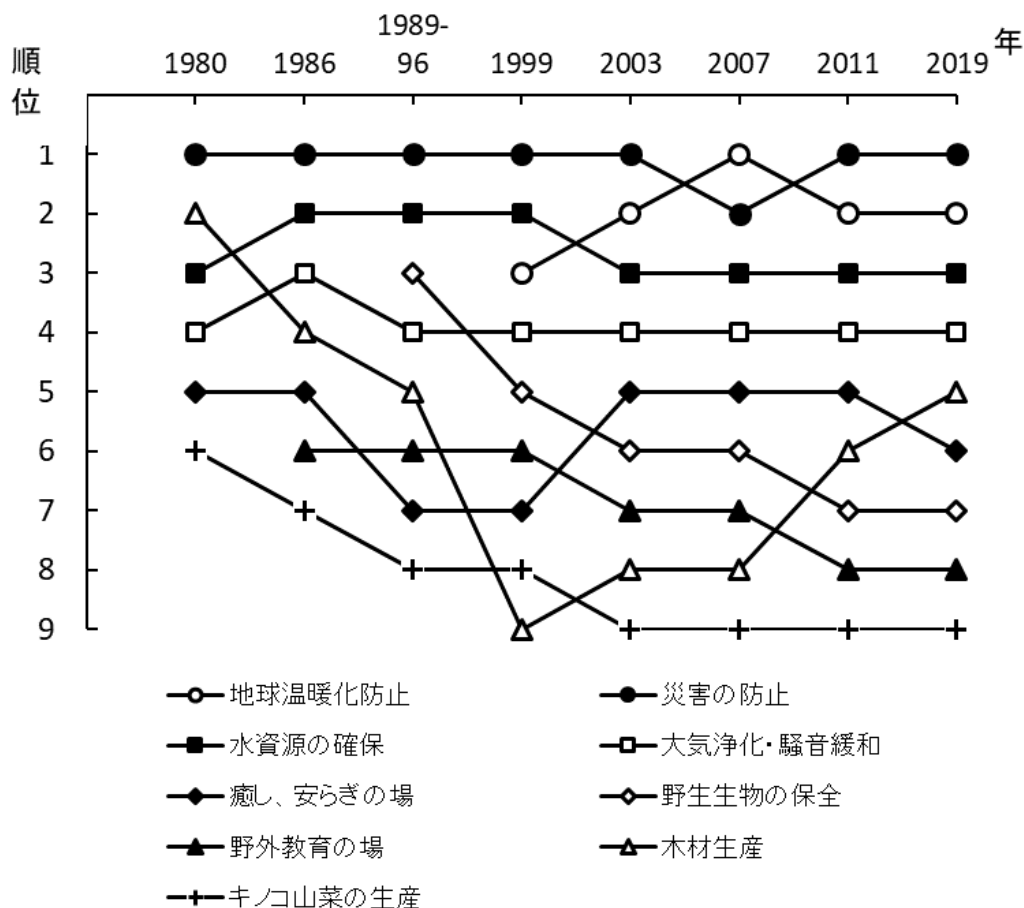
# 大阪府高槻市 2018年台風21号

- 関西空港が冠水し、閉鎖
- 保険金の支払額1兆0678億円（風水害で歴史上最大額）
  - 2011年の東日本大震災が1兆2833億円
  - 2016年の熊本地震が3859億円
  - 2019年の台風15, 19号の保険金支払額は、現在算定中。12月9日現在で7,467億円。今後、歴史上最大額を更新する可能性もある
  - 保険料の値上げは必至

## 活動していた場所が被害を受けた場合の対応

- 森林での作業は、そもそも危険な作業
- 災害にあった森林は、さらに危険が増している
- 片づけたくなるのは当然だが、絶対に無理をしてはいけない
- 活動していた場所の変更を検討する
- もしどうしても変更が無理であれば、地方自治体と相談し、災害復旧予算を申請する
- もし予算がつかず、保険もなかった場合は、農林中金からの融資、クラウドファンディングなどを検討せざるを得ない

# 日本人が森林に期待していること 内閣府世論調査



## 多面的機能発揮のための森林ボランティア等による作業と評価

- 多面的機能の中には、互いにトレードオフの関係にある機能がある
  - すべての機能を同時に満たす作業はない。森づくりに模範解答はない。
- 各団体が、自らの価値観のもと、優先順位を決め、最も重視する機能を発揮するために作業する
  - 科学的には「森林土壌の流亡を防ぐ」ことが、他の機能の基盤となる「最も重視すべき」機能
- 評価は、自らの価値観で決めた優先順位に沿って基準・指標を設定して行う



# 土壌侵食を評価するモデル

- USLE(Universal Soil Loss Erosion) と WEPP(Water Erosion Prediction Project)
- USLE+GIS→SWAT、WEPP+GIS→GeoWEPP
- USLEは、一連降雨（または流出）によるエネルギーを入力とし、その土地の土壌、被覆、地形によって侵食量を推計（経験モデル）
- WEPPは、降雨の時系列を入力とし、遮断、雨滴侵食、リル侵食、といった侵食プロセス、地表面水収支に基づく運搬プロセスを経由して侵食量を推計（物理モデル）
- 森林作業の評価にはWEPPが適している

## 水源の森林づくりガイドブック

平成 31 年 3 月  
林野庁 治山課

## 森林の水源地機能を重視する場合の作業指針

平成30年度水源の森林づくりガイドブック

ガイドブック（成果物 1～4）

報告書（成果物 5）

[http://www.maff.go.jp/j/budget/yosan\\_kansi/sikkou/tokutei\\_keihi/seika\\_H30/ippan/index.html#205](http://www.maff.go.jp/j/budget/yosan_kansi/sikkou/tokutei_keihi/seika_H30/ippan/index.html#205)

# 作業と施業の違い

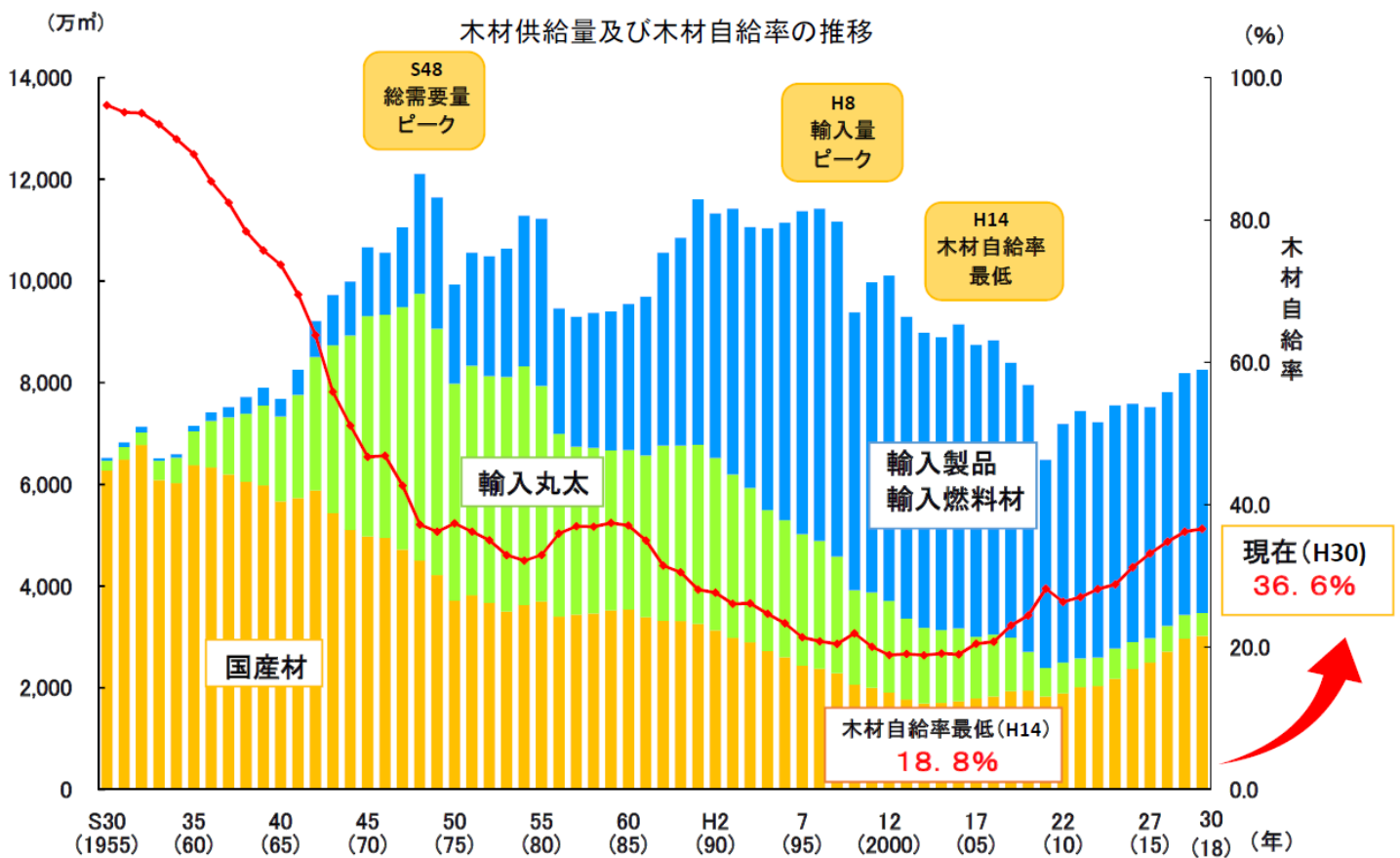
- 作業は短期的、施業は長期的（目標林型）
- 森林には不確実性（被災リスク）がある
- （山主に余裕のある場合を除き）森林は、社会経済情勢、法制度、税制の変化に大きく影響を受ける
- 多面的機能発揮対策は「短期的」に行う「作業」と考え、事業評価では「施業」ではなく「作業」を評価対象としたほうがよい
- 最も重視する機能の実現のための作業について、作業の前後の変化を測定し、評価する
- 機能そのものの変化を評価するのは難しい

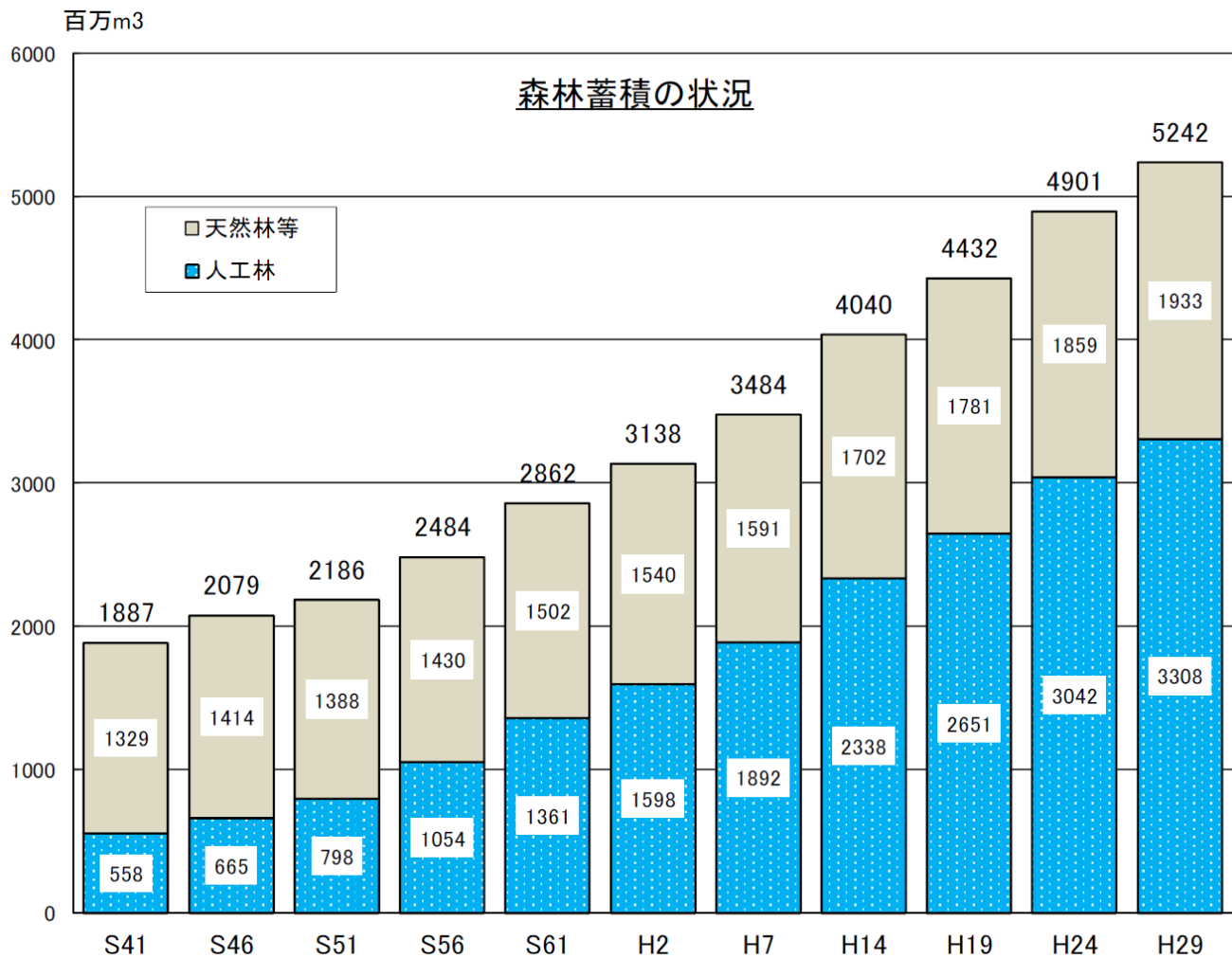
## 森林作業の評価についての私見

- いわゆる（科学的）モニタリングは労力とコストがかかる
- 楽しくなければ続かない。モニタリングが楽しくない、苦痛、なら、やめた方がいい
- 評価の例
  - ①景観を良くしたい
    - 作業のビフォーアフターを写真撮影と画像解析で評価
  - ②人々の間の交流を深めたい
    - SNS上でのやり取り数、アクセスログなどで評価
  - ③森林資源の活用
    - 何が楽しくて資源の活用をやるのかを検討し、それを評価項目とする

# 過去10年間の日本の人工林の変化とその多様性

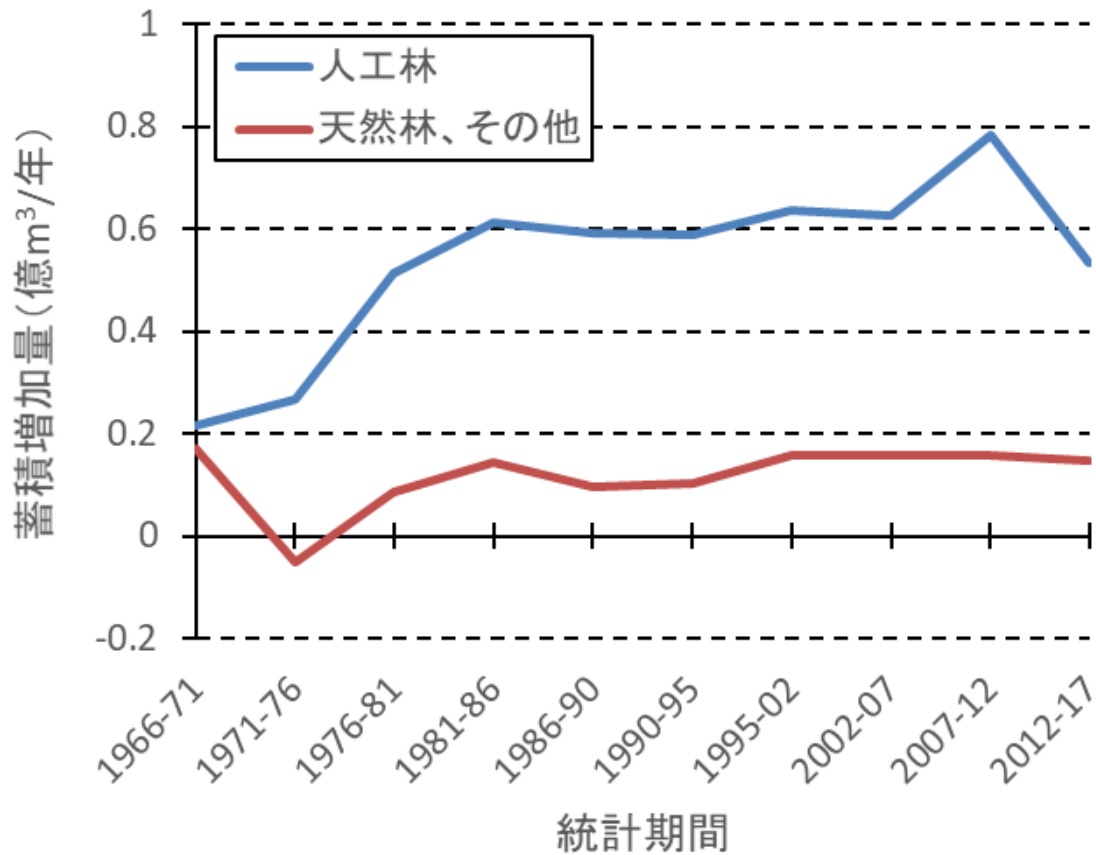
- 国産材の比率は半世紀の間に95%から18.8%まで急減したが、その後の官民挙げての国産材生産・消費努力の結果、わずか16年で36.6%に倍増
- (林地残材を含む) 利用率は約50%と推定され、森林の成長量に見合う資源利用に向かいつつある
- 人工林の蓄積は毎年約5400万m<sup>3</sup>増えてはいるが、地域によっては危険な水準になっている可能性がある





林野庁「森林資源の現況」H29.3.31現在

## 伐採量増加に伴う蓄積増加量の減少



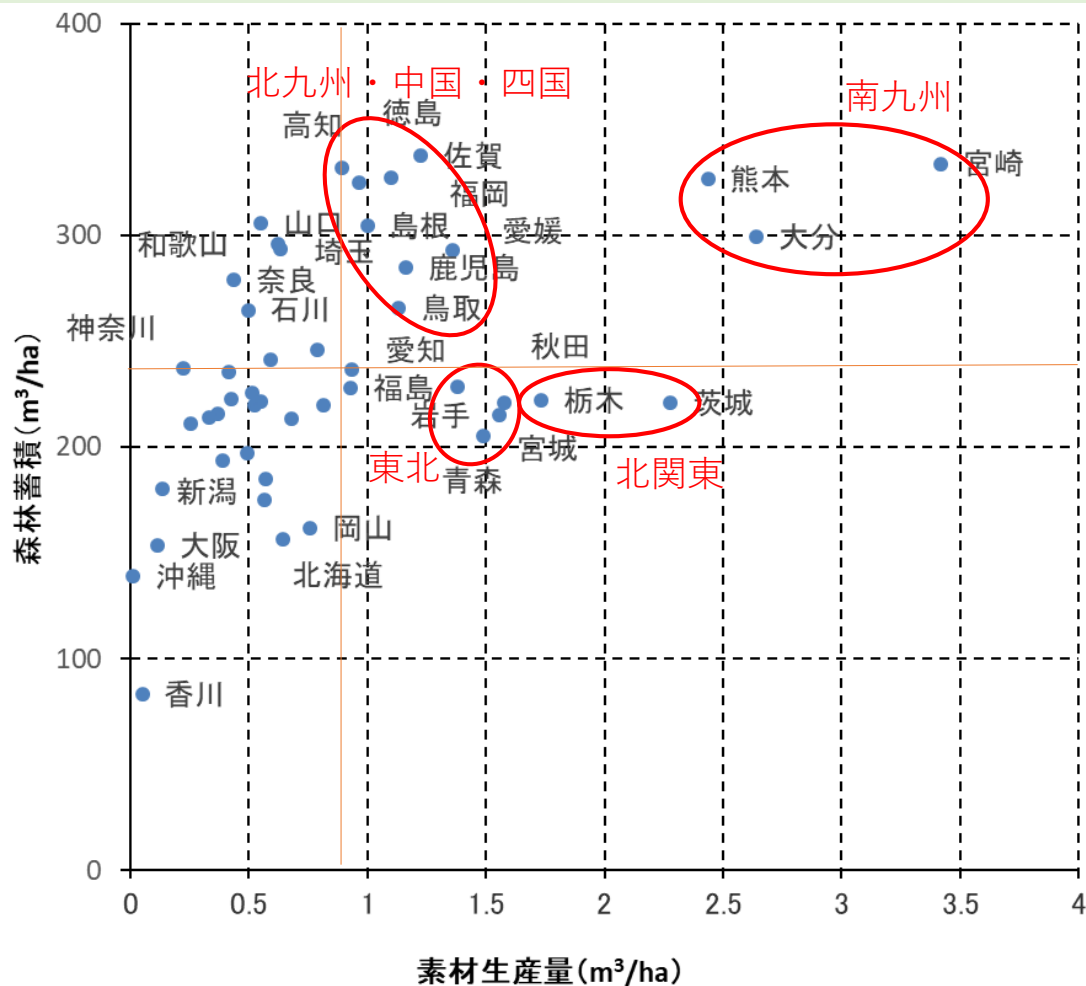
林野庁「森林資源の現況」H29.3.31現在

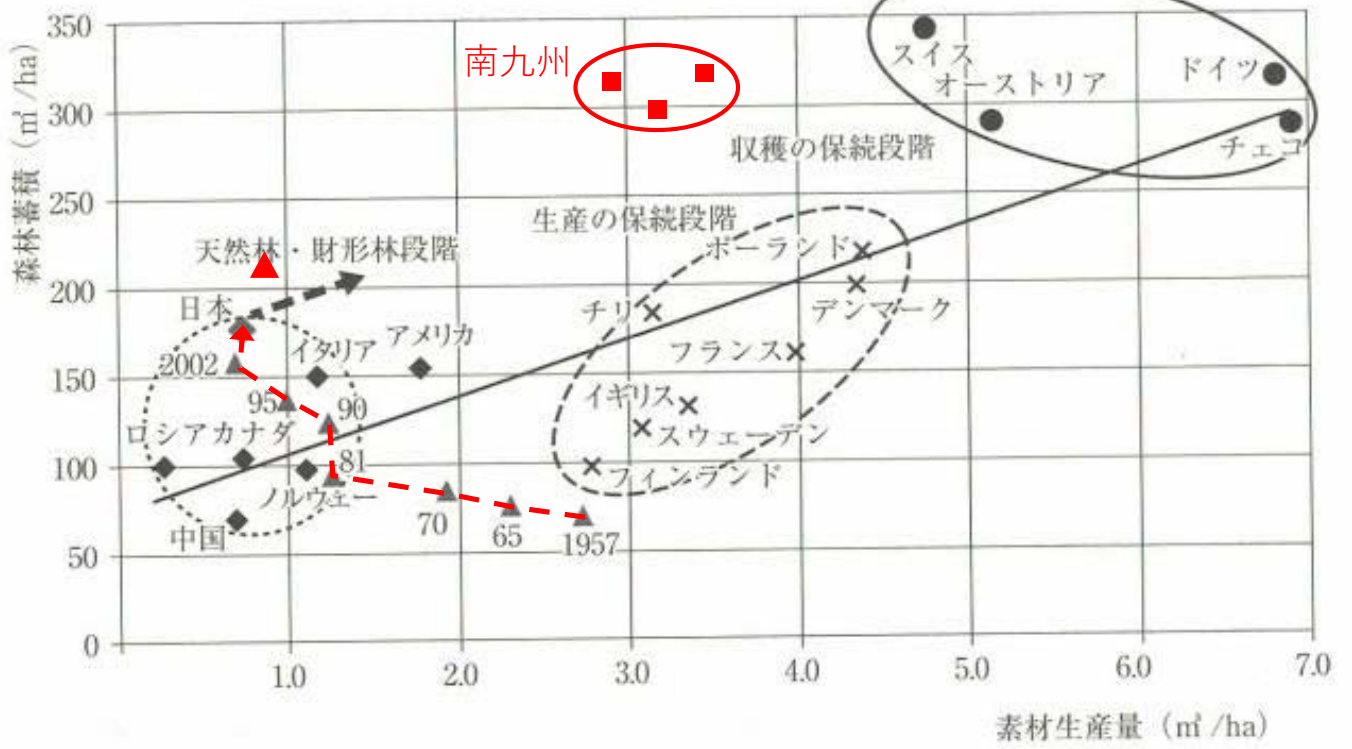
# 日本とドイツの比較

項目	単位	ドイツ (熊崎、2018)	日本
森林面積	万ha	1142	2505
生産林面積	万ha	1088	1020 (人工林)
期首蓄積量	億m3	34.4 (2002年)	30.4 (2012年)
期末蓄積量	億m3	36.6 (2012年)	33.1 (2017年)
平均蓄積量増加量	億m3	0.23	0.54
平均成長量	億m3	1.22	約1.0
素材生産量 (丸太換算)	億m3	0.76	0.3
林地残材	億m3	0.23	約0.2
利用率		80%	50%

(ドイツの) 80%もの利用率は、かなり危険な水準のようにも思えてくる。伐り出しやすい場所や価値の高い林分が優先的に伐採され、状況のあまり良くない森林が残されている可能性があるからである (熊崎、2018)。

## 1haあたり森林蓄積と素材生産量





図序-1 主要先進国の1haあたり森林蓄積と素材生産量 (2010年)

資料：FAO (2010) Global Forest Resources Assessment.

注：▲は1957年から2002年の日本の推移、矢印は2011年基本計画の2020年目標を示す。



# 令和元年度 森林・山村多面的機能発揮対策評価検証事業

## アンケート結果概要



令和2年2月5日  
(公財) 日本生態系協会



### 本日のご説明の内容

- (1) 今年度の調査概要
- (2) 活動組織／地域協議会の概要
- (3) 申請段階
- (4) 活動実施段階
- (5) モニタリング調査
- (6) 年度末書類提出段階
- (7) その他（他団体との協力等）
- (8) 本交付金の効果





## (1) 今年度の調査概要

1. 地域協議会向けアンケート	アンケート送付日：令和元年10月11日（金） アンケート送付方法：郵送およびEメールにて発送 アンケート回収数： <u>45協議会（回収率：100%）</u>
2. 活動組織向けアンケート	アンケート送付日：令和元年10月11日（金） アンケート送付方法：郵送およびEメールにて発送 ※Eメールでは、ダウンロード先についての案内を送付 アンケート回収数： <u>746通（回収率54.7%）</u>
3. 効果チェックシート	アンケート送付・回収は活動組織向けアンケートと並行して実施 回収数： <u>734通（回収率：53.9%）</u>
4. 数字化チェックシート	全国10団体を対象として調査を実施

※上記の1～3のアンケートは10月25日を締切としたが、令和元年12月末までの到着分を集計の対象とした。

3

## (2) 活動組織／地域協議会の概要

### ①活動組織の形態（活動組織向けアンケート）

	回答数	各年度別の調査結果の比率			
	令和元年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	令和元年度
① 任意団体	<b>599</b>	<b>74.3%</b>	<b>76.6%</b>	<b>75.8%</b>	<b>80.3%</b>
② 財団法人・社団法人	14	1.5%	1.5%	1.5%	1.9%
③ NPO法人	82	11.8%	10.8%	11.7%	11.0%
④ 森林組合	28	4.7%	4.9%	5.0%	3.8%
⑤ 企業	8	1.3%	1.3%	1.6%	1.1%
⑥ 学校・幼稚園・保育園	2	0.8%	0.6%	0.6%	0.3%
⑦ その他	9	3.5%	3.7%	2.7%	1.2%

※平成30年度は活動組織向けアンケート調査を実施していない

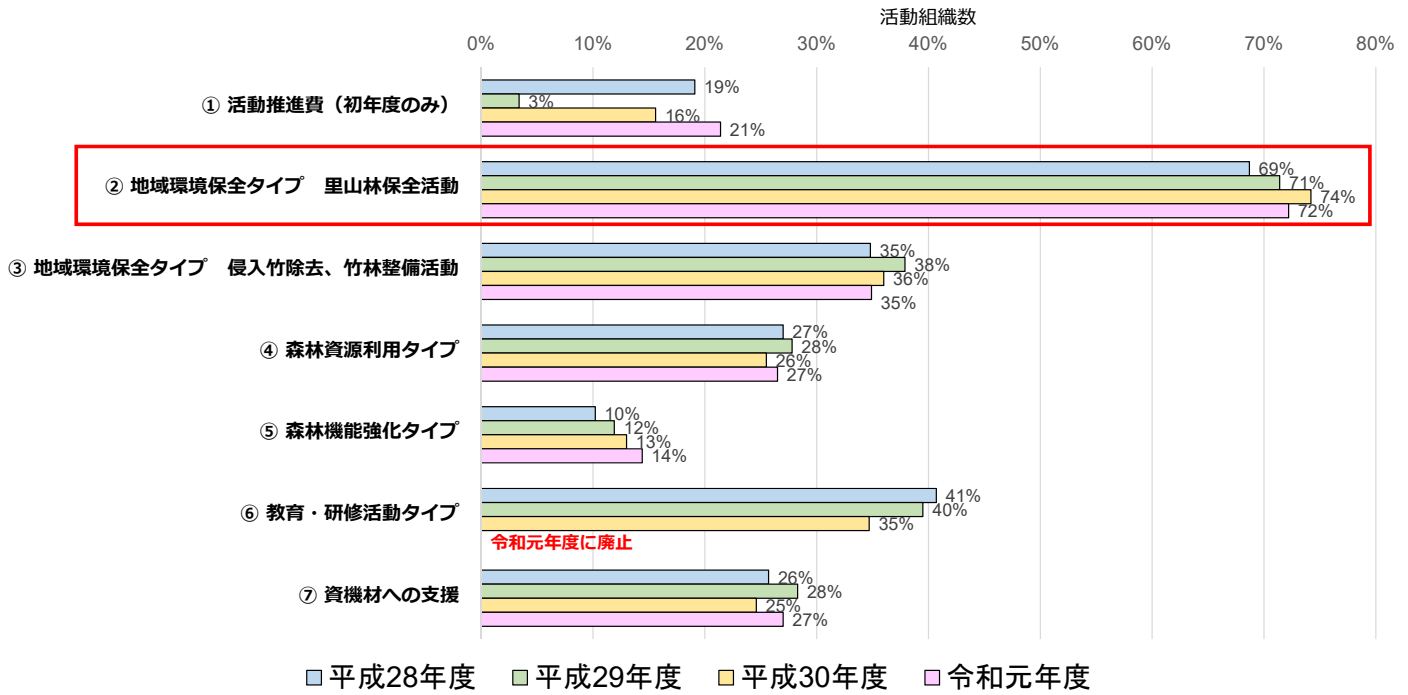
※平成27年度～平成29年度は過年度の調査の結果による

4



## (2) 活動組織／地域協議会の概要

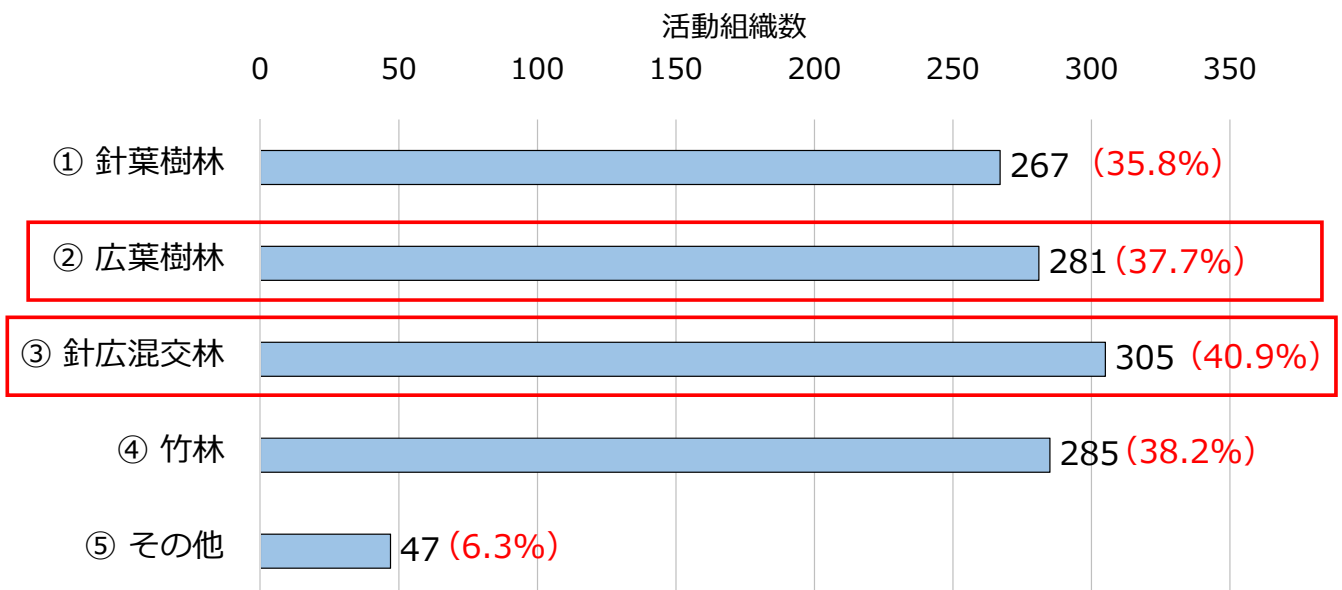
### ②取得している交付金の内容（活動組織向けアンケート）



5

## (2) 活動組織／地域協議会の概要

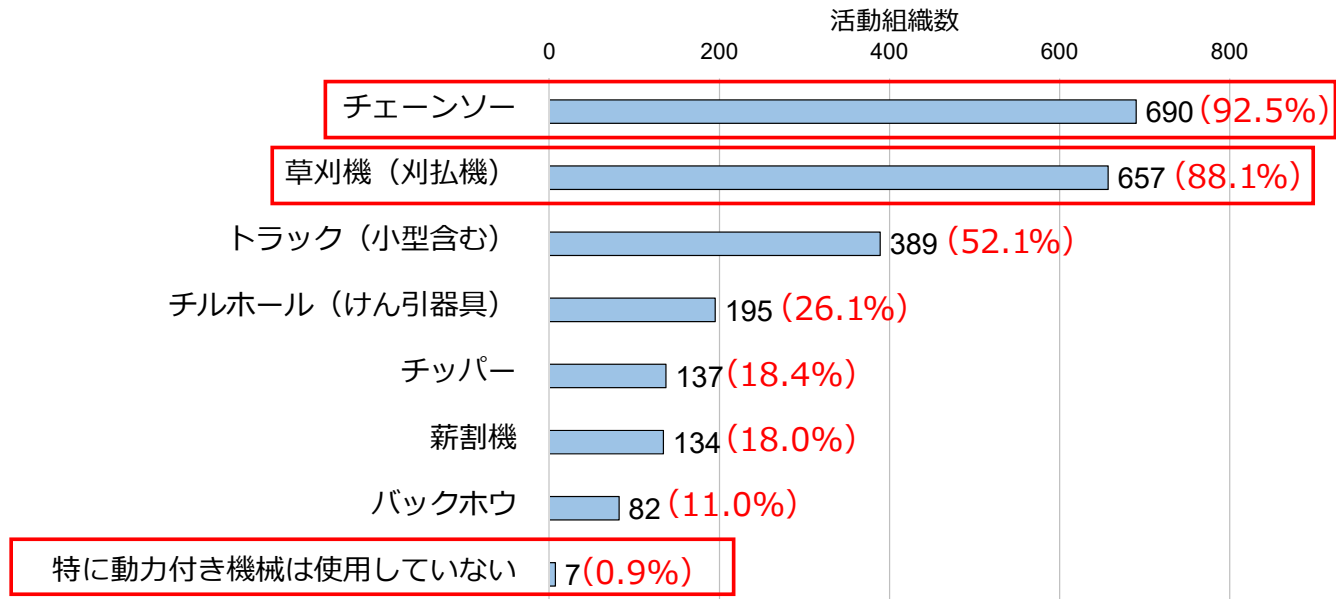
### ③活動対象地の森林（活動組織向けアンケート）



6

## (2) 活動組織／地域協議会の概要

### ④活動組織が使用している動力付き機械（活動組織向けアンケート）

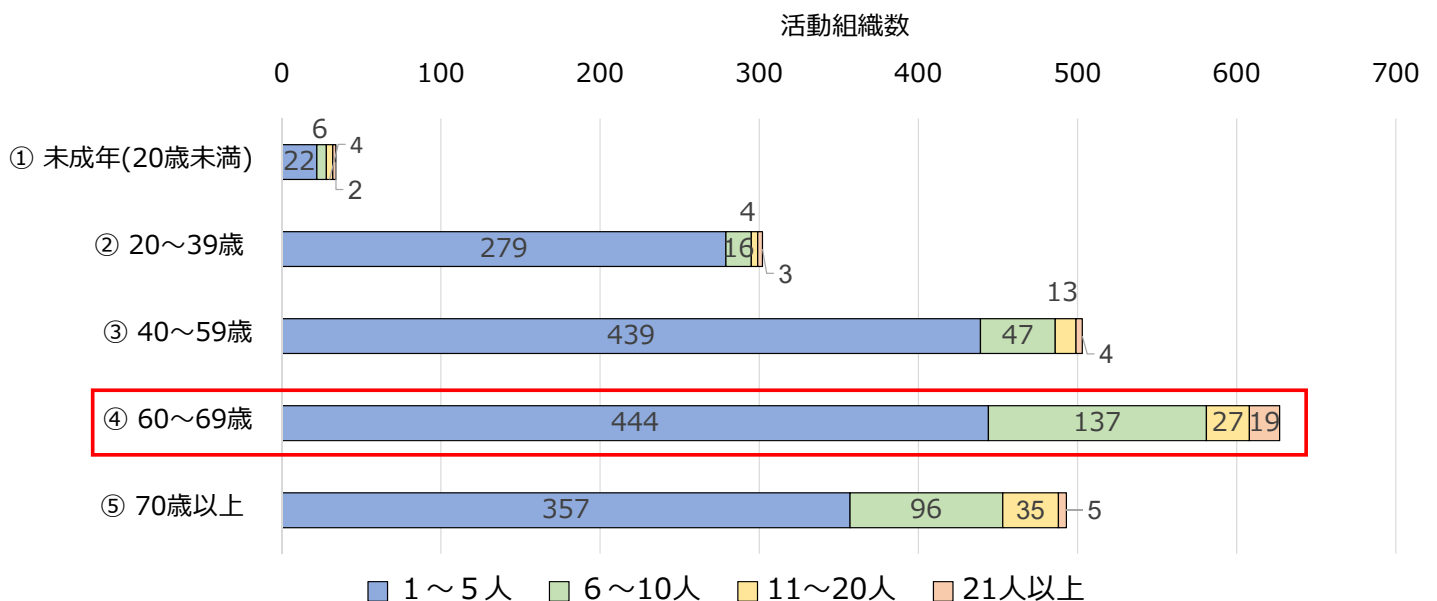


※「バックホウ」はアンケート時の選択肢にはなく、「その他」の自由記述回答による

7

## (2) 活動組織の概要

### ⑤活動組織の年代別参加状況（活動組織向けアンケート）

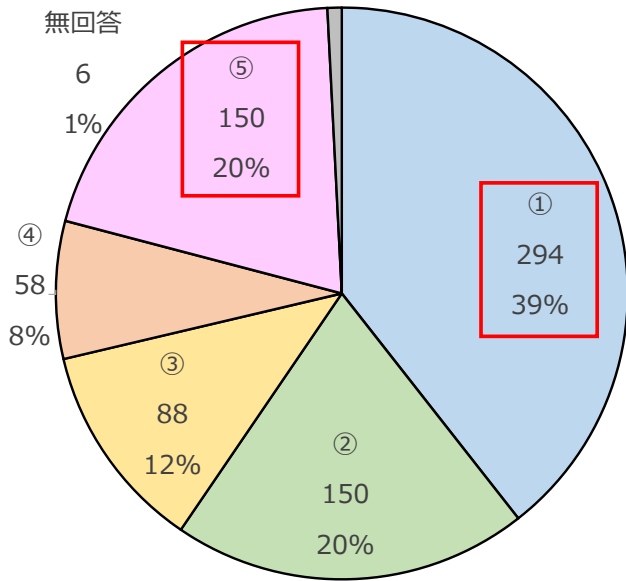


※「参加なし」および「無回答」は図からは除外

8

## (2) 活動組織／地域協議会の概要

### ⑥活動組織の参加者の属性（活動組織向けアンケート）

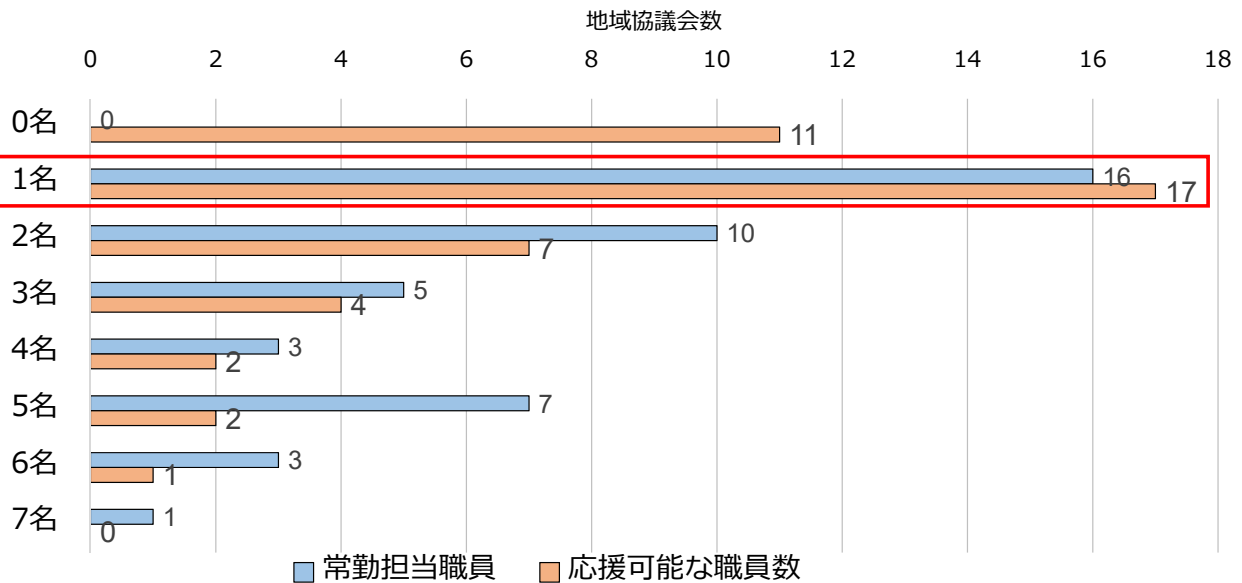


- ① ほぼ100%が地元住民である
- ② 75%以上99%未満程度が地元住民である
- ③ 50%以上75%未満程度が地元住民である
- ④ 25%以上50%未満程度が地元住民である
- ⑤ 地元住民は25%未満である。
- 無回答

9

## (2) 活動組織／地域協議会の概要

### ⑦地域協議会の担当職員数（地域協議会向けアンケート）

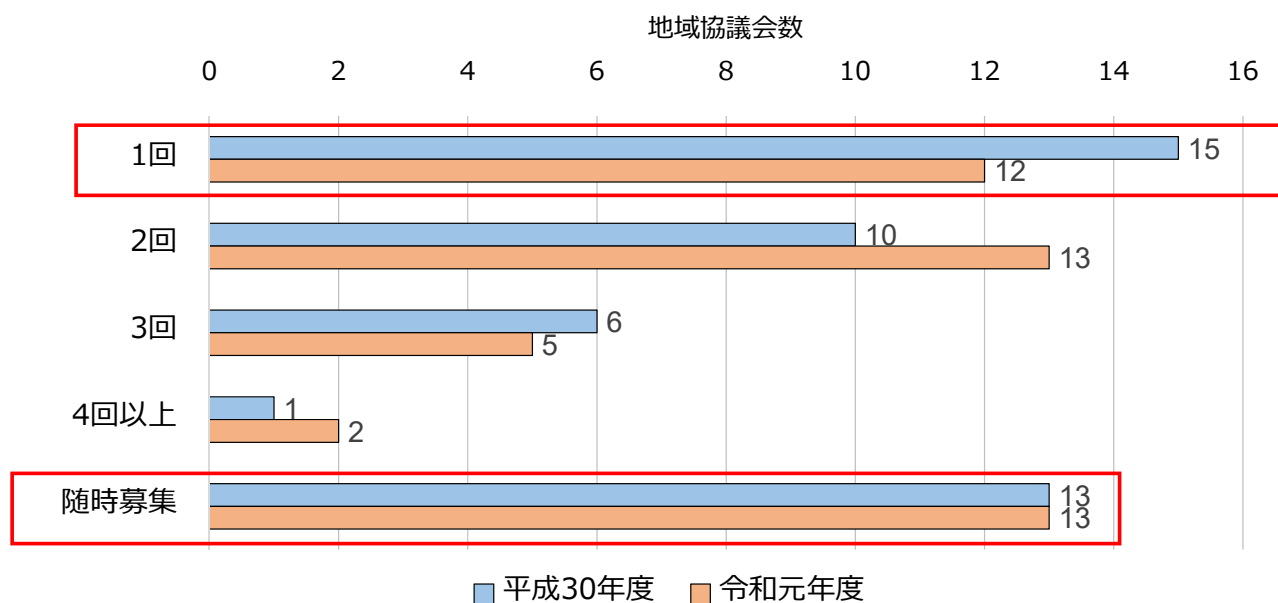


常勤担当職員+応援可能な職員数	平均値	<u>4.2</u>	中央値	<u>4</u>
-----------------	-----	------------	-----	----------

10

### (3) 申請段階

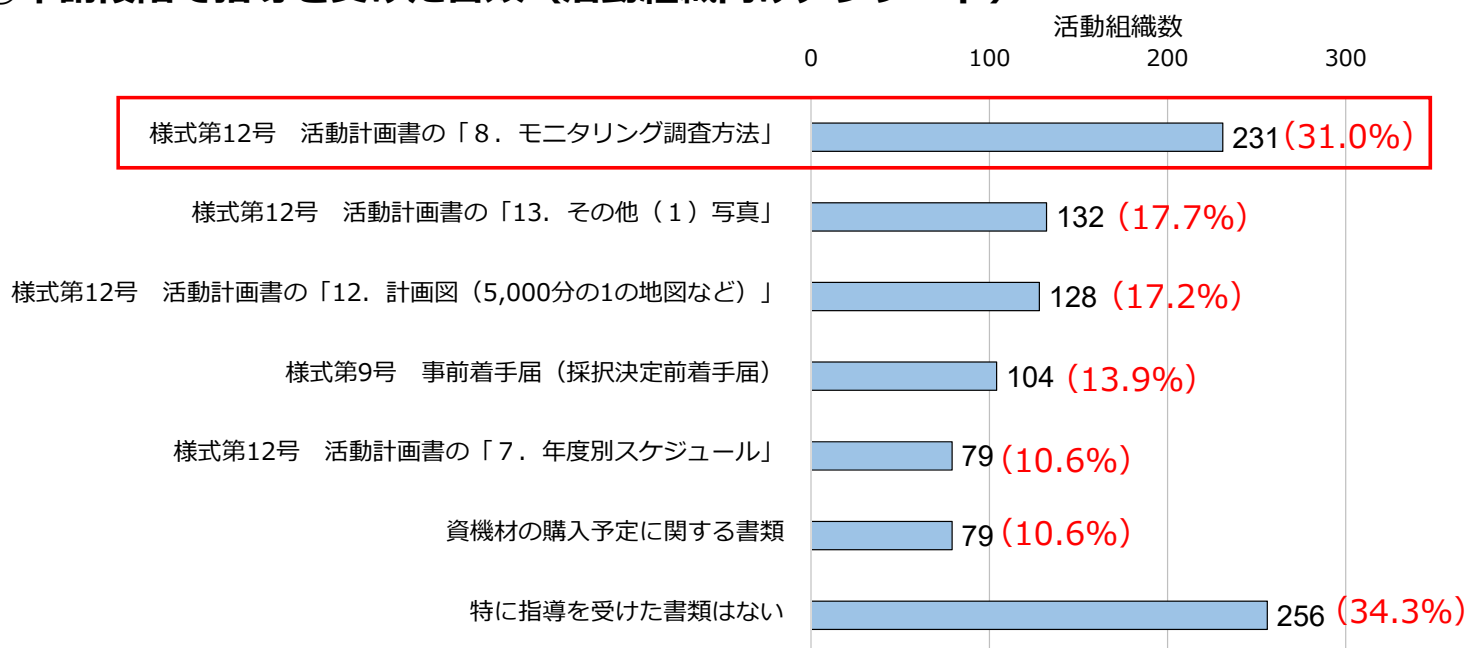
#### ⑧ 交付金の募集回数（地域協議会向けアンケート）



11

### (3) 申請段階

#### ⑨ 申請段階で指導を受けた書類（活動組織向けアンケート）

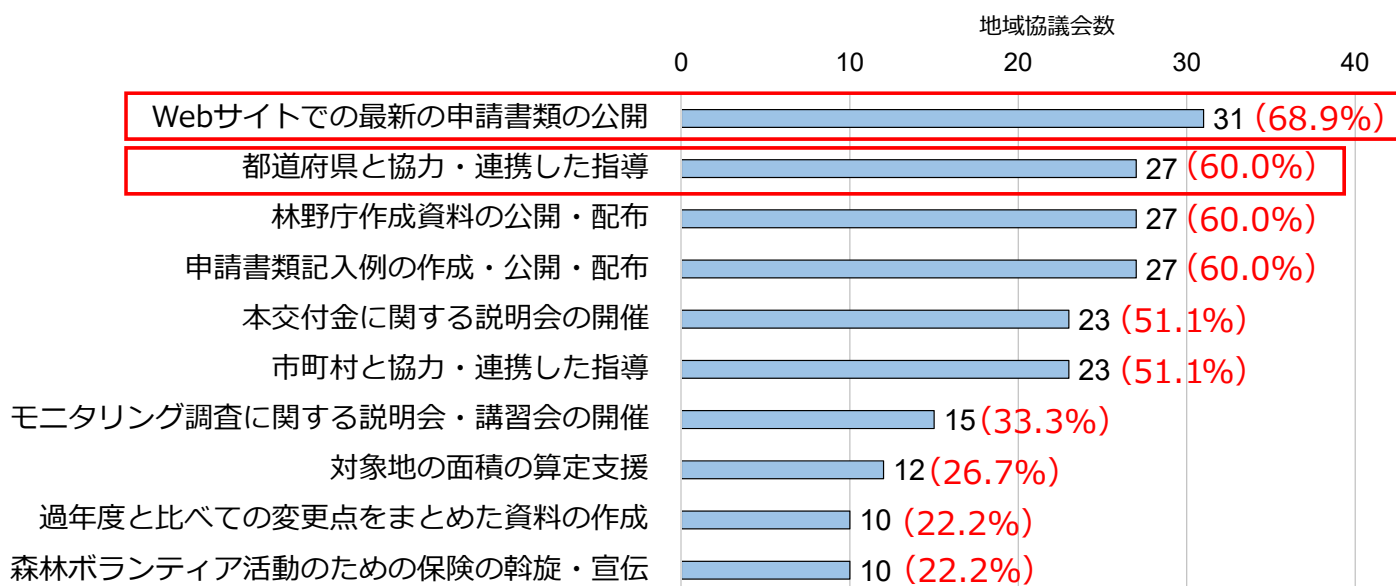


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

12

### (3) 申請段階

#### ⑩申請団体が応募しやすくするために令和元年度に実施した支援（地域協議会向けアンケート）

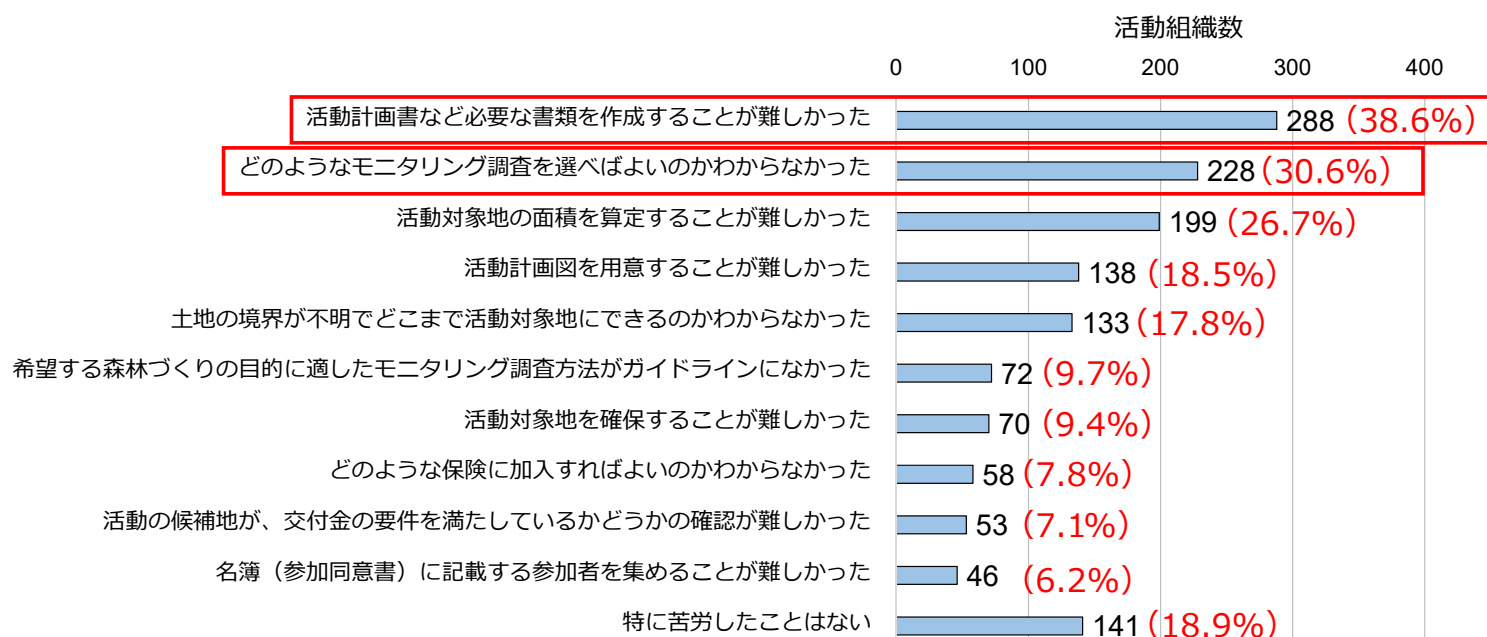


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

13

### (3) 申請段階

#### ⑪申請段階で苦労したこと（活動組織向けアンケート）

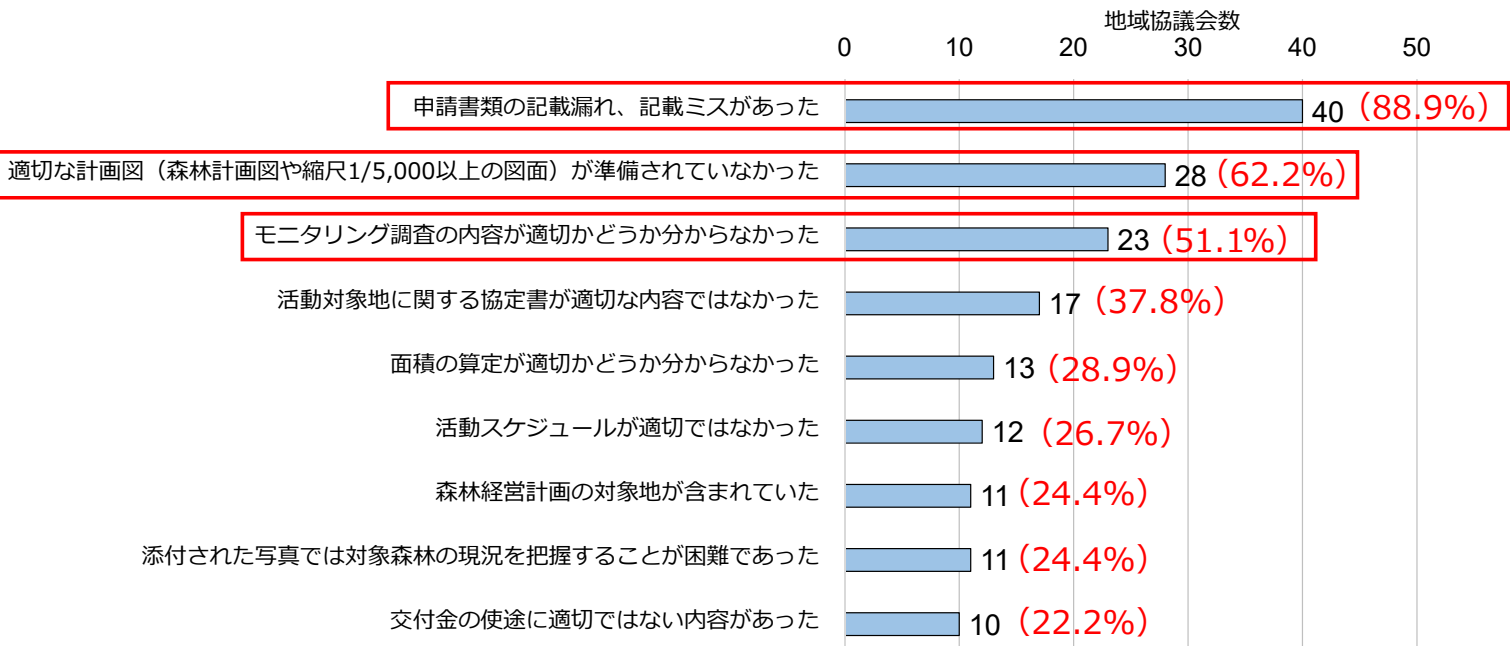


※回答の比率が5%を超えるもののみ抽出

14

## (3) 申請段階

### ⑫ 応募団体の申請に対する修正・指導内容（地域協議会向けアンケート）

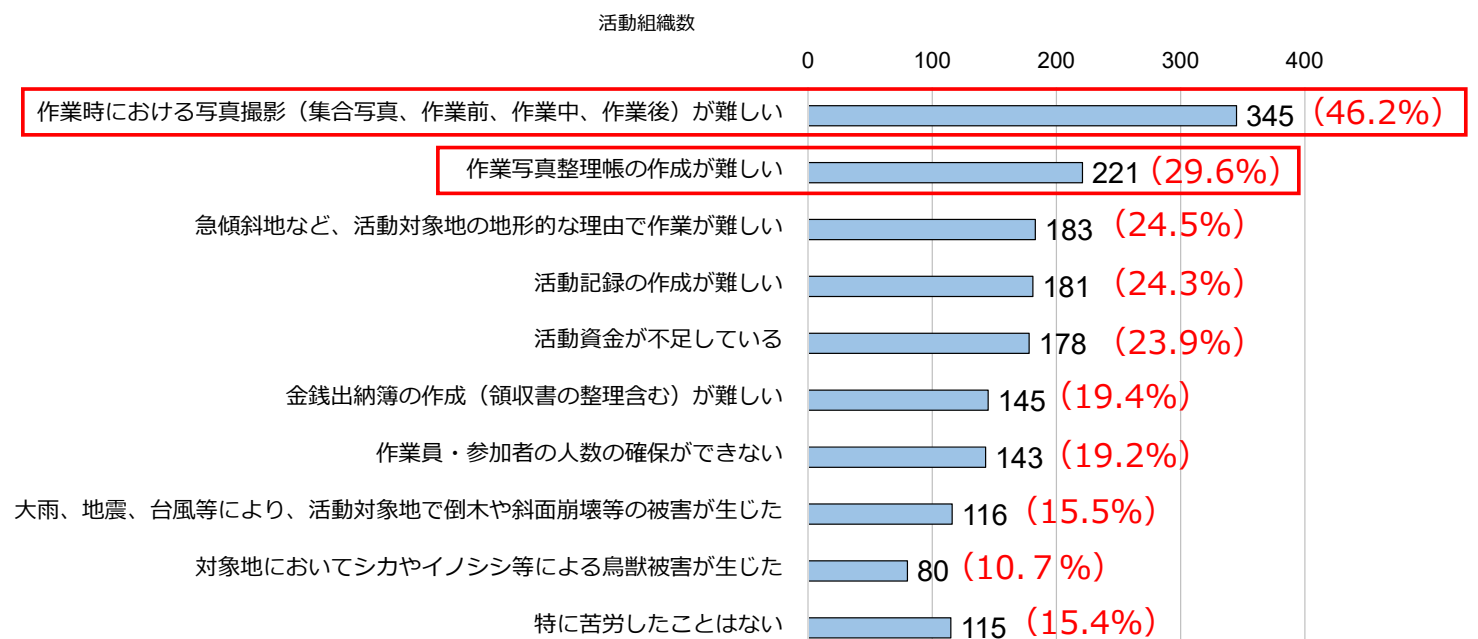


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

15

## (4) 活動実施段階

### ⑬ 活動実施段階で苦労したこと（活動組織向けアンケート）

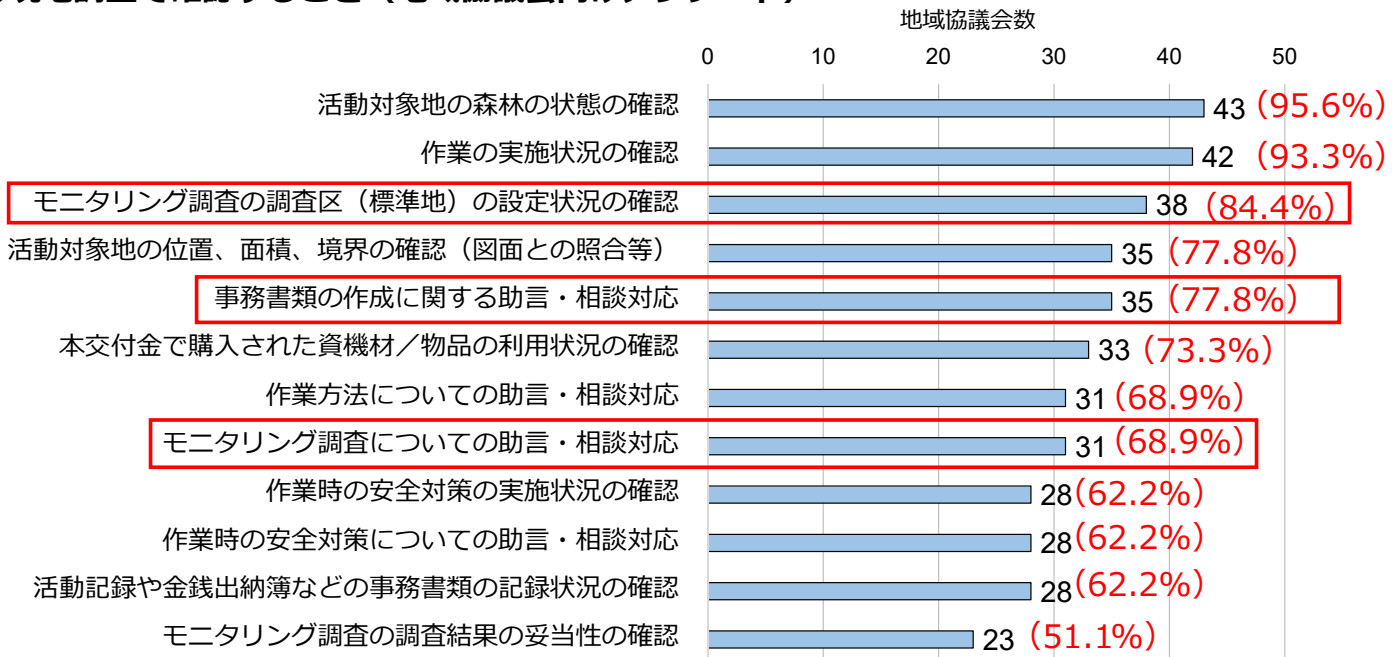


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

16

## (4) 活動実施段階

### ⑬ 現地調査で確認すること（地域協議会向けアンケート）

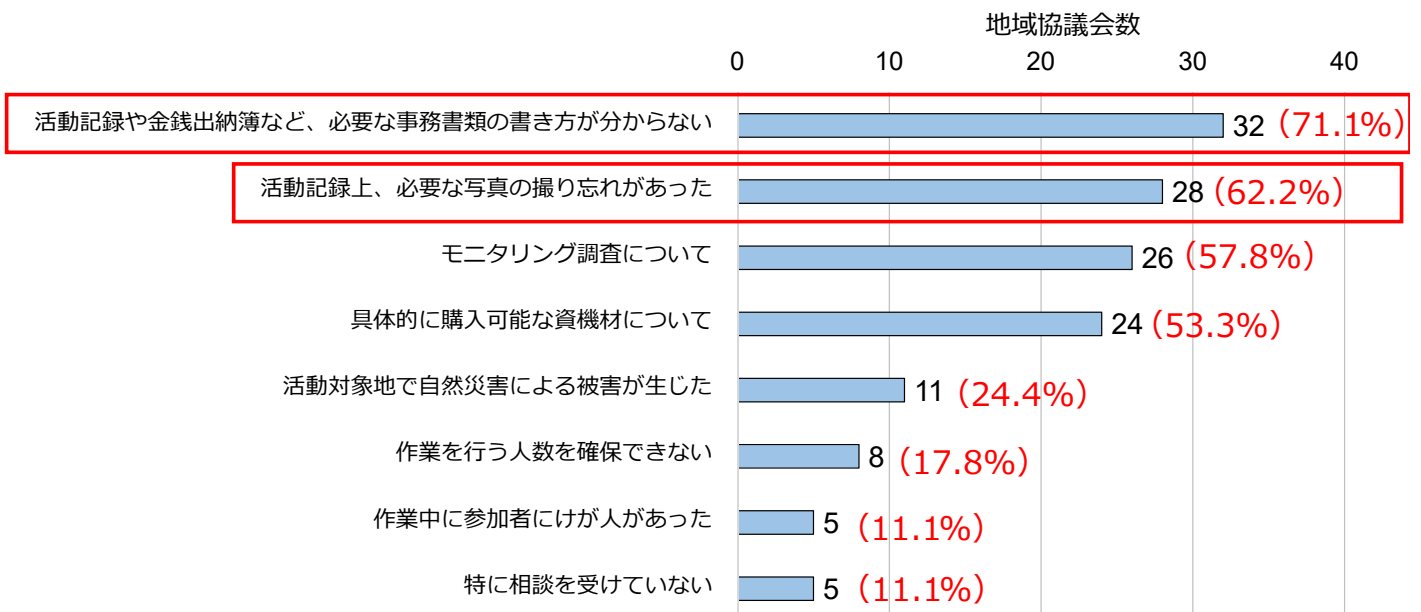


※回答の比率が50%を超えるもののみ抽出

17

## (4) 活動実施段階

### ⑭ 活動実施段階で地域協議会に寄せられた相談（地域協議会向けアンケート）



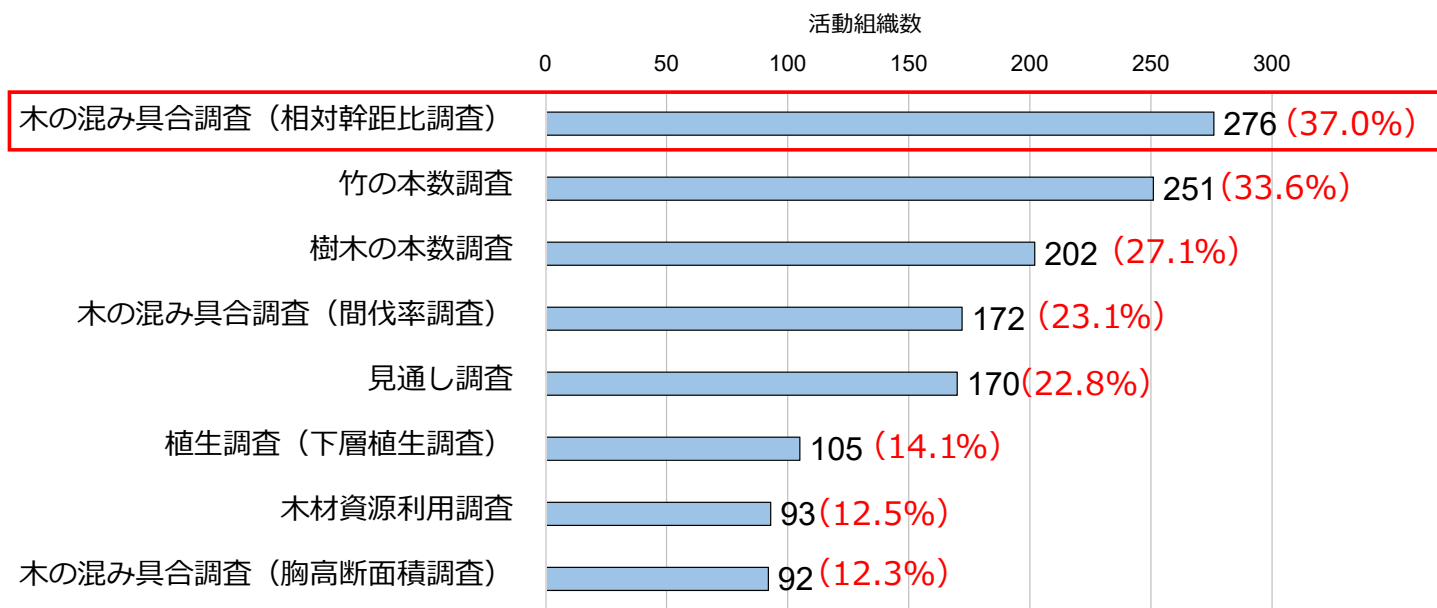
※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

※自由記述欄回答では、災害被害に関する相談があった旨の回答もあり

18

## (5) モニタリング調査

### ⑮実施しているモニタリング調査（活動組織向けアンケート）



※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

19

## (5) モニタリング調査

### ■主な「その他」調査

※アンケートの自由記述欄に記載されたモニタリング調査のガイドラインに記載されていない調査

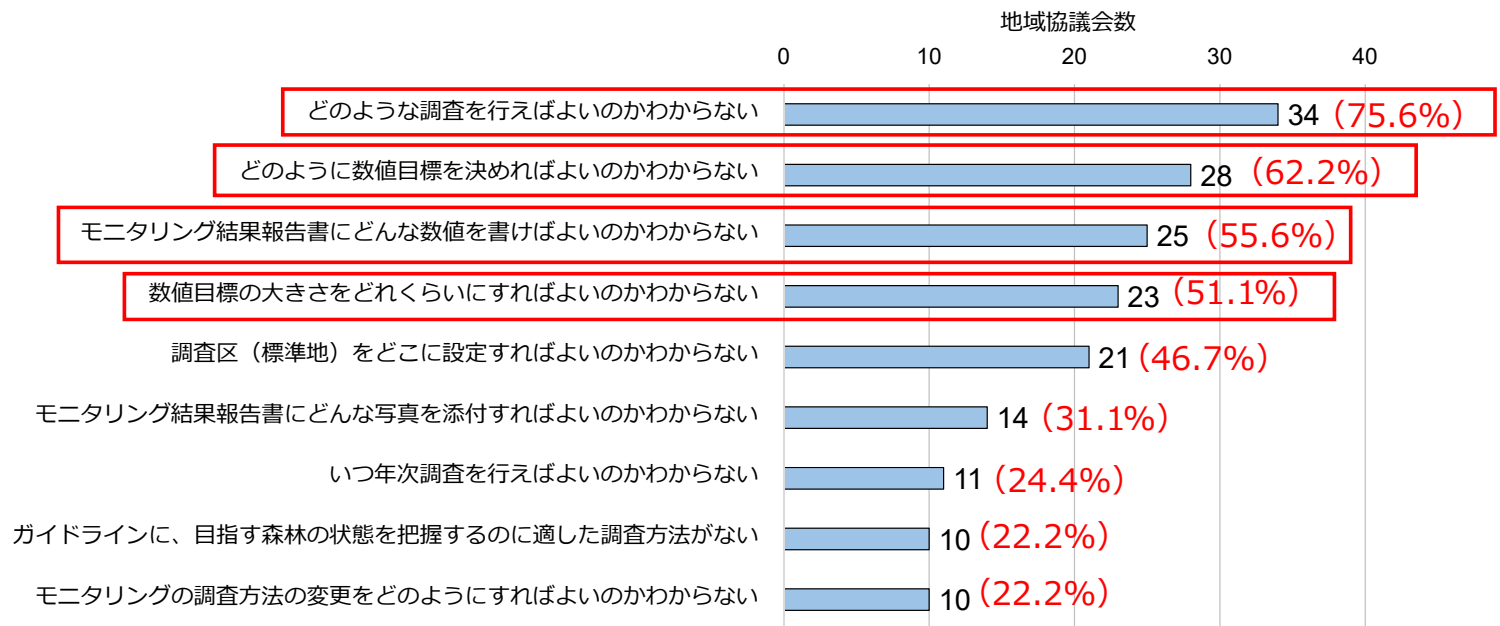
- ササの侵入率調査
- 風倒木調査、危険木調査（立枯木・倒木の調査）、台風による倒木の全数調査
- ホタルの飛翔数目視確認調査
- 対象地域(住民) を対象とした効果を確認するための独自のアンケート調査
- 照度調査

20



## (5) モニタリング調査

### ⑯ モニタリング調査に関連して地域協議会に寄せられた問い合わせ（地域協議会向けアンケート）

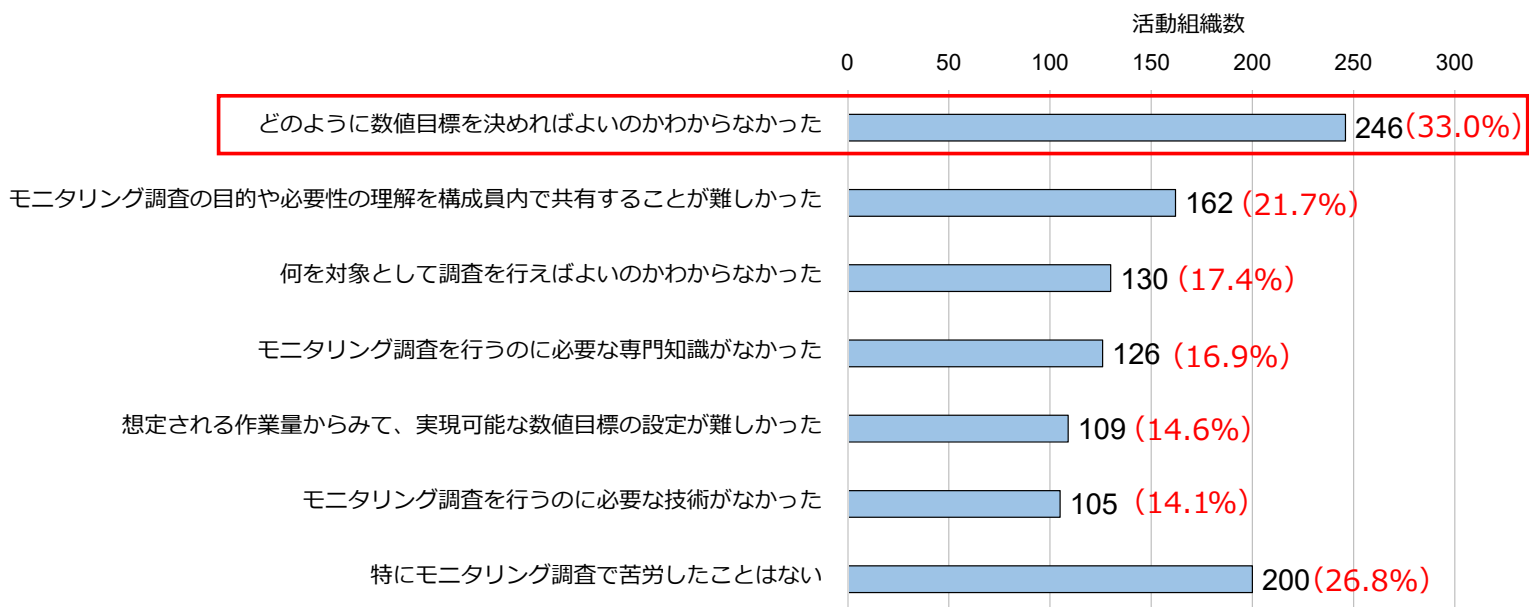


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

21

## (5) モニタリング調査

### ⑰ モニタリング調査に関連して苦労したこと（活動組織向けアンケート）

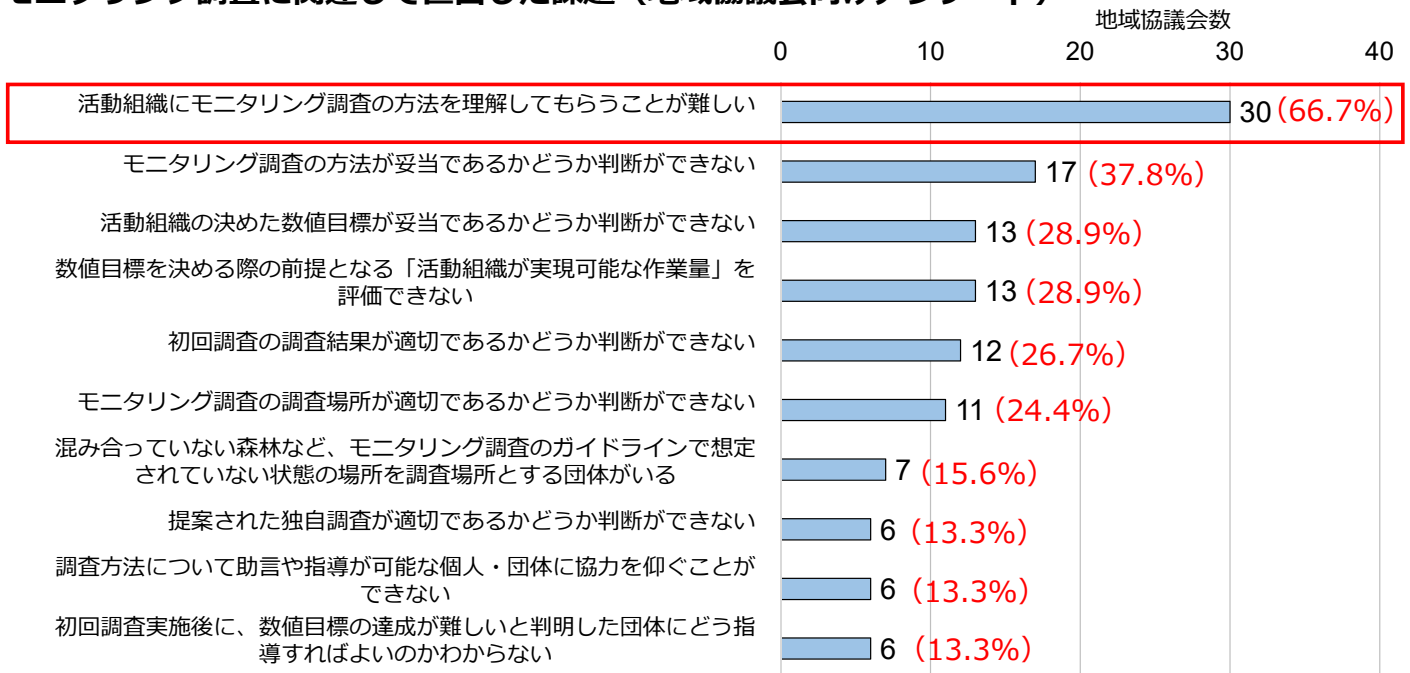


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

22

## (5) モニタリング調査

### ⑱ モニタリング調査に関連して直面した課題（地域協議会向けアンケート）

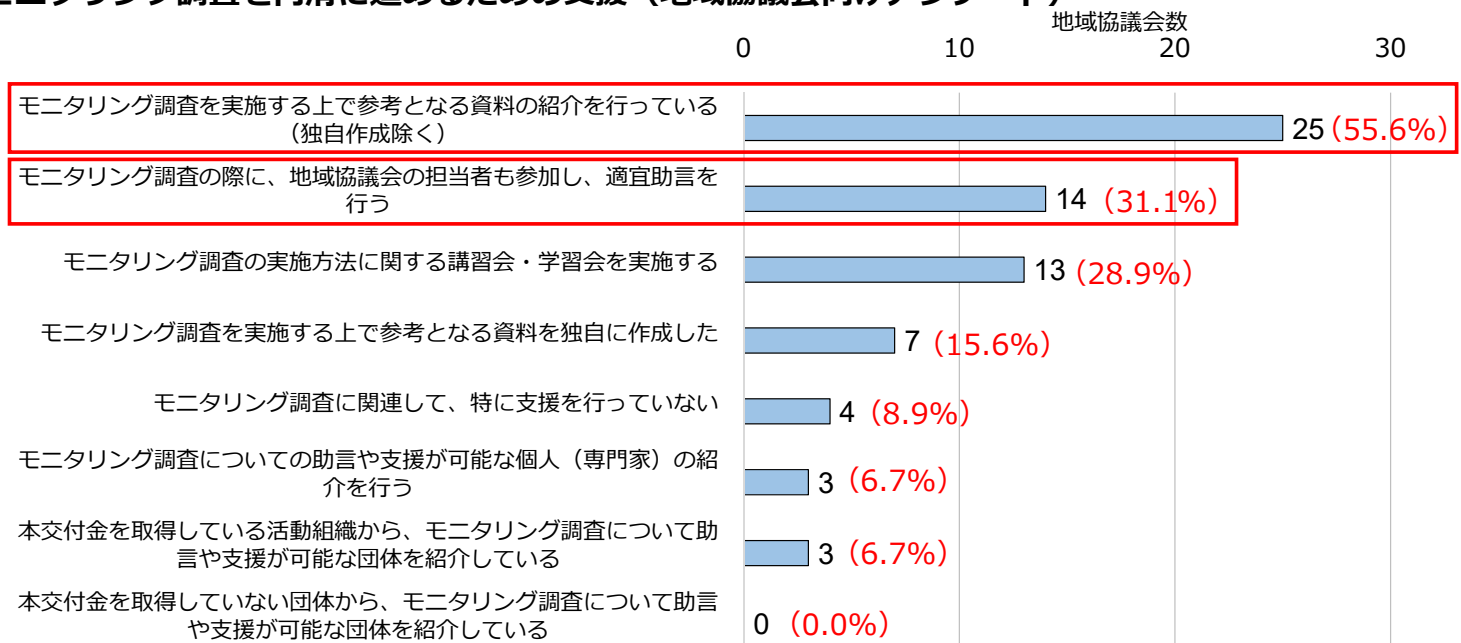


※該当の質問の上位10項目を抽出

23

## (5) モニタリング調査

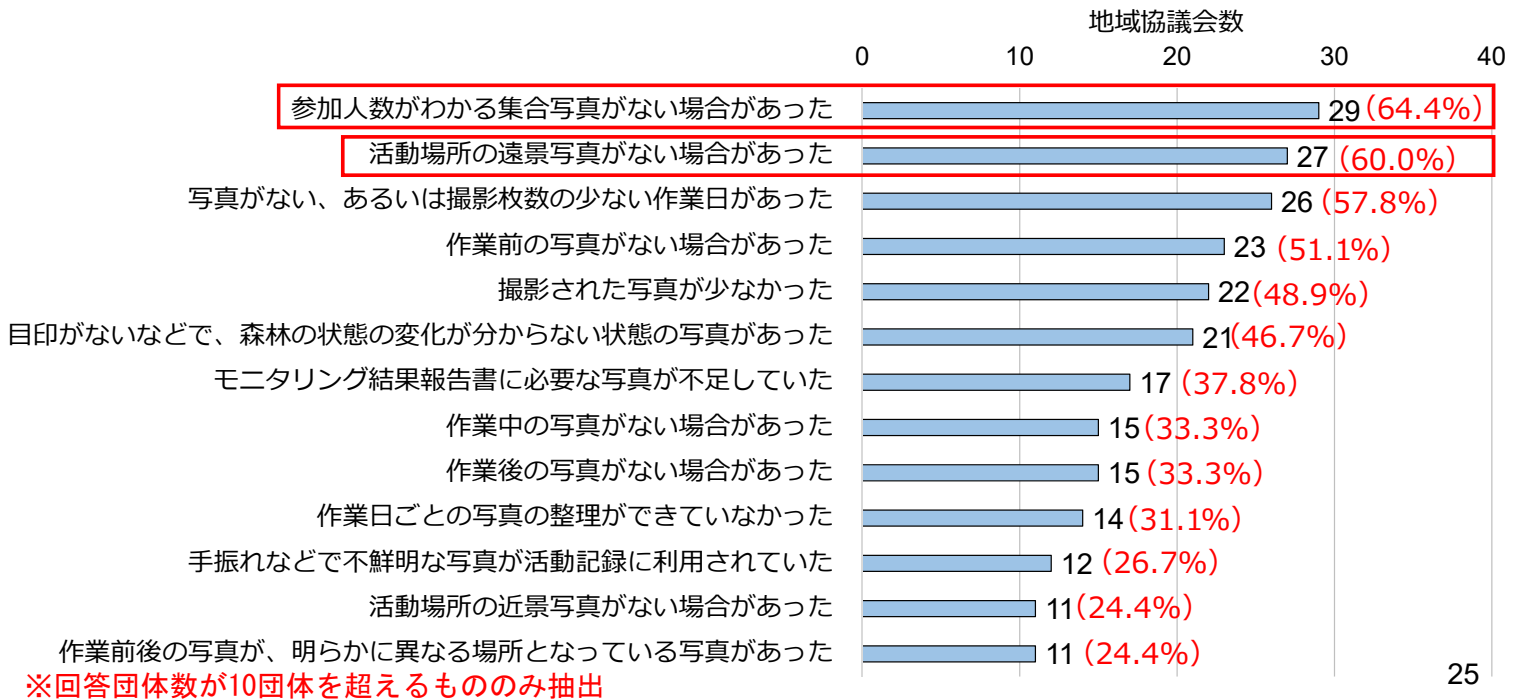
### ⑲ モニタリング調査を円滑に進めるための支援（地域協議会向けアンケート）



24

## (6) 年度末書類作成段階

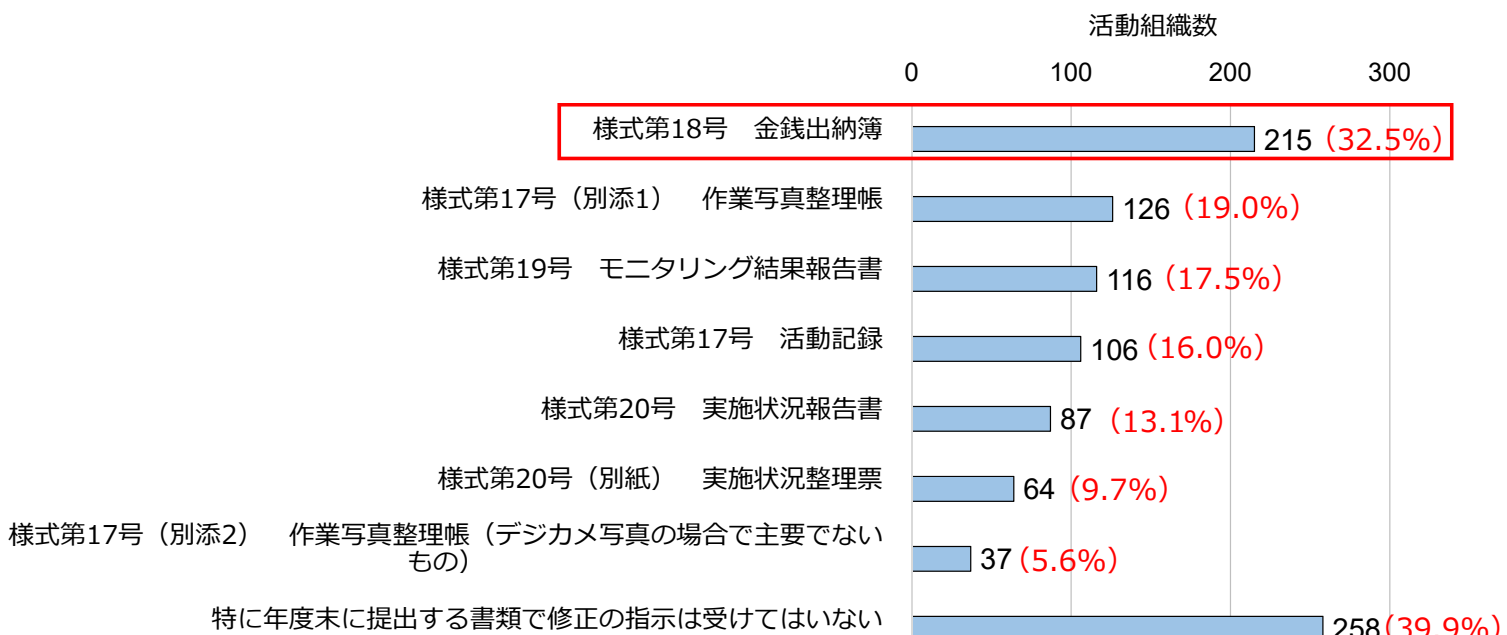
### ⑩写真撮影で生じた課題（地域協議会向けアンケート）



25

## (6) 年度末書類作成段階

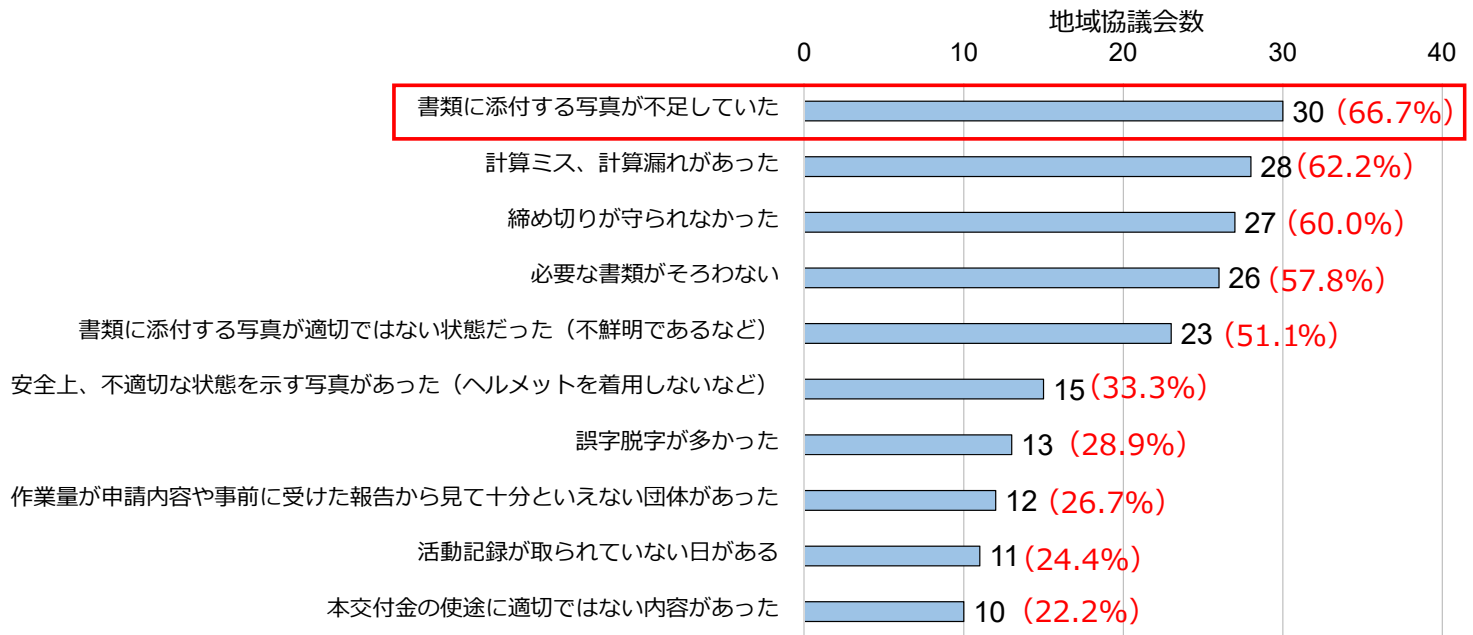
### ⑪修正の指示を受けた書類（活動組織向けアンケート）



26

## (6) 年度末書類作成段階

### ② 年度末書類の作成時に生じた課題（地域協議会向けアンケート）

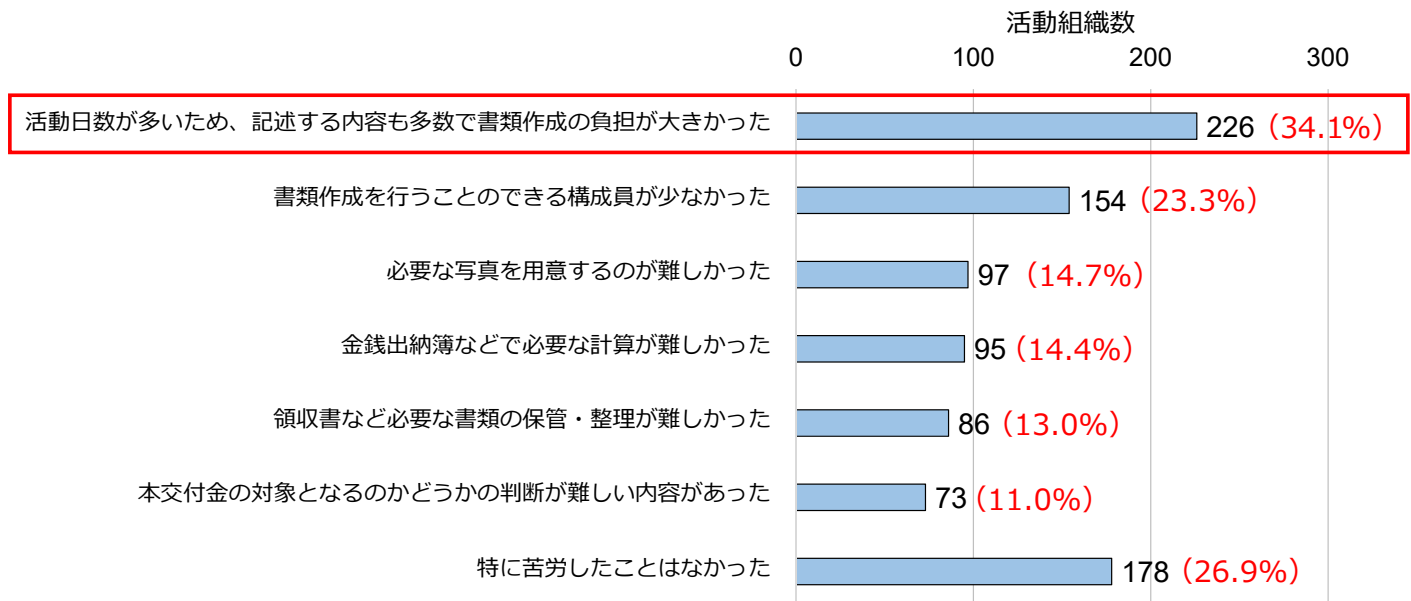


※回答団体数が10団体を超えるもののみ抽出

27

## (6) 年度末書類作成段階

### ③ 年度末書類の作成で苦労したこと（活動組織向けアンケート）



※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

28

## (7) その他

### ②⑤活動組織と他団体の協力関係（活動組織向けアンケート）

協力団体	支援を受けた内容						
	A 書類作成	B (助言) 森林内での活動	C 安全講習	D 資機材の貸与	E 広報活動	F モニタリング調査	G 特に協力関係はない
① 都道府県	161	110	133	31	43	99	269
② 市町村	214	107	50	35	90	64	230
③ 地域の森林組合等の林業関係団体	97	153	208	46	22	69	252
④ NPO、森林ボランティア団体	50	111	92	22	37	41	312
⑤ 大学や研究機関（研究者）	7	48	8	1	6	17	378

29

## (7) その他

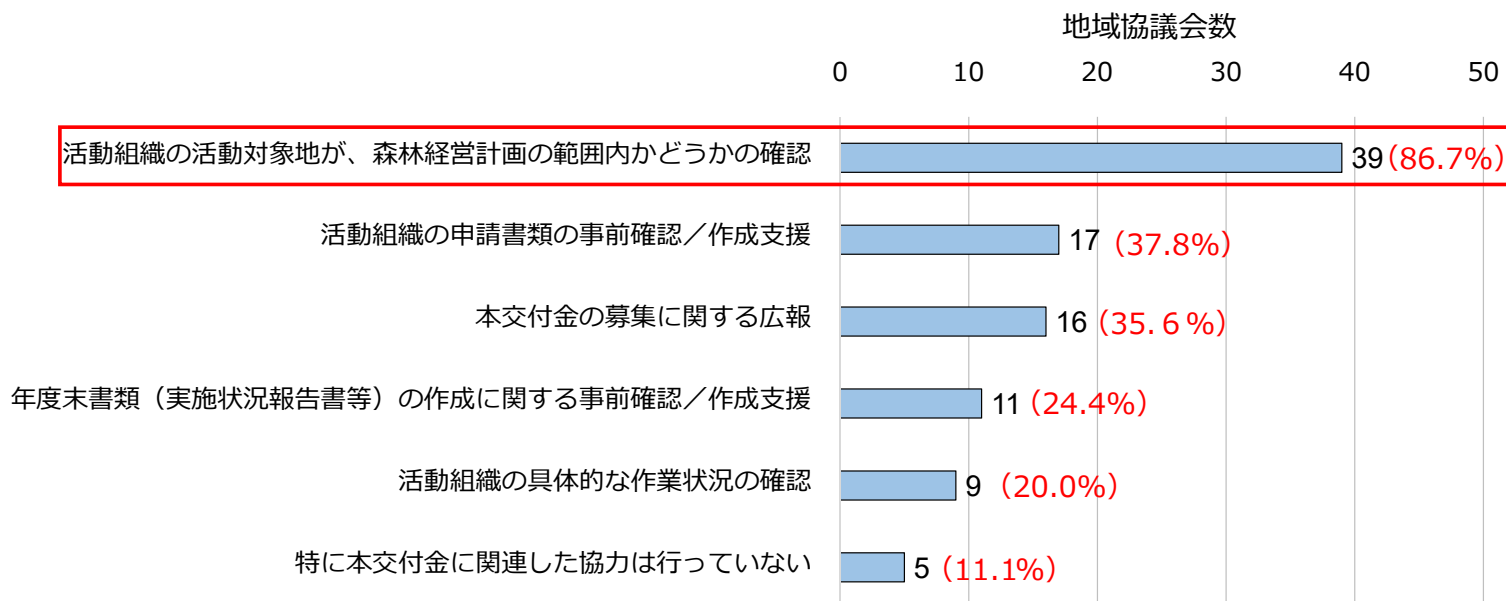
### ②⑥地域協議会と他団体の協力関係（地域協議会向けアンケート）

協力団体	協力内容	指導	助言	安全	資機材	広報	モニタ	特に
		書類 作成の	につ つ業 いて 活動	等の 実施 の講	の貸 材の	活動	リ ン 支	協 力 関 係 は な い
① 都道府県		15	17	12	1	23	12	5
② 別の地域協議会		4	5	0	0	1	1	31
③ 森林組合		2	4	3	1	4	0	25
④ 公益法人、NPO		1	0	4	0	3	0	31
⑤ 大学・研究機関（研究者）		0	1	0	0	1	1	36
⑥ その他		1	1	2	2	2	1	17

30

## (7) その他

### ㉗ 地域協議会と市町村の協力関係（地域協議会向けアンケート）

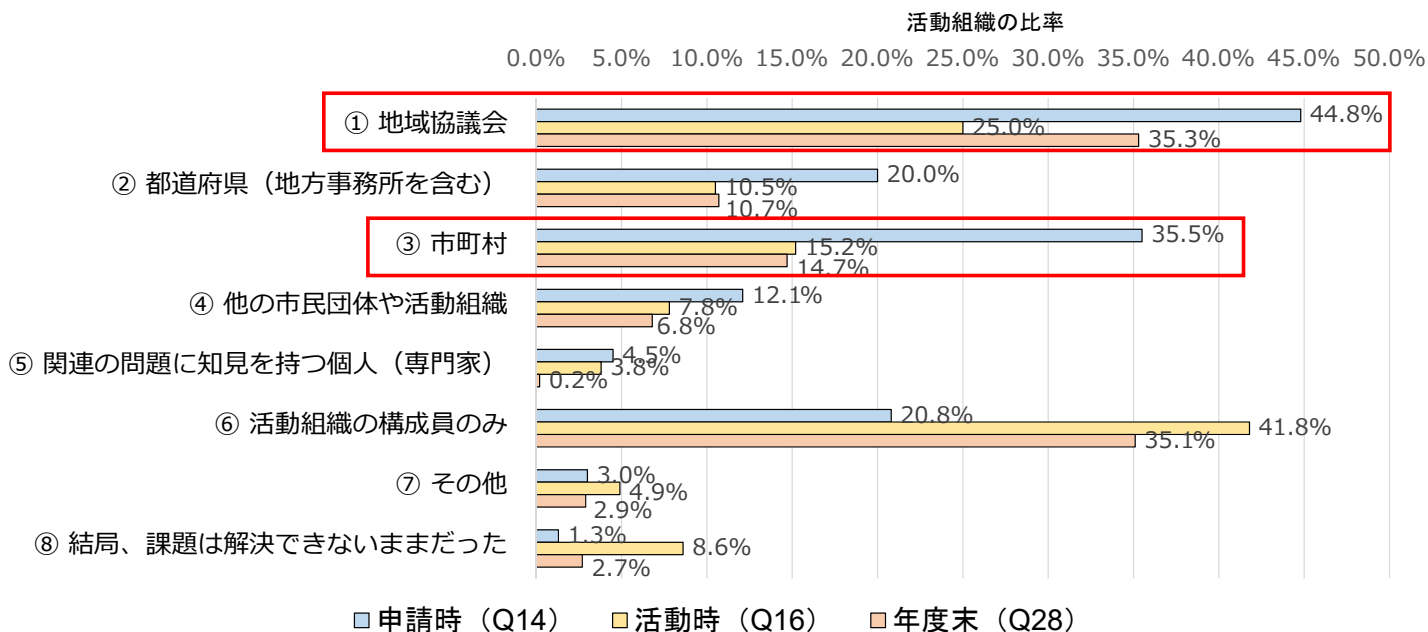


※回答の比率が10%を超えるもののみ抽出

31

## (7) その他

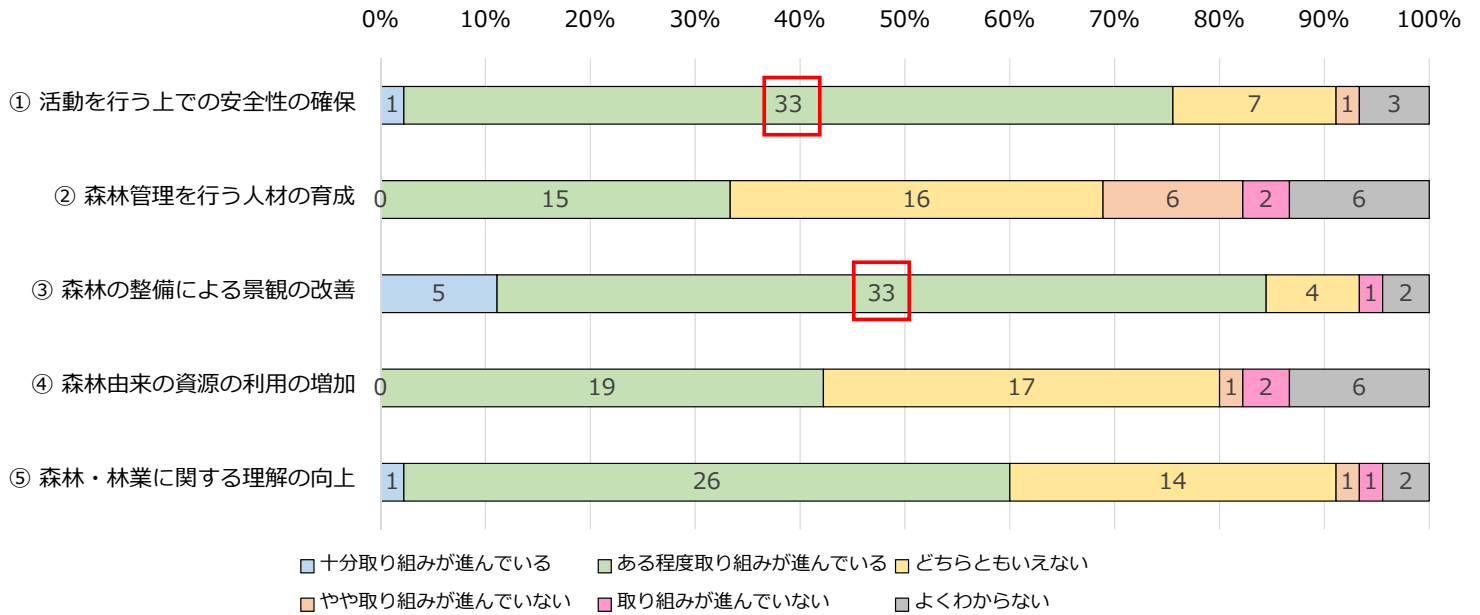
### ㉘ 活動組織の相談先（活動組織向けアンケート）



32

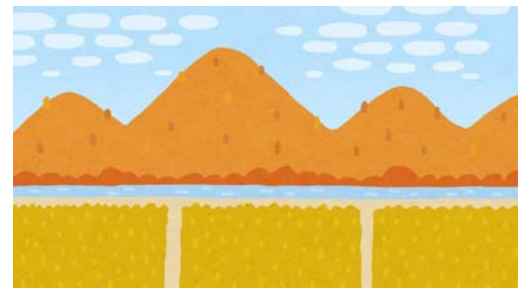
## (8) 本交付金の効果

### ⑨ 本交付金の取り組みに関する進展状況（地域協議会向けアンケート）



※グラフ内の数字は地域協議会数

33



ご清聴いただきありがとうございました



34





森と人とのつながりなど、森林整備以外の多面的機能を  
どのように評価していくか

# チェックシート調査結果報告

令和2年 2月6日  
(公財) 日本生態系協会

1

## 本日のご説明の内容

- ▶ 今年度の調査概要
- ▶ 数字化チェックシートによる経済価値評価
- ▶ 効果チェックシートの結果について

2

# 今年度の調査概要

デジタルチェックシート	日本全国から <u>10団体</u> を抽出して、チェックシートに基づく聞き取り調査を実施。得られた結果に基づき、昨年度の評価手法に準じる形で経済価値評価を実施。
効果チェックシート	10月11日（金）に活動組織向けアンケート調査に同封する形で、回答を依頼。締め切りは10月25日（金）としたが、令和元年12月末までに届いた回答を集計した。チェックシートの回収数は <u>734通</u> （回収率：53.9%）

## 【参考情報：本交付金の政策目標】

- 平成33年度（令和3年度）までに、各支援メニューごとに設定された森林の多面的機能の発揮に関する目標を達成した活動組織の割合を80%とする。
  - ▶ モニタリング調査により目標達成状況を確認
- 自主的に横展開を図る取組を行うなど地域コミュニティの維持・活性化につながる活動を行った活動組織の割合を毎年度増加させる。
  - ▶ 効果チェックシートにより目標達成状況を確認

3

# デジタルチェックシートによる経済価値

活動の効果	算定する効果 (アウトカム)	期待される変化 (アウトプット)	活動に関する数値 (指標値)
自然から恵みを受ける (新たに整備した森林面積からの利益) (単位:円/年)	水源涵養 土砂流出防止 二酸化炭素吸収 生物多様性保全	長期にわたり手入れされていない森林を整備したことによる多面的機能の発揮	<u>長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる森林を整備した面積</u> 広葉樹、針葉樹、竹林の整備面積 (ha)
森林整備活動・地域コミュニティが広がる (活動・打合せ実施、メディア紹介) (単位:円/年)	構成員（活動参加者）の意識向上	森林整備活動への参加機会の増加	<u>森林整備活動への参加人数・時間</u> (構成員に限る)
	コミュニティ活性化	打合せ実施による地域コミュニティの交流の増加	<u>年間の打合せ参加人数・時間</u> (構成員に限る)
	活動の認知度・イメージ向上	各種媒体を通じた活動の周知	<u>新聞・雑誌、テレビ、WEBニュースサイトの掲載回数（時間）</u>
市民が森林・山村を楽しむ、学ぶ (イベント参加者) (単位:円/年)	市民（子供・大人）の森林・山村への理解向上	環境教育・自然体験イベント等への参加機会の増加	<u>自組織が主催する環境教育・自然体験イベント等への参加人数（大人・子ども）・時間</u> (構成員以外の一般参加者で、運営協力者も含む)

4

# デジタルチェックシートによる経済価値評価

団体数		A団体	B団体	C団体	D団体	E団体	F団体	G団体	H団体	I団体	J団体
作業結果	活動・打合せへの累計参加人数 (単位:人/年)	66	210	97	80	380	1,084	290	530	130	296
	環境教育・自然体験イベント等への 累計参加人数 (単位:人/年)	60	0	11	0	80	60	100	160	30	200
	新たに整備した森林面積 (単位:ha)	3.7	7.9	3	1.6	18	3.6	7	20	3	2
活動の効果	自然から恵みを受ける (新たに整備した森林面積からの利益) (単位:円/年)	1,611,714	3,441,227	1,306,795	696,957	7,840,771	1,568,154	3,049,189	8,711,968	1,306,795	871,197
	森林整備活動・地域コミュニティが 広がる (活動・打合せ実施、メディア紹介) (単位:円/年)	613,160	2,370,940	1,315,246	634,580	4,015,280	7,515,944	2,199,800	5,183,740	1,551,160	1,695,296
	市民が森林・山村を楽しむ、学ぶ (イベント参加者) (単位:円/年)	255,600	0	130,776	0	955,320	490,560	618,360	1,335,680	319,500	2,427,000
	活動の効果 合計額 (単位:円) (A)	2,480,474	5,812,167	2,752,817	1,331,537	12,811,371	9,574,658	5,867,349	15,231,388	3,177,455	4,993,493
交付額	国からの総額 (単位:円/年) (B)	644,500	1,457,000	634,332	447,000	1,557,000	341,000	1,840,000	2,628,000	760,892	282,000
	国・地方分も含めた総額 (単位:円/ 年) (C)	848,967	1,822,000	634,332	596,000	1,557,000	445,000	2,224,000	2,628,000	936,892	376,000
費用対効果	費用対効果 (国からの支出額比) (A /B)	<b>3.85</b>	<b>3.99</b>	<b>4.34</b>	<b>2.98</b>	<b>8.23</b>	<b>28.08</b>	<b>3.19</b>	<b>5.80</b>	<b>4.18</b>	<b>17.71</b>
	費用対効果 (国・地方からの支出額 比) (A/C)	<b>2.92</b>	<b>3.19</b>	<b>4.34</b>	<b>2.23</b>	<b>8.23</b>	<b>21.52</b>	<b>2.64</b>	<b>5.80</b>	<b>3.39</b>	<b>13.28</b>

# デジタルチェックシートによる経済価値評価

デジタルチェックシート (H30報告書 p.106)

活動量についてのヒアリング (H30報告書 p.99)

図表 70 森林・山村多面的機能発揮に対する活動の変化・成果をデジタル化するチェックシート(案)  
活動の変化・成果のデジタル化 (平成30年度の活動実績についてお答えください)

No	項目	基礎情報	内容詳細
1	交付金による 森林整備活動 について	活動の平均参加人数 約 人/回 (構成員の参加人数) 活動の平均時間 時間/回 (準備・片付け時間も含む) 活動の年間回数 回	活動タイプ: _____ 活動内容: _____
2		活動の平均参加人数 約 人/回 (構成員の参加人数) 活動の平均時間 時間/回 (準備・片付け時間も含む) 活動の年間回数 回	活動タイプ: _____ 活動内容: _____
3		活動の平均参加人数 約 人/回 (構成員の参加人数) 活動の平均時間 時間/回 (準備・片付け時間も含む) 活動の年間回数 回	活動タイプ: _____ 活動内容: _____
4	活動に依る打 合せについて	打合せの平均参加人数 約 人/回 (構成員の参加人数) 打合せの平均時間 時間/回 打合せの年間回数 回	活動についての詳細な打合せ
5	貴組織や活動 に関するメデ ィアでの紹介 について	新聞・雑誌掲載回数 回 ①新聞・雑誌名 _____ 回 ②新聞・雑誌名 _____ 回	※紙面のコピー等を添付
6		テレビ掲載時間 約 分 (内訳) ①番組名 約 分 ②番組名 約 分	
7		WEBニュースサイト掲載回数 回 (内訳) ①サイト名 _____ 回 ②サイト名 _____ 回	
8	自団体が主催 する市民への 環境教育・自然 体験イベント 等について	参加人数 人/回 (構成員以外の 平均参加人数) 平均参加時間 時間/回 年間実施回数 回	イベント・研修会・学習会等の名称 「 _____ 」
9		参加人数 人 大人 人 (構成員以外の参 平均参加時間 時間 年間実施回数 回	イベント・研修会・学習会等の名称 「 _____ 」
10		参加人数 人 大人 人 平均参加時間 時間/回 年間実施回数 回	イベント・研修会・学習会等の名称 「 _____ 」
11	今年度、長期に わたり手入れ をされている と考えられ る里山林を整 備した面積	ha 広葉樹林 ha 針葉樹林 ha 竹林 ha	⑦今年度年度整備した森林のタイプ別面積 (広葉樹林、針葉樹林、竹林)

図表 65 活動量に関するヒアリング内容

項目	ヒアリング内容
人の変化	①交付金による活動の平均参加人数 約 人/回 (森林整備等の活動における、構成員の参加人数)
	②交付金による活動の平均時間 時間/回 (森林整備等の活動の準備・片付け時間を含む)
	③交付金による活動の年間回数 回 (森林整備等の活動回数)
	④自団体主催の活動 (イベント等) がメディアで取り上げられた回数 新聞 回 Web 回 テレビ 回
	⑤自団体が主催する環境教育・自然環境イベントへの年間参加人数 15歳未満 約 人 15歳以上 約 人 (参加する一般市民のほか、構成員以外の運営協力者がいる場合はその 人数も含む)
	⑥自団体が主催する環境教育・自然環境イベントへの参加者の平均参加 (滞在) 時間 約 時間
土地利用 の変化	⑦今年度年度整備した森林のタイプ別面積 (広葉樹林、針葉樹林、竹林) 広葉樹林 ha 針葉樹林 ha 竹林 ha その他 ( ) ha

⑦今年度年度整備した森林のタイプ別面積 (広葉樹林、針葉樹林、竹林)

※昨年度報告書では、経済価値評価のための聞き取り内容に差異あり。

# デジタルチェックシートによる経済価値

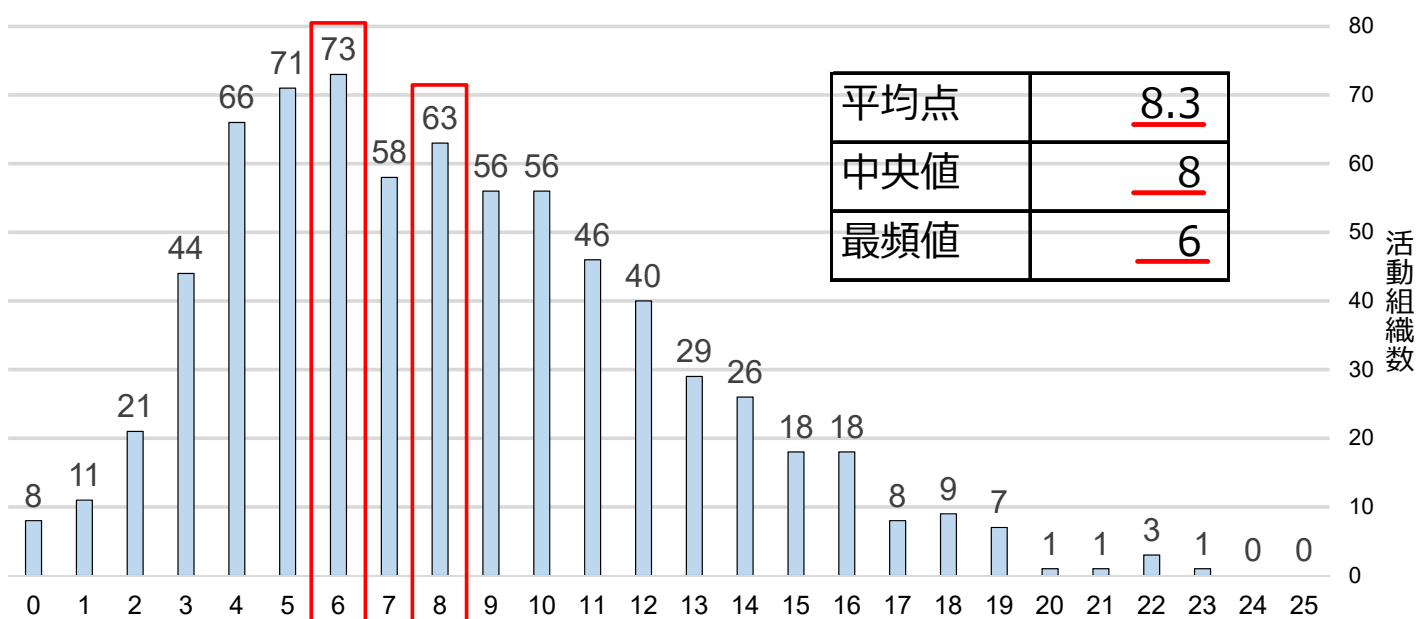
水源涵養、土砂流出防止、二酸化炭素吸収、生物多様性保全等、森林整備面積で評価する項目

## 自然から恵みを受ける（新たに整備した森林面積からの利益）の団体別金額

	実施状況とりまとめ報告書 (長期にわたり手入れをしていなかったと考えられる森林のみ評価)	デジタルチェックシート (今年度整備した森林の面積を評価)	差額
A団体	1,655,274	1,611,714	43,560
B団体	1,960,193	3,441,227	-1,481,035
C団体	871,197	1,306,795	-435,598
D団体	0	6,098,378	-6,098,378
E団体	566,278	7,840,771	-7,274,493
F団体	0	1,568,154	-1,568,154
G団体	0	3,049,189	-3,049,189
H団体	8,711,968	8,711,968	0
I団体	0	1,306,795	-1,306,795
J団体	348,479	871,197	-522,718
合計値	14,113,388	35,806,188	-21,692,800

7

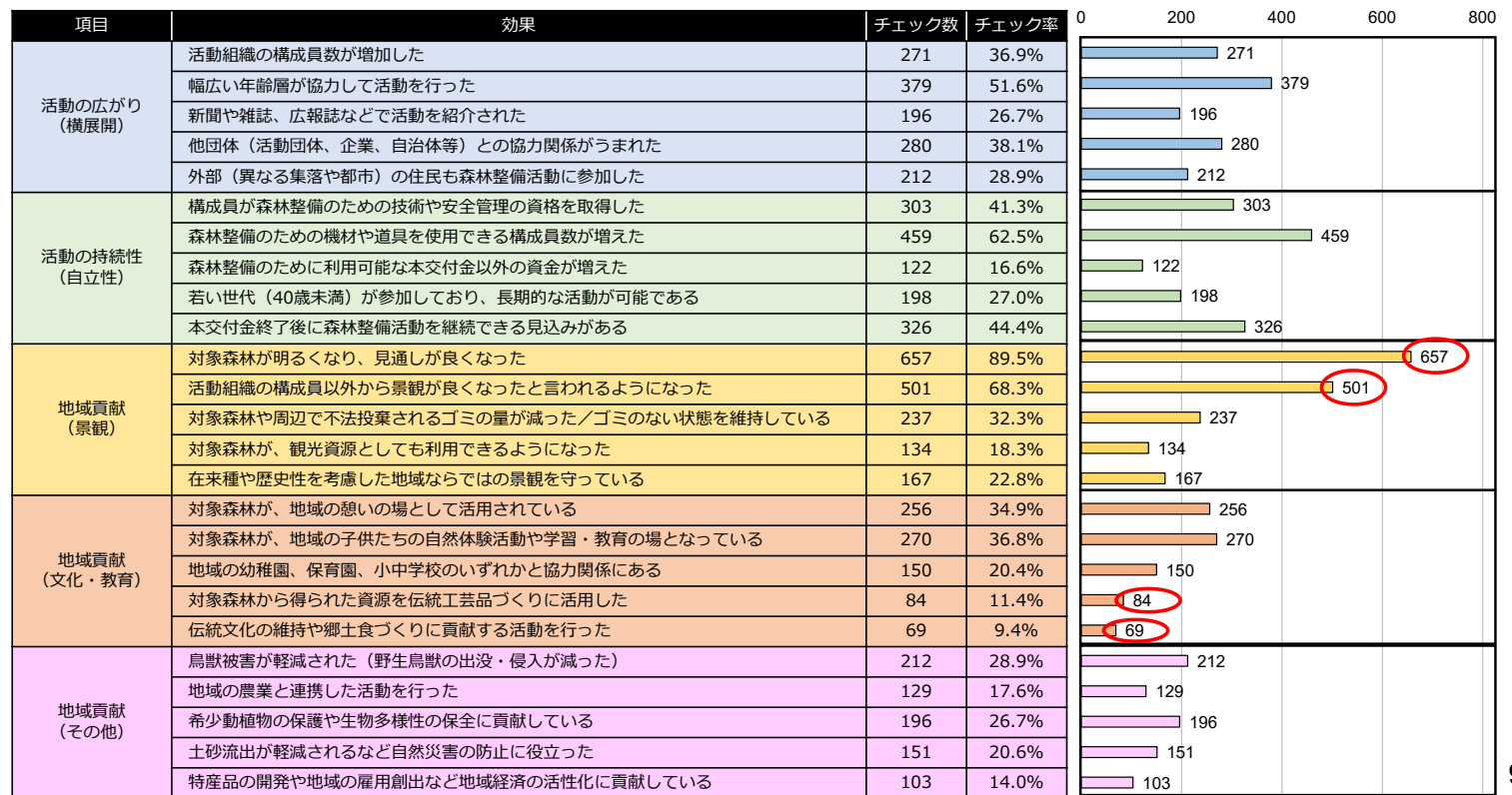
# 効果チェックシートの結果について



効果チェックシート得点分布（「自慢できること」進捗なし）

8

## 本交付金の効果チェックシートの結果



9

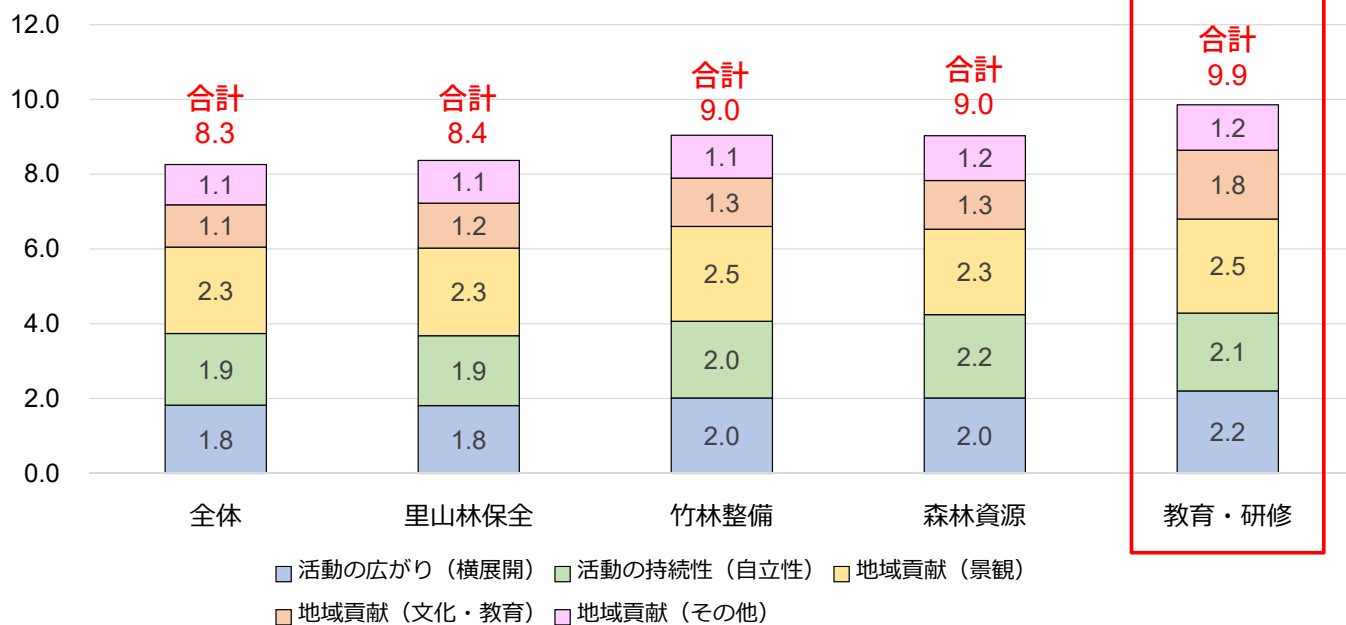
## 効果チェックシートの結果について

順位	回答数の多い選択肢			回答数の少ない選択肢		
	選択肢	回答数	回答率	選択肢	回答数	回答率
1位	<u>対象森林が明るくなり、見通しが良くなった</u>	657	89.5%	<u>伝統文化の維持や郷土食づくりに貢献する活動を行った</u>	69	9.4%
2位	活動組織の構成員以外から景観が良くなったと言われるようになった	501	68.3%	対象森林から得られた資源を伝統工芸品づくりに活用した	84	11.4%
3位	森林整備のための機材や道具を使用できる構成員数が増えた	459	62.5%	特産品の開発や地域の雇用創出など地域経済の活性化に貢献している	103	14.0%
4位	幅広い年齢層が協力して活動を行った	379	51.6%	森林整備のために利用可能な本交付金以外の資金が増えた	122	16.6%
5位	本交付金終了後に森林整備活動を継続できる見込みがある	326	44.4%	地域の農業と連携した活動を行った	129	17.6%

10

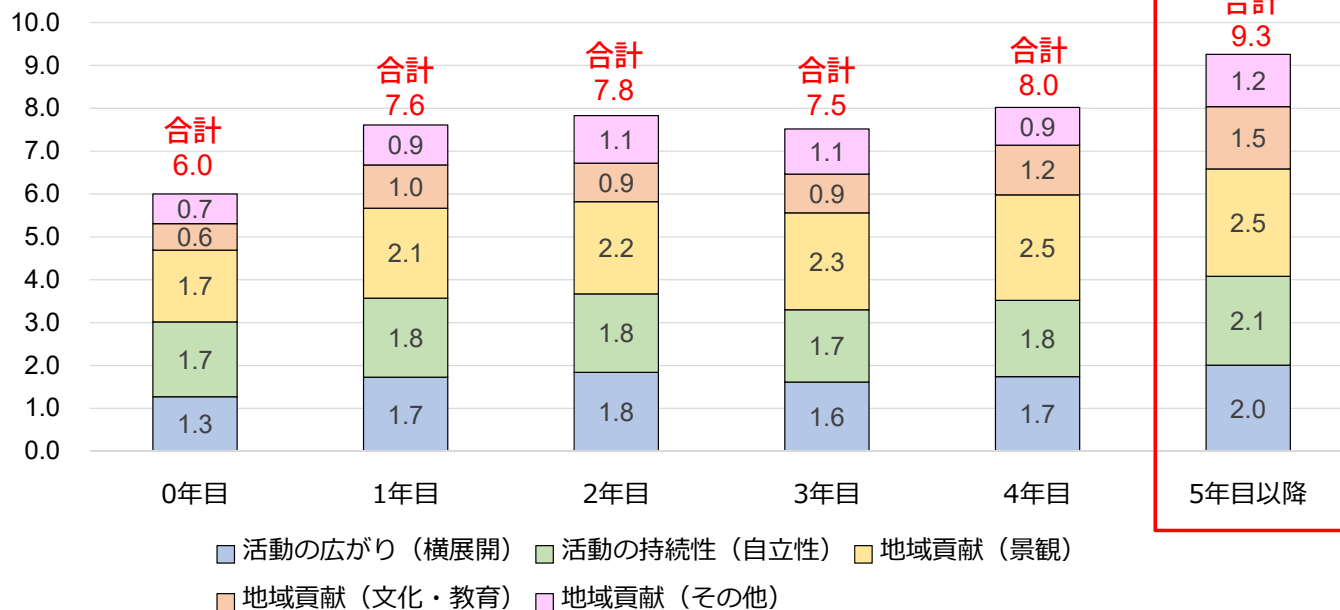
# 効果チェックシートの結果について

## 活動タイプ別の結果



# 効果チェックシートの結果について

## 取得年数別の結果



**ご清聴いただきありがとうございました**





# 森林・山村多面的機能発揮事業で 限界集落に輝きを



日本最大規模と言われる  
カタクリ群生地



「白山眺望の山」 笈山からの  
霊峰白山

令和2年2月6日  
白山瀬波の会 廣崎 邦夫



**白山市瀬波地区** (令和2年1月現在)  
●居住世帯数:24世帯 (内、1人世帯8世帯)  
●人口:43名 (内、65歳以上36名、高齢化率84%)  
●5年前比 人口12名減、世帯数6世帯減



**瀬波地区の歩むべき道**  
(民間企業等との連携)

戦後：過疎化・高齢化

現在：限界集落

将来：無住化集落

廃村への道

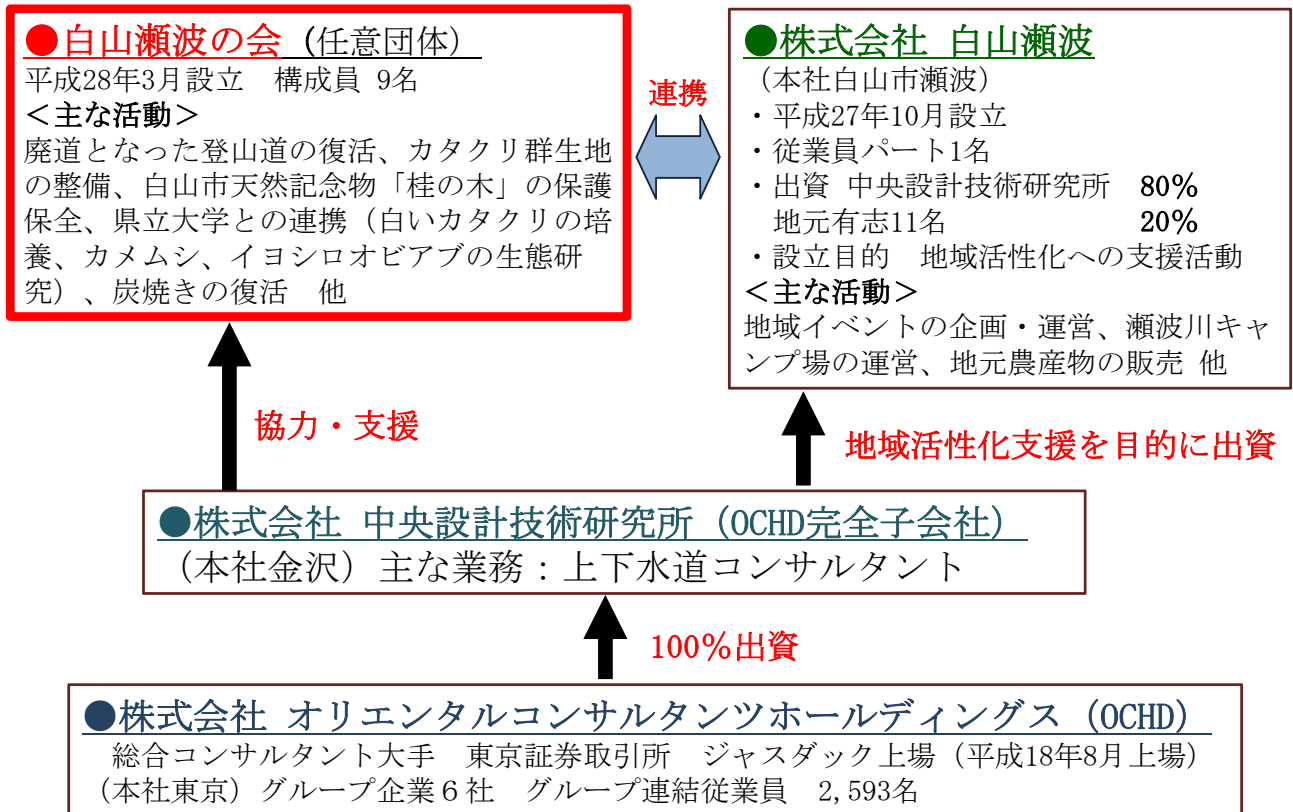
**自然を生かした活動**  
(瀬波地区固有の自然資源の活用)

地域の魅力発信の最大化

交流人口の増大  
増える空き家の活用  
と生業づくり

未来に『瀬波』の名を残す

# 民間企業と連携した地域活性化活動事業



3

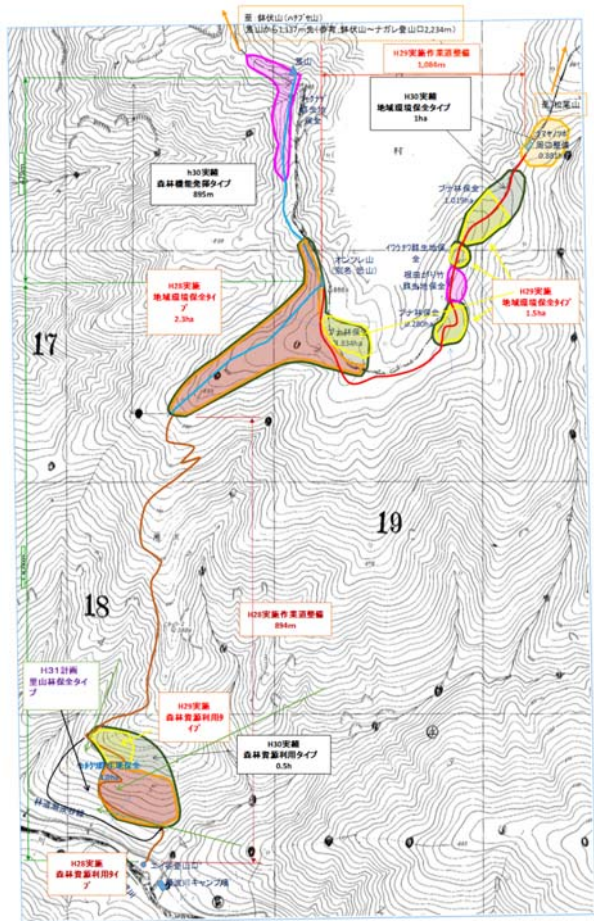
## 多面的機能発揮事業活動と「白山瀨波の会」の歩み

活動の動機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化につながる荒廃山林等の整備と地区の存亡</li> </ul>
主な財源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年より「<u>森林・山村多面的機能発揮対策交付金</u>」の各タイプを活用</li> <li>・その他周辺整備のため、<u>石川県、白山市の補助金</u>を受ける</li> <li>・民間企業との連携</li> </ul>
効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃道を約20年ぶりに<u>登山道として復活</u>させた。</li> <li>・作業の過程で日本最大規模の<u>カタクリ群生地が出現</u>した。</li> <li>・白山信仰の修験者が集った<u>遙拝所跡地を整備</u>した。(宿の馬屋)</li> <li>・7日間250km走る「<u>白山トレイルラン</u>」のコースにも選ばれる。</li> <li>・<u>NHK全国放送</u>などで活動や登山道、カタクリ群生地の様子が紹介された。</li> <li>・全国版「<u>石川県の山</u>」の登山雑誌にも大きく紹介された。</li> <li>・キャンプ場はじめ<u>地域施設への相乗効果</u>が顕著に表れる。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然への魅力が増し、登山、群生地見学、キャンプ場等で<u>交流人口が大幅に増加</u>。</li> </ul>

4



多面的機能発揮事業実施全体図



整備箇所の選定  
(作業開始前)



倒木撤去  
(作業実施中)



階段状に登山道を整備  
(作業実施中)



カタクリ群生地  
(作業終了後)



整備された道を登る登山者  
(作業終了後)



絶景の「日本三名山」の  
白山を望む(山頂周辺)

## 作業の過程で偶然出現したカタクリ群生地

- カタクリは、「春の妖精」とも呼ばれ、種を落としてから7~8年で初めて開花、その後40年ほどで生涯を終えるといわれる、日本人に愛され親しまれる、春を代表する植物である。
- 全国各地で絶滅危惧種に指定され、石川県でも準絶滅危惧種に指定されている希少植物でもある。
- 当地では、炭焼きを廃業した約50年前から山が荒れ果て、カタクリは絶滅の一途を辿っていた。
- 伐採や草刈り作業が幸運にも春の陽光を浴びる結果となり、カタクリに光合成をもたらせ、一気に大きく開花した。
- 整備した群生地の規模は約2haで日本最大級と称されている。(現在も整備中)
- NHKや本などで紹介されたため、全国から多くの見学者が群生地に訪れるようになる。





# モニタリング調査



## ●モニタリング対象地点設定(1年目)

カタクリ群生地の中で萱(約0.1ha)で覆われ生息が乏しい場所を対象地点(5m×5mの範囲)とする。



## ●モニタリング対象地整備前(1年目)

モニタリング対象地にあるモニタリング対象地にある萱の根をすべて除去。



## ●モニタリング対象地整備後(1年目)

萱の根を除去した後の様子



## ●モニタリング実施中(2年目)

周りにはカタクリの花が迫ってきているが萱があった場所には、まだの1葉カタクリがようやく点在するに至っている。<sup>7</sup>

# 四季を通じた活動の様子



## ●かまくらまつり(瀬波地区周辺)



## ●カタクリの群生地ウォーキング



## ●清流と遊ぼうin瀬波(瀬波川にて)



## ●オンソリ山・笈山・ウマヤノツボ登山



## ●瀬波川キャンプ場

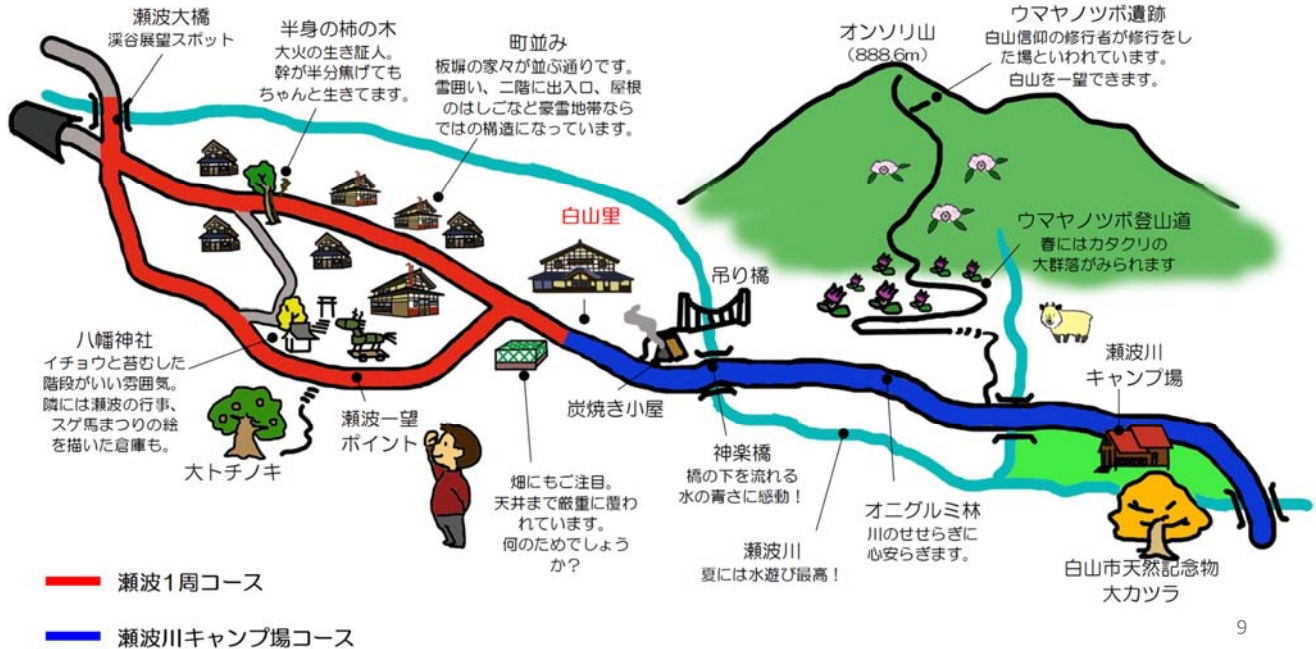


## ●いしかわキャンプフェスティバル(瀬波川キャンプ場にて)



## 瀬波ぐるっと ウォーキングMAP

豊かな自然や、のどかな瀬波の町並みを眺めながら、のんびり散策してみませんか。  
瀬波1周コースは約2km弱、瀬波川キャンプ場コースは往復で約4kmほどで、軽い運動にぴったり。四季折々に表情を変える景色は、いつ歩いても新しい発見があります。



9

## 課題と今後について

### 課題

- 地域の魅力を発信できねば過疎化は急激に進み、地域を残すことは不可能である。
- 中山間地には、地域を守る担い手がなくなり、存亡の危機にある。  
(過疎地全体の課題であるが、地域を守る若者と人材はほぼ皆無)
- 結果、山林は荒廃し、大規模な自然災害の多発が危惧され、抑制や防止に向けた環境改善のマンパワーと財源不足。
- 山林の地権者や用地境界線が不明等、権利関係の複雑化が進行し、円滑な整備に支障が生じつつある。

### 今後について

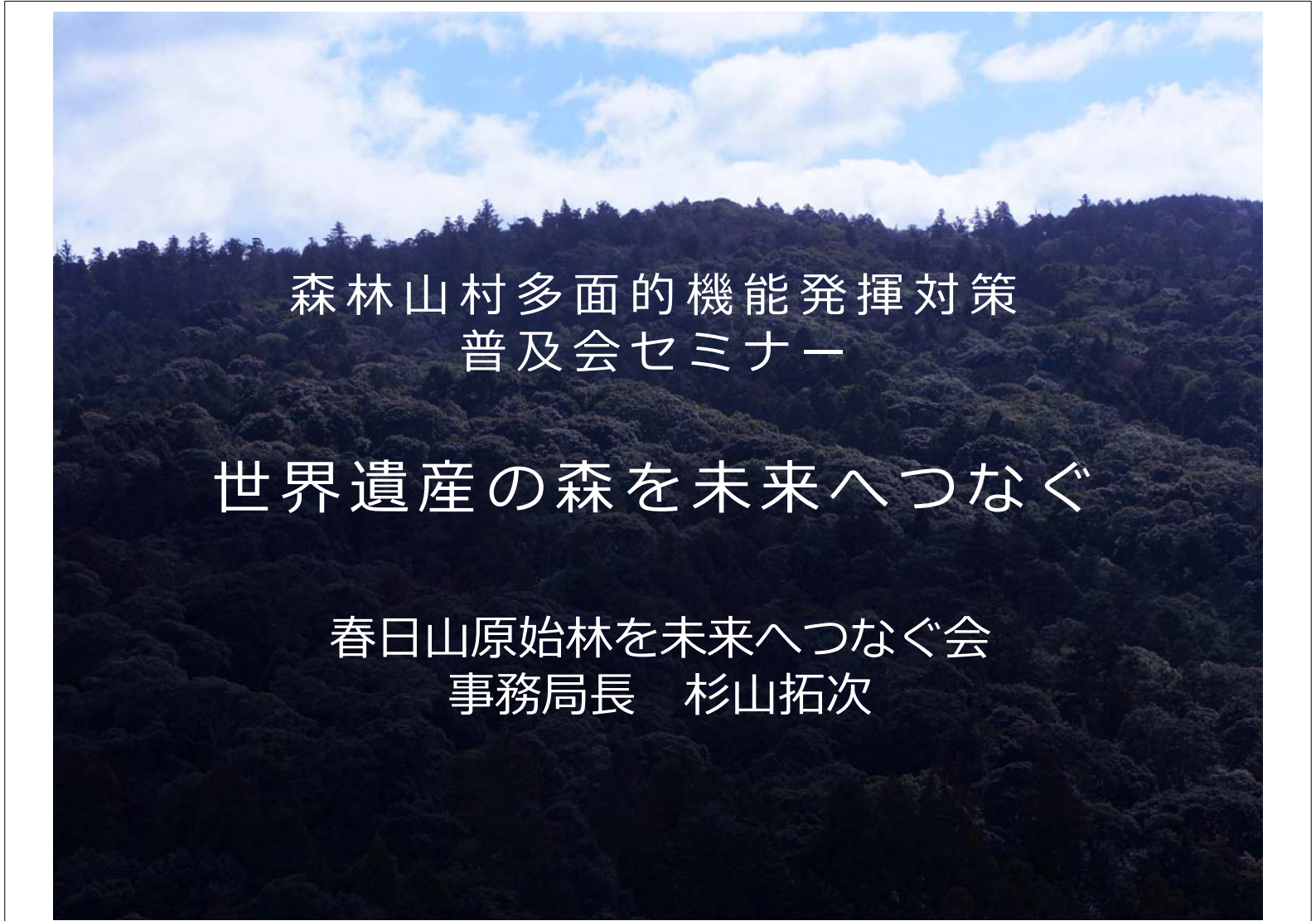
- これまでの活動を継続しつつ、更にグレードアップに取り組む。
- 過疎化を克服するための地域の魅力発信で更なる交流人口拡大を図る。
- 地域の魅力発信等に努め、新たな移住による定住人口拡大を目指す。
- 産・学・官と連携で支援、協力体制を強化し、地域活性化を目指す。
- 都市部と中山間地との地域間格差の是正に挑む。

10

ご清聴ありがとうございました。

白山瀬波の会





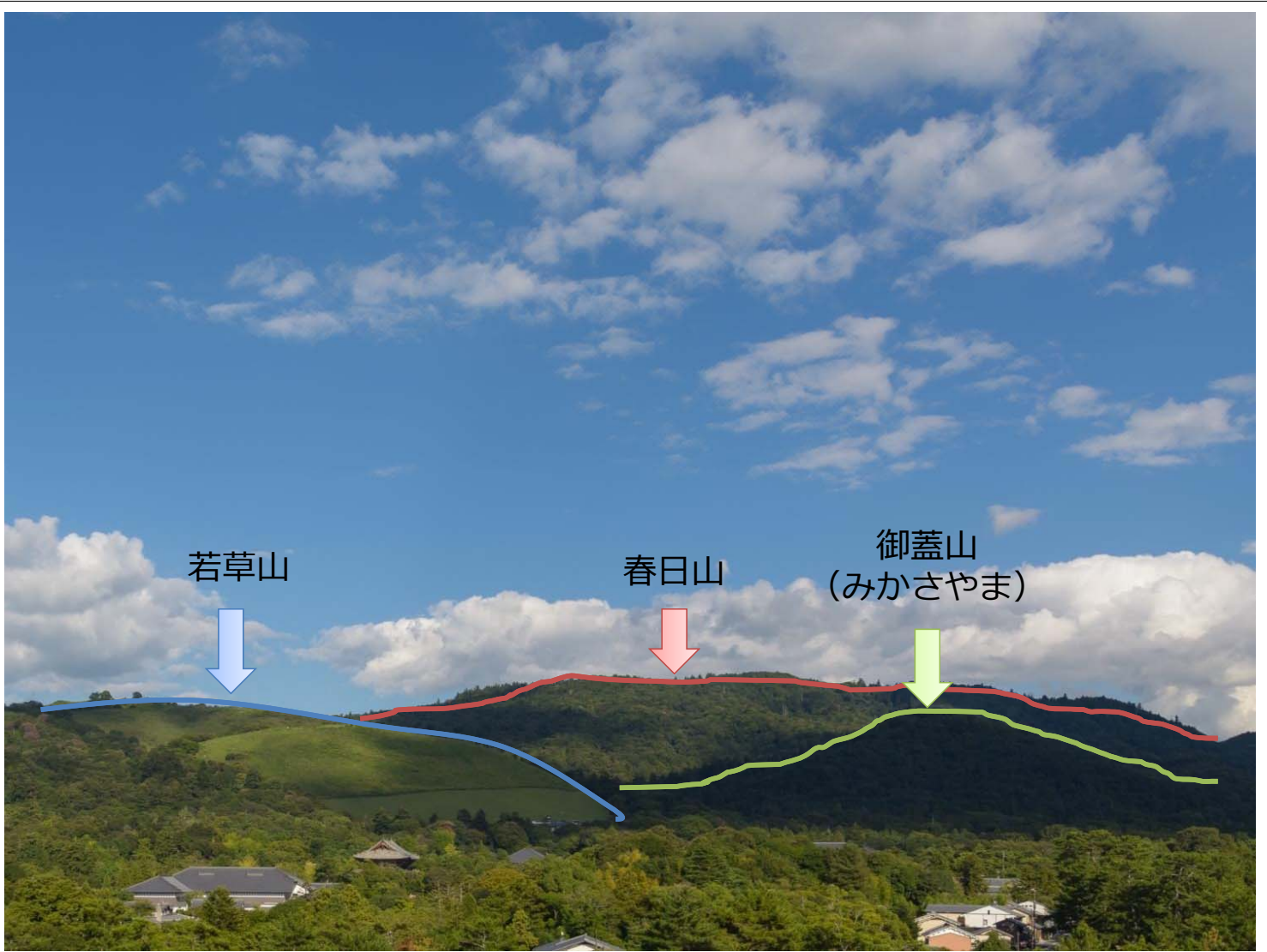
森林山村多面的機能発揮対策  
普及会セミナー

世界遺産の森を未来へつなぐ

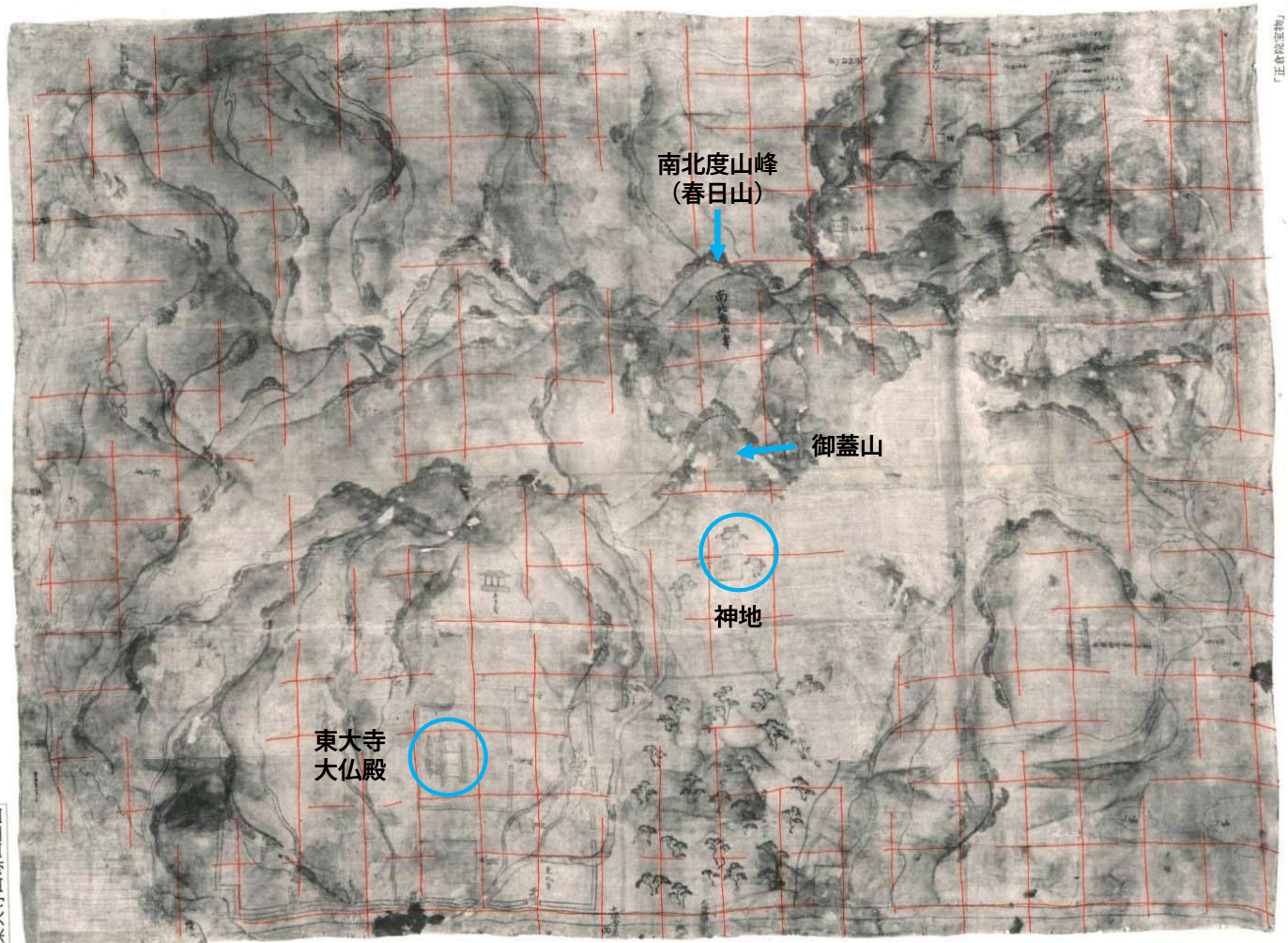
春日山原始林を未来へつなぐ会  
事務局長 杉山拓次

春日山原始林とは

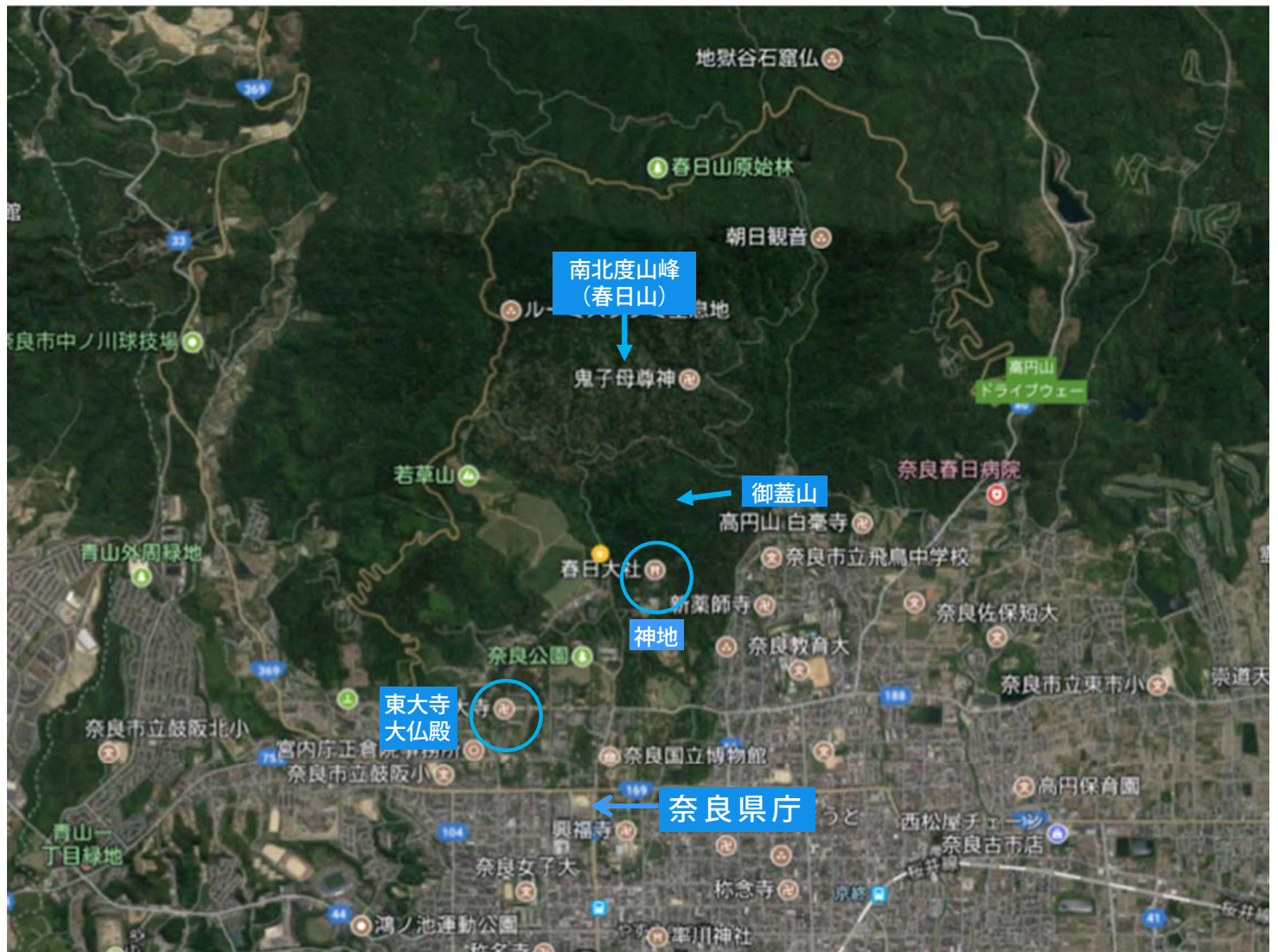




東大寺山堺四至図 756年







# 神の山

## II

承和8年(841年)勅命により  
狩獵伐木を禁じられる



春日宮曼荼羅  
 奈良市南市町自治会蔵  
 (鎌倉時代)



奈良地域関連資料  
 画像データベースより

春日宮曼荼羅  
 奈良市南市町自治会蔵



奈良地域関連資料  
 画像データベースより





たね坂  
もみち

大和名所圖會 巻一

六



千里楓林烟樹深  
無朝無暮有猿吟

大和名所圖會 巻一

七

大和名所圖繪（江戸時代）より







# 日本人の伝統的な自然観と ふかく結びつき保護されてきた森

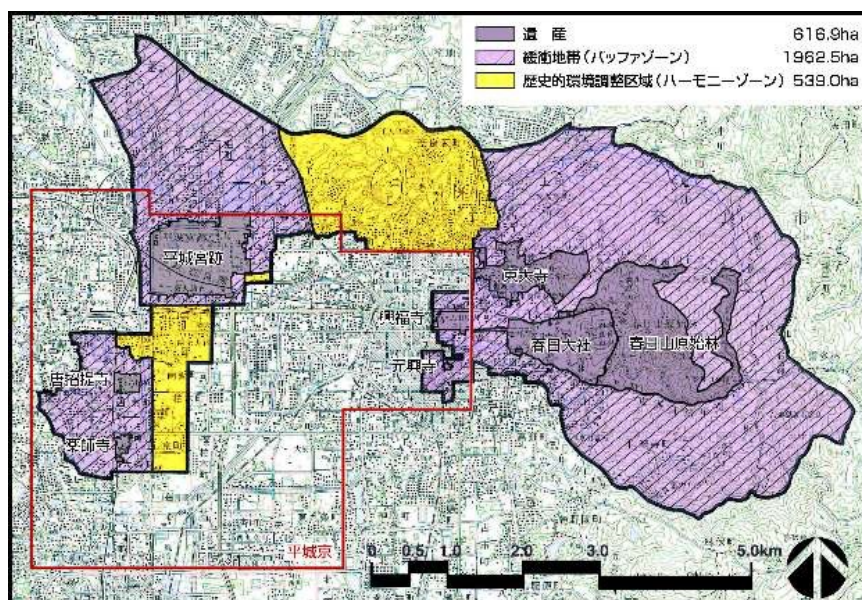
## 世界遺産 Ⅱ 文化・景観的価値

### 古都奈良の文化財

#### ■ 8つの構成資産

- 東大寺
- 興福寺
- 春日大社
- 元興寺
- 薬師寺
- 唐招提寺
- 平城宮跡
- 春日山原始林

世界遺産リストへの登録にあたっては、各資産が個別に評価されたものではありません。8遺産全体で物語っている奈良の歴史や文化の特質が評価されました。「**古都奈良の文化財**」という名称で、全体がひとつの文化遺産として登録されていることが、それをよく表しています。



奈良市ウェブサイトより





# 特別天然記念物の指定理由

春日大神の神山として古来殆ど斧鉞（ふえつ）を加えず、樹木の巨大なもの多く、暖地の草木の種類が多いばかりでなく、寒地性の種類を交え、また、ホンゴウソウ、カギカヅラ、ナチシダ等の如き亜熱帯性植物もあり、特に都会地に接してかかる原始林とその特異の林相のよく保有されていることは稀有のことであって、学術上の価値が深い。

## 照葉樹林



### 常緑広葉樹が優占する森林

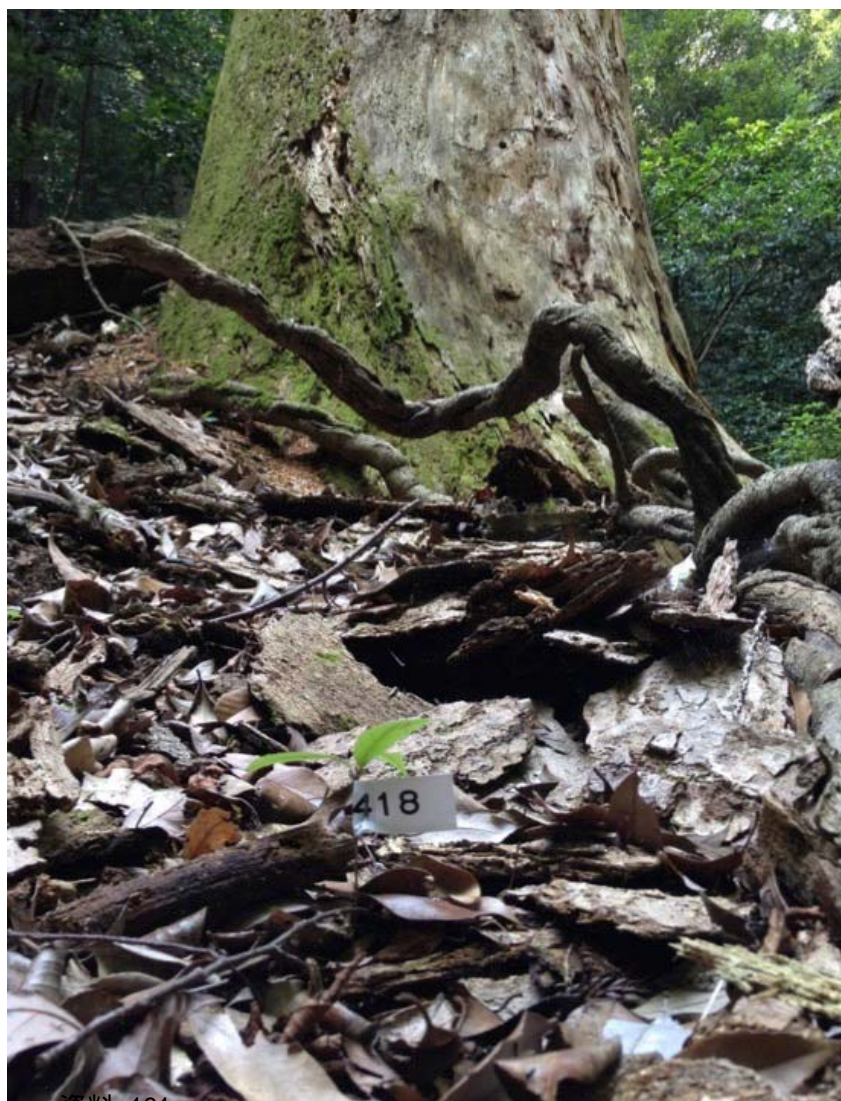
春日山では主にシイ・カシ類などドングリのなる樹が多い。

# 春日山原始林に 起きていること

## 後継樹の 生育不良

原生的な照葉樹林を主に構成しているシイ・カシ類などの実生や幼樹が少なくなっています。

このため、原始林が将来的に衰退していくことが危惧されています。







## 下層植生の衰退

---

原始林では、絶滅危惧種を含む希少な下層植生が、今もなおみられます。その一方で、土壌流出が原因となり、シダ植物をはじめとした下層植生が衰退しています。

## 原始林と生き物の共生

---

原始林内に生息するシカなど野生動物の食害により、植生の多様性が劣化しており、貴重な照葉樹林や多様な植生の維持のために野生動物との共生が課題となっています





# ナギ・ナンキンハゼの拡大

シカの忌避植物であるナギやナンキンハゼが、原始林内へ拡大し、着実にその生息範囲を広げているため、原始的な照葉樹林が徐々に変容していきます。



## ナラ枯れ被害の拡大

カシノナガキクイムシが樹木に穿入し、媒介した共生菌（ナラ菌）によって樹木が枯死するナラ枯れが、原始的な照葉樹林を構成するシイ・カシ類に発生しています。



# 台風等による倒木被害の増加

---

巨大化した台風の襲来など気候変動の影響により、  
原始林内での倒木による攪乱が発生



## 保全の取組

# 春日山原始林の保全の目標

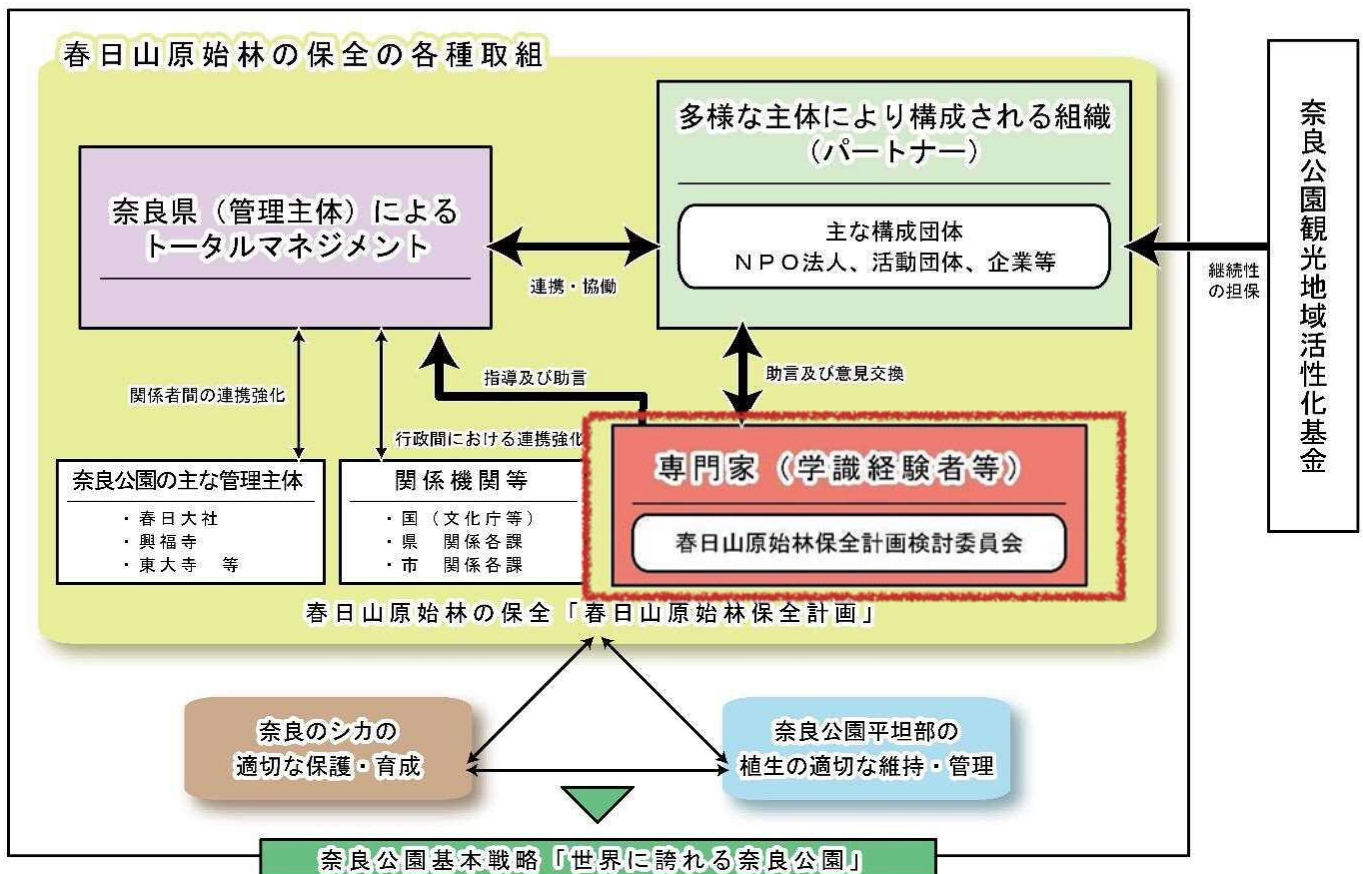
古都奈良の貴重な財産である春日山原始林の持続的な森林更新を促し、人やシカとも共生できる森林を保全することを目標とする。

奈良県 春日山原始林保全計画検討委員会 ウェブサイトより



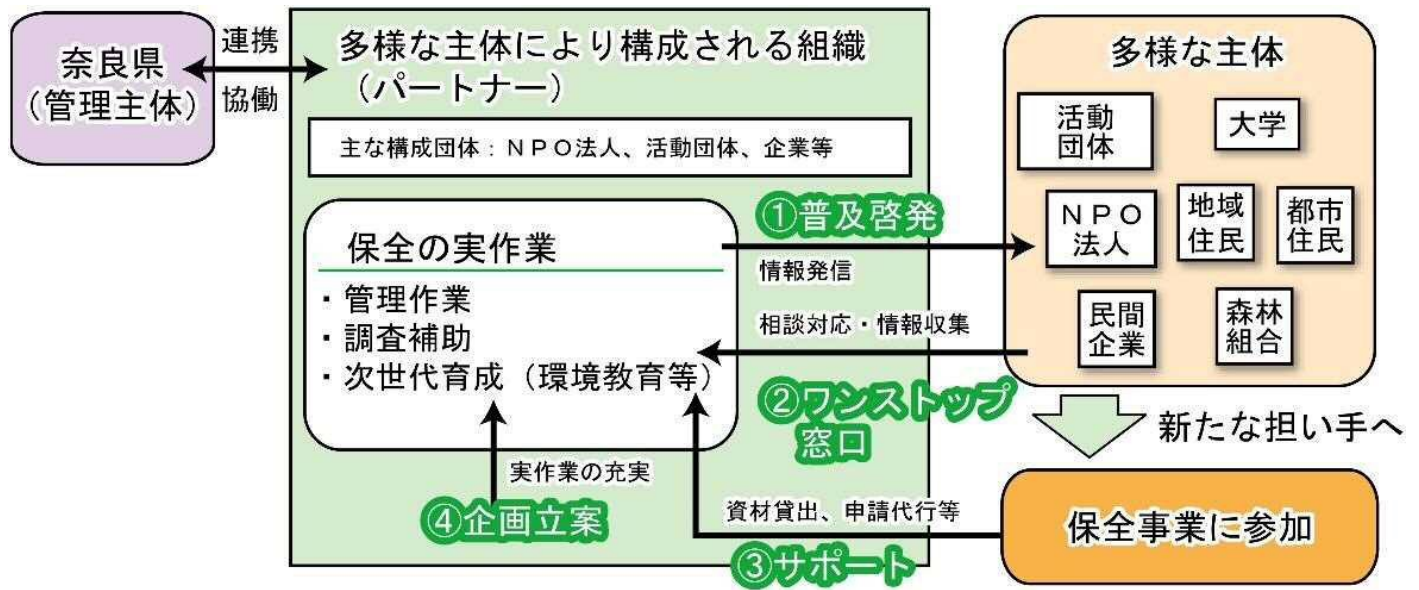
奈良市観光協会ウェブサイトより

## 春日山原始林保全計画検討委員会





# 保全の担い手組織の設立



春日山原始林を未来へつなぐ会

# 植生保護柵の設置





# 保護柵の成果



## ナギ数量調整 ナンキンハゼの駆除





# ナギ数量調整後の林床からイチイガシ



# ナラ枯れ防除対策





# トラップによる捕獲



# 大径木の保護





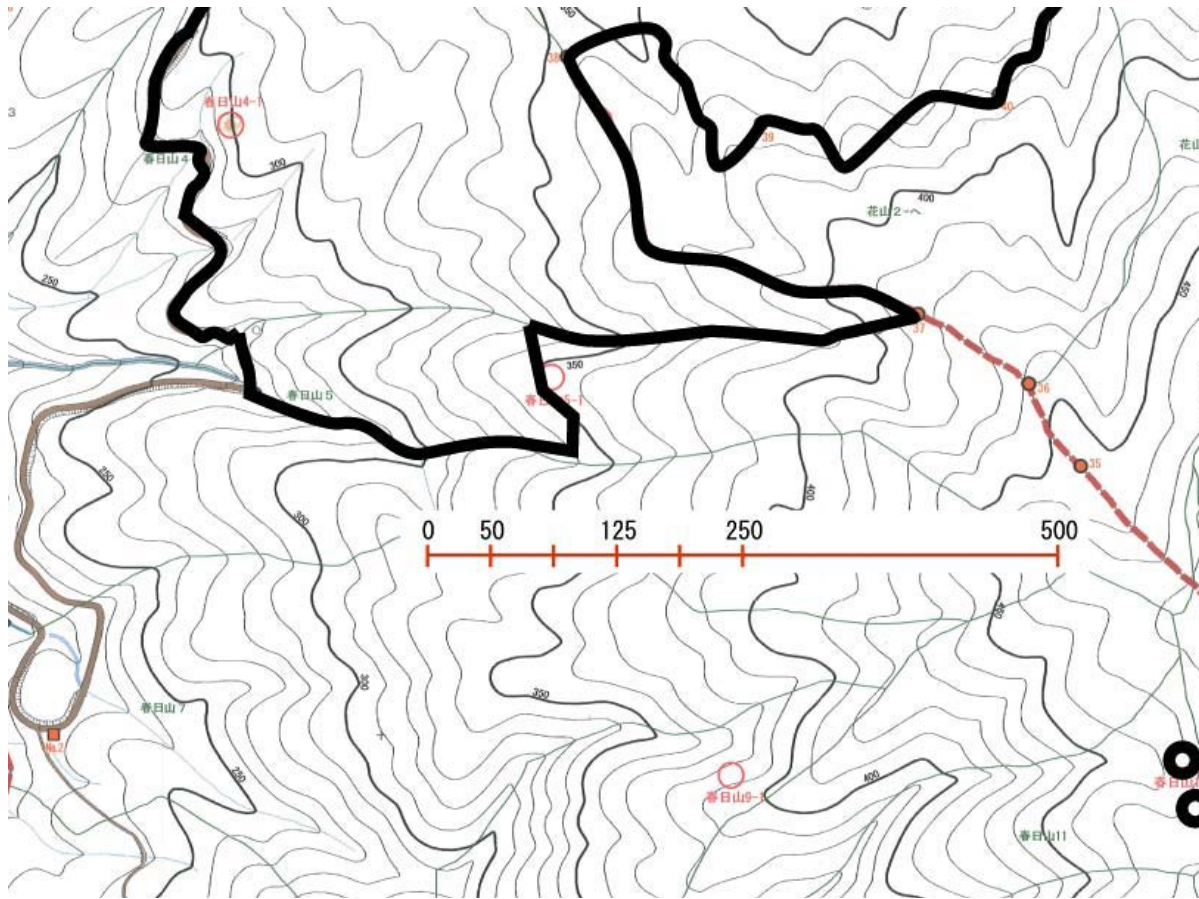
## 後継樹育成



森林山村多面的機能発揮交付金  
を活用した保全活動

対象森林の所在地 奈良県奈良市春日野158-1 (春日山原始林)

枠内はすべて地域環境保全タイプ(里山林保全) 22.1ha(30、31、32年度取組)



# ナラ枯れ防除対策



# ナラ枯れとは

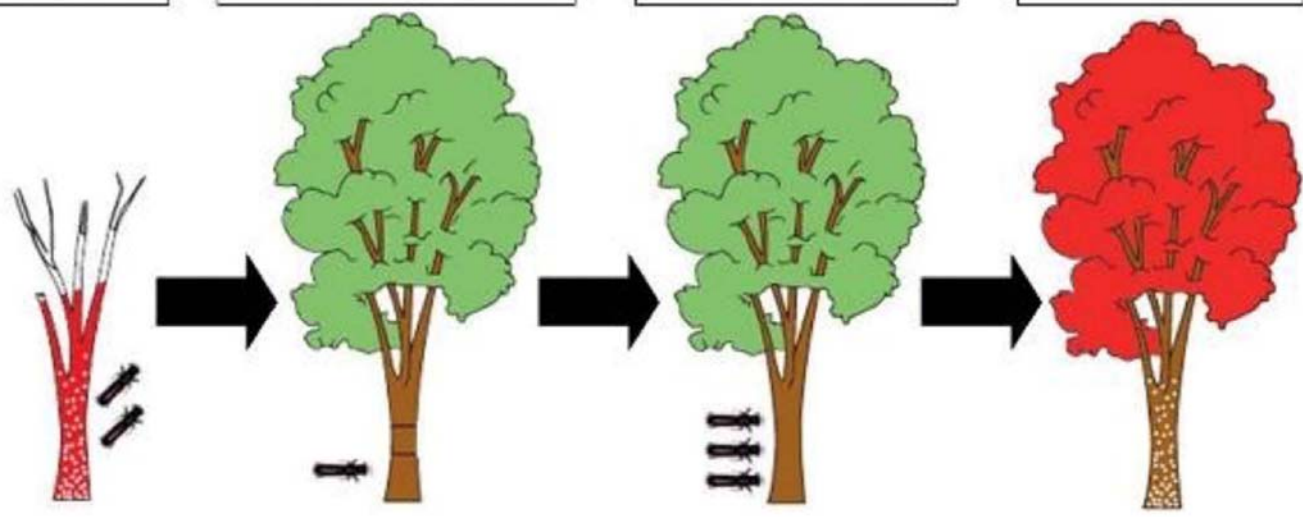


【6~7月頃】  
穿入跡から  
新成虫の脱出

【6~10月頃】  
生立木に雄が穿入開始  
集合フェロモンを放出

【7~10月頃】  
雄雌が集団的に穿入  
(マスアタック)

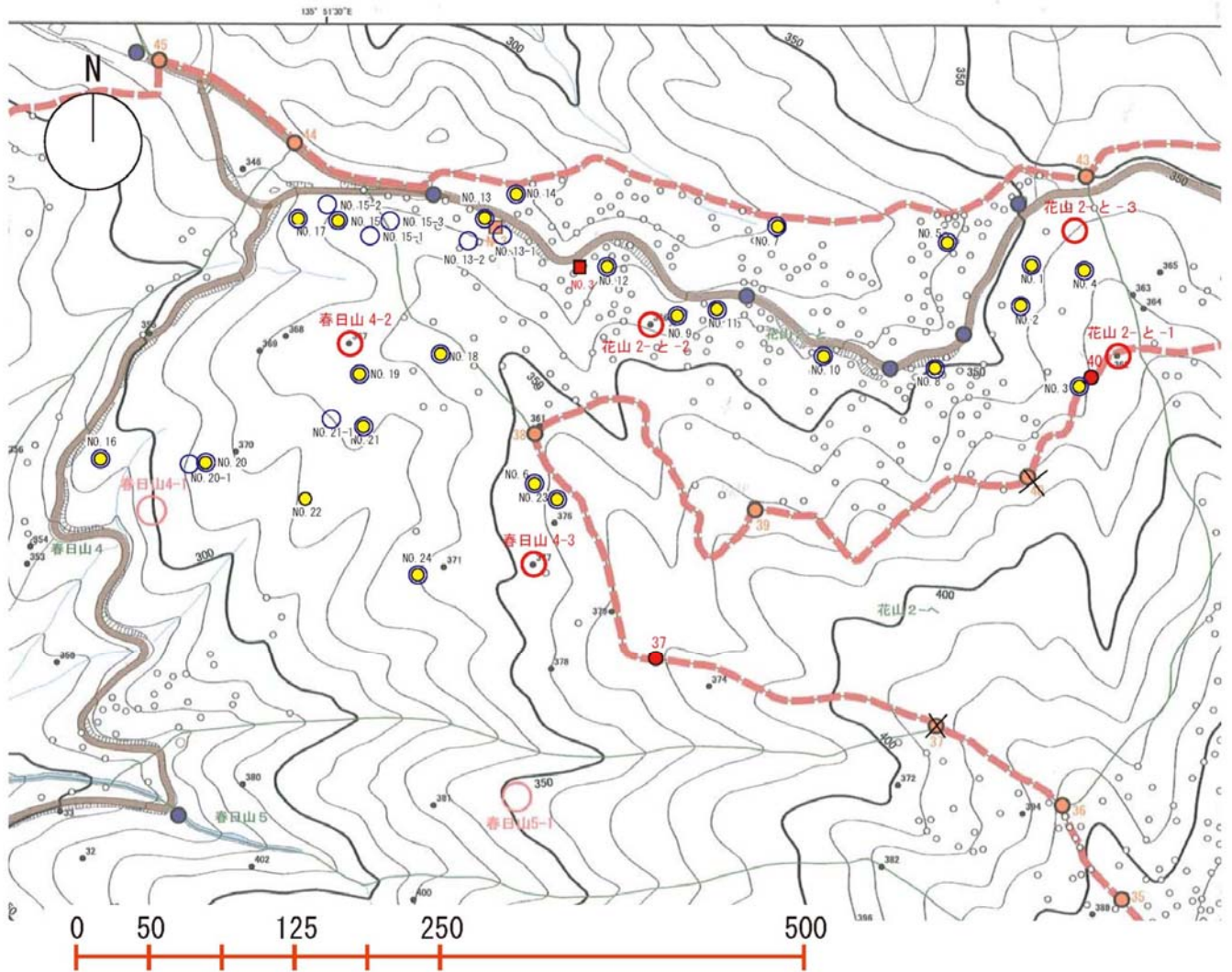
萎れ始めてから  
1~2週間後に枯死



# トラップによる捕獲



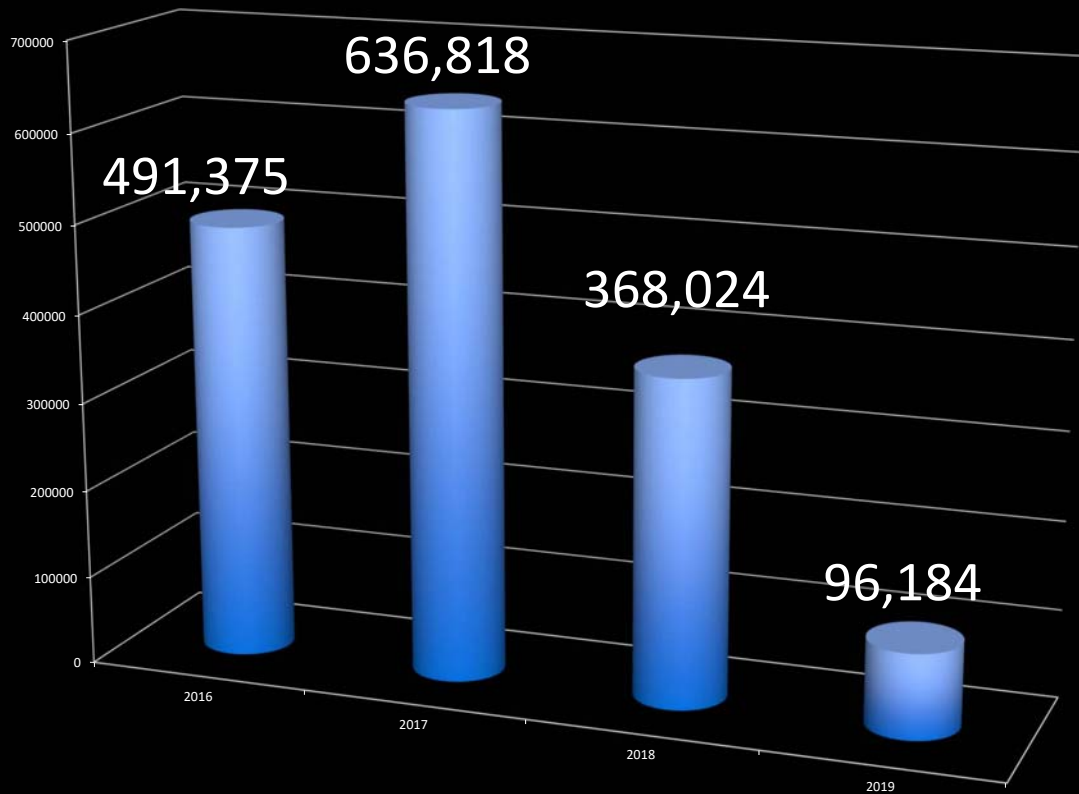




## ウッドキングダッシュの 樹幹注入



# カシナガ捕獲数の経年変化

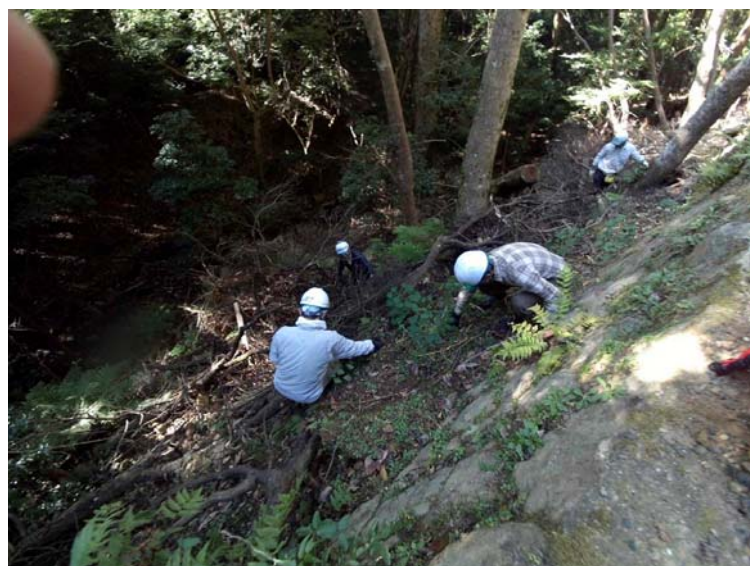


# カシナガ捕獲数の経年変化





# 外来種除去（ナンキンハゼ）





# 植生保護柵周辺整備

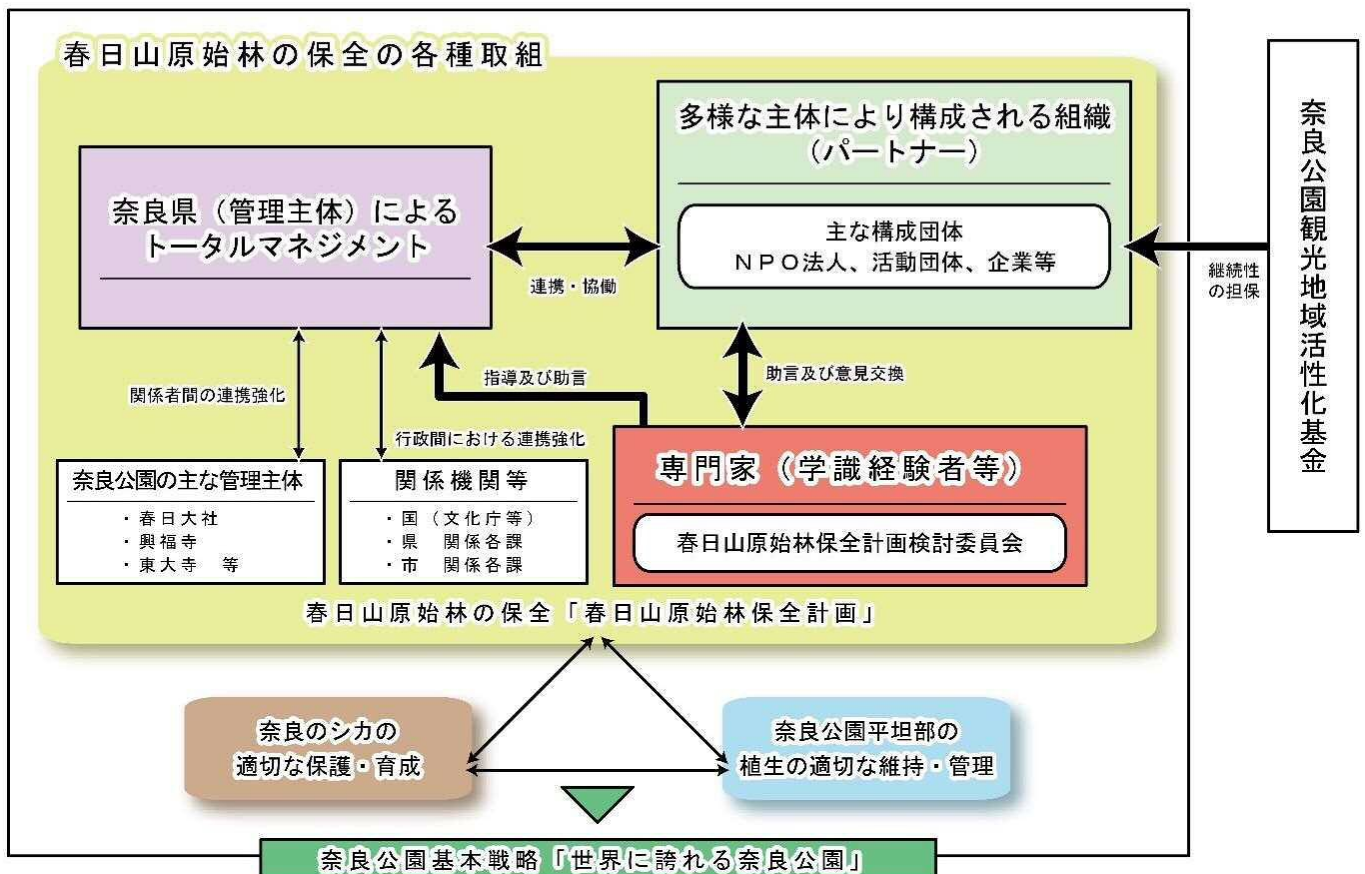


# 春日山原始林をフィールドとしたプログラムの実施



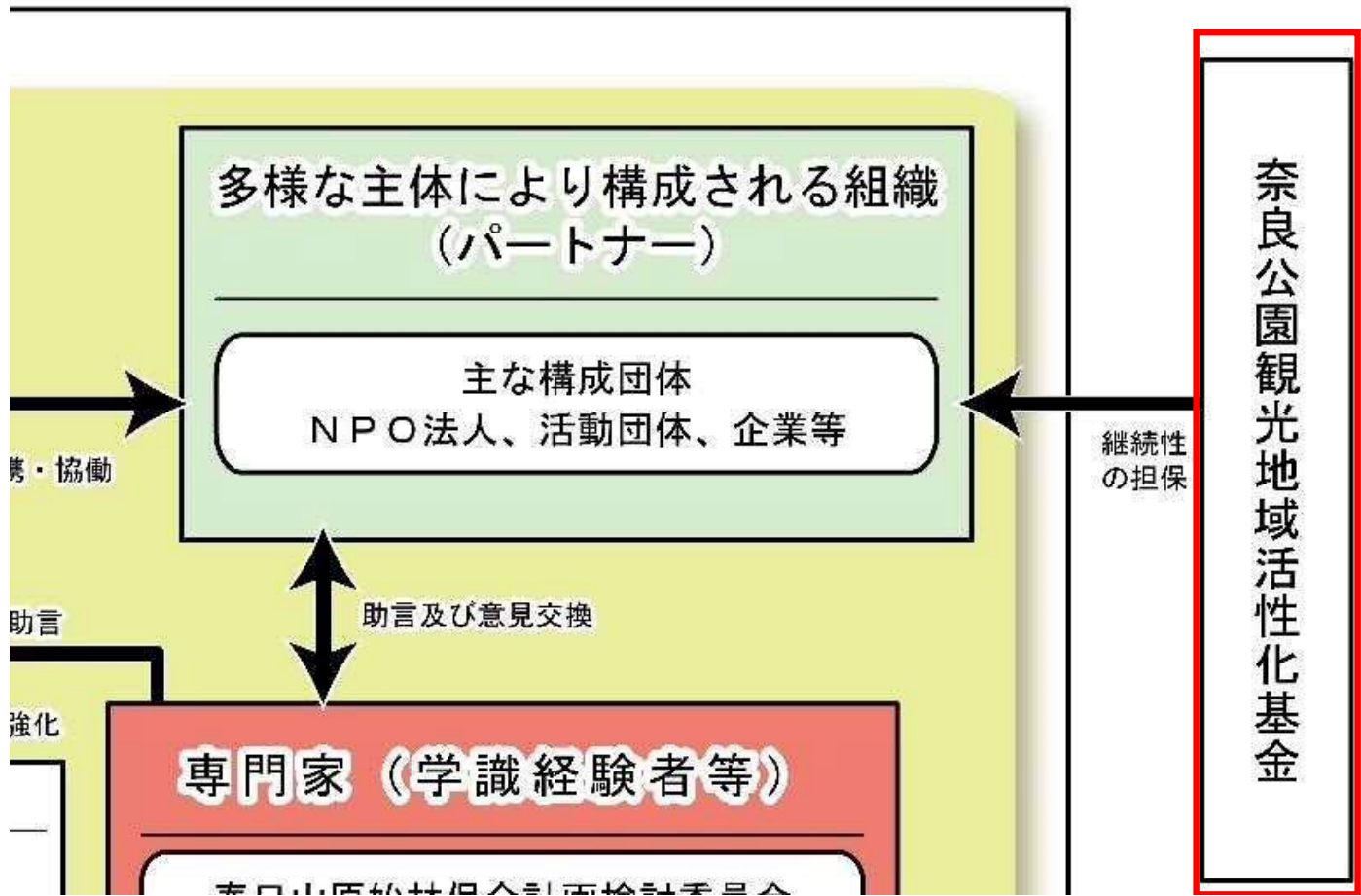
# 今後の課題と展望

## 資金面の課題





# 資金面の課題



# 人材面の課題



## 今後の展望

# 春日山原始林の価値

**世界遺産**

**特別天然記念物**

**照葉樹林**

この理由だけで、  
本当に未来へつなぐことができるのか？

**必要なのは、共感 = 「自分ごと化」**

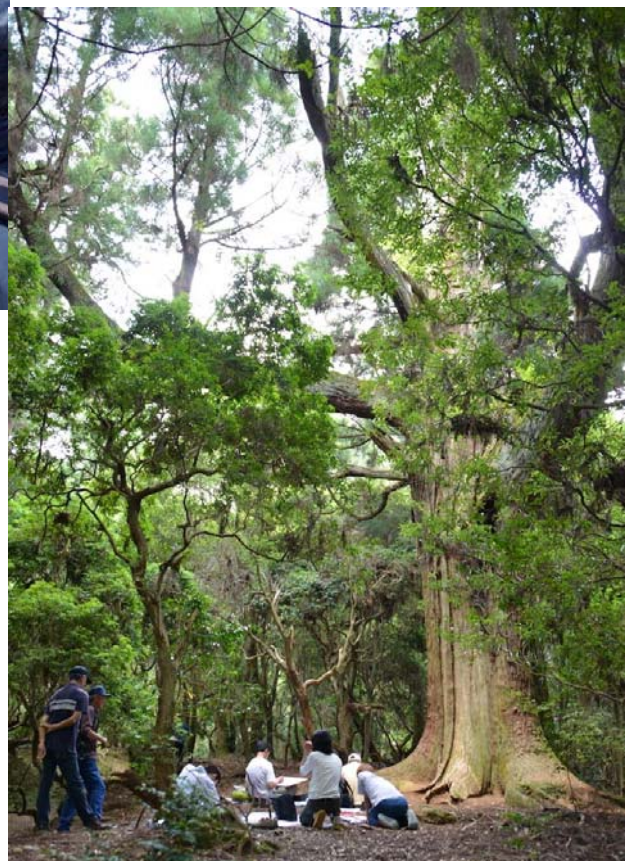
**福祉との連携**



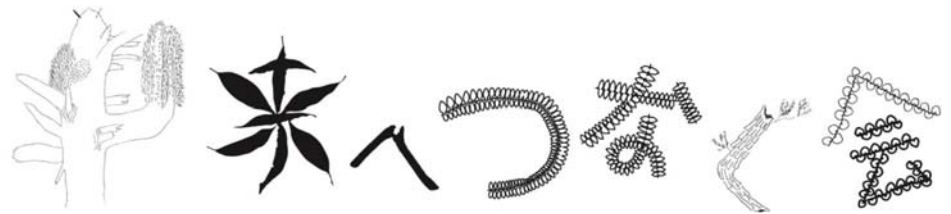
社会福祉法人  
わたぼうしの会



GoodJob! Center  
KASHIBA












多様な人たちの  
多様な手法・表現で  
伝える



新しい「伝統」をつくる  
まだ、活動は  
はじまったばかり



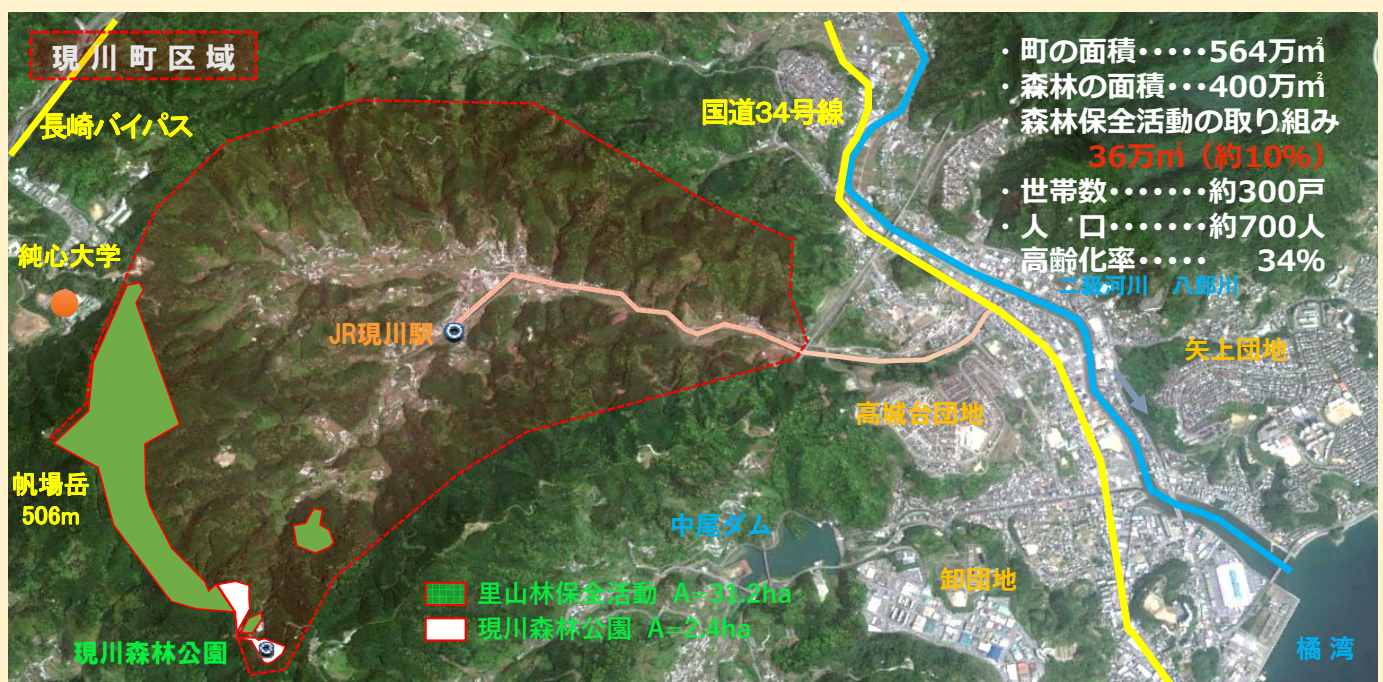


# 現川里山保全の会【長崎県】 — 活動紹介 —

長崎港



## 長崎市現川町の位置（航空写真）



(次項) 詳細的 航空写真で紹介



# 活動のきっかけ！ 森林公園建設場所の不法投棄の状況



3

## 林道伐採のようす

現川町をきれいにする会の皆さん



4



# 林道側溝土砂揚げ・清掃のようす

現川町をきれいにする会の皆さん



5

# ゴミ拾いのようす

行政担当課職員の応援

PTA父兄・子供たち



6

# 森林公園の建設・里山保全活動 取り組みの“キツカケ”

## 森林・山村多面的機能発揮対策事業の説明会



長崎市役所農林整備課\_\_入江係長



長崎県森林ボランティア支援センター\_\_佐藤センター長

## 活動年表

活動内容	活動年度	1期			2期			計
	平成25年(2013) ・活動スタート 活動場所_村山林	平成26年(2014) ・活動2年目	平成27年(2015) ・活動3年目	平成28年(2016) ・活動スタート 活動場所_個人の山林	平成29年(2017) ・活動2年目	平成30年(2018) ・活動3年目		
地域環境保全タイプ	下草木の伐採一部間伐	下草木の伐採一部間伐	下草木の伐採一部間伐	下草木の伐採	枝打ち	間伐		
森林資源利用タイプ	-	雑木の伐採・運搬	雑木の伐採・運搬	雑木の伐採・運搬	-	-		
教育・研修タイプ	-	-	森林自然・炭焼体験会	森林自然・炭焼体験会	-	-		
活動面積	6.1 ha	7.2 ha	6.1 ha	4.4 ha	4.4 ha	4.4 ha	23.8 <del>32.6</del> ha	
森林資源利用タイプ	-	1.0 ha	1.2 ha	1.2 ha	-	-	3.4 ha	
教育・研修タイプ	-	-	2回 12月12日/1月9日	1回 1月15日	-	-	3回	
独自の活動	散策路づくり他	300 m		100 m			400 m	
	植樹(サクラ)			30本	120本		150本	
	植樹(アジサイ)	400本	300本	300本	200本		1,500本	
	植樹(シャクナゲ)					15本	15本	
イベント等	-	-	森林公園オープニング 11月29日	現川の森で遊ぼう 8月26日	-	-		
活動人員	102人	76人	76人	74人	71人	71人	470人	
森林資源利用タイプ	-	34人	76人	17人	-	-	127人	
教育・研修タイプ	-	-	12人	6人	-	-	18人	
							615人	
活動費	¥1,126,000	¥1,451,200	¥1,173,465	¥815,207	¥978,194	¥704,000	¥6,248,066	
資機材費(交付金)	-	¥1,551,200	-	¥101,446	-	¥232,892	¥1,885,538	
資機材費(自己資金)	-	¥1,565,352	-	¥256,584	-	¥232,892	¥2,054,828	
多面的交付金	¥1,126,000	¥3,002,400	¥1,173,465	¥916,653	¥978,194	¥936,892	¥8,133,604	



## 【里山林保全活動】 初回活動のスタート

平成25年度\_\_初回活動時 集合のようす



集合写真

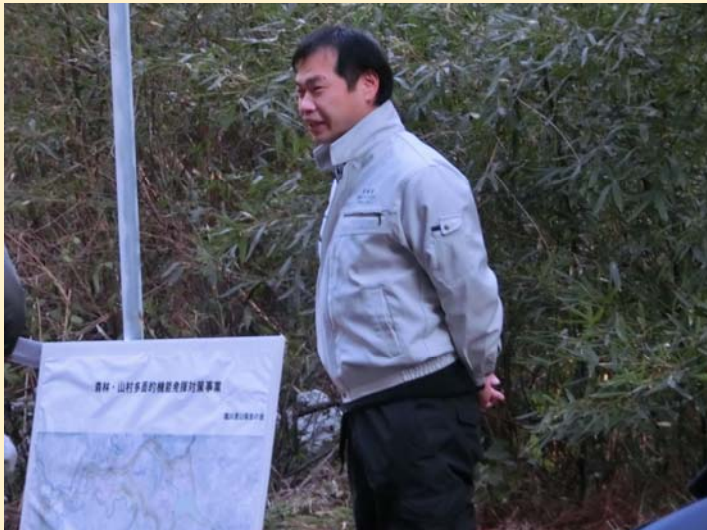


里山林保全活動の説明

9

## 【里山林保全活動】 初回活動のスタート

平成25年度\_\_初回活動時 集合のようす



長崎県森林ボランティア  
支援センター長のあいさつ



長崎市行政担当課の参加

10



【里山林保全活動】

## 下草木の伐採

活動のようす（植林地内の下草木(雑木)の伐採）



11

【里山林保全活動】

## 下草木の伐採

活動中ようす（植林地内の雑木の伐採・林道法面雑木の伐採）



12



【里山林保全活動】

## 下草木の伐採

作業前（下草木伐採）



作業後（下草木伐採）



13

【里山林保全活動】

## 下草木の伐採

作業前（下草木伐採）



作業後（下草木伐採）  
(大木山桜Φ1,2m 樹木高15m )



山桜 満開時

14



【里山林保全活動】

## 下草木の伐採

作業前（下草木伐採）



作業後（下草木伐採）



15

【里山林保全活動】

## 枝打ちの作業

活動のようす（植林地内のスギ・ヒノキの枝打ち）



16



【里山林保全活動】

## 枝打ちの作業

枝打ち作業前



枝打ち作業後



17

【里山林保全活動】

## 枝打ちの作業

枝打ち作業前



枝打ち作業後



18



【里山林保全活動】

## 間伐作業

間伐活動のようす



19

【里山林保全活動】

## 間伐作業

間伐作業前

間伐作業後



20



【里山林保全活動】

# 間伐作業

間伐作業前



間伐作業後



【里山林保全活動】

# モニタリング調査

(平成30年12月)

長崎森林・山村対策協議会の協力・指導

調査範囲の設定



間伐予定木の伐採





【里山林保全活動】

# 安全講習会

長崎森林・山村対策協議会の協力・指導

平成30年12月27日開催



令和1年12月6日開催



23

【森林公園】

## ～ 森林公園建設の取り組み ～

森林公園着手前



平成27年度完成



24



【森林公園】 ～ 森林公園建設の取り組み ～

森林公園着手前



平成27年度完成



25

【森林公園】 ～ 森林公園建設の取り組み ～

不法投棄ゴミの収集～袋詰めの様子



26



【森林公園】

## ～ 森林公園建設の取り組み ～

山小屋の設置



炭窯の設置



27

【森林公園】

## ～ 森林公園建設の取り組み ～

東屋の設置



丸太ベンチの設置



28



## 【森林公園】 ～ 森林公園建設の取り組み ～

散策路（エビネ蘭通り）



散策路（階段）



29

## 【森林公園】 ～ 森林公園建設の取り組み ～

看板設置\_公園下入口



看板設置\_公園上入り口



30



【森林公園】

～ 森林公園建設の取り組み ～

公園案内看板の設置\_公園入口



【森林公園】

～ 森林公園建設の取り組み ～

※森林公園の活用～炭焼き

炭焼きのようす



炭窯内のようす





## 【森林公園】 ～ 森林公園建設の取り組み ～

※森林公園の活用～炭焼き

窯出しのようす“炭”



33

## 【森林公園】 ～ 森林公園建設の取り組み ～

※森林公園の活用

シイタケ栽培の取組み



自然発生のキクラゲ



34



【教育・研修】 ～ 炭焼き・自然体験会 ～ 平成27年12月12日

※森林公園の活用～イベント等

ノコギリ体験のようす



炭の勉強会のようす



35

【教育・研修】 ～ 炭焼き・自然体験会 ～ 平成28年1月9日

※森林公園の活用～イベント等

火起こし体験・窯開き・炭の活用バーベキューのようす



36



【イベント】

## 森林公園のオープニング

※森林公園の活用～イベント等

平成27年11月29日



約150名の参加（神事のように）



（宴）二胡演奏

37

【イベント】

## 森林公園のオープニング

※森林公園の活用～イベント等

平成27年11月29日



森林センター理事長のあいさつ



地元の皆さん\_集合写真

38



# 【イベント】 「森で楽しむ」 サマーイベント

※森林公園の活用～イベント等

サマー イベントのようす (平成29年8月26日)



39

# 【イベント】 「森で楽しむ」 サマーイベント

※森林公園の活用～イベント等

サマー イベントのようす (平成29年8月26日)



竹灯籠の点灯

40



【森林活用】

## 「森で遊ぶ子供たち」



41

【森林活用】

## 「森で遊ぶ子供たち」



42



# 帆場岳（標高506m）と権現山からの眺望の紹介 《360°のパノラマ》

## 長崎港を望む風景



## 橘湾を望む風景



最近は登山者（70歳前後）の方が多くなってきている！

43

これからの森林公園を様々な人たちが楽しむ  
交流拠点となるような強い願い！

ご清聴  
ありがとうございました。

現川里山保全の会  
事務局 高松 隆也

44

# 森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナーアンケート

このたびは「森林・山村多面的機能発揮対策普及セミナー」にご参加いただき、誠にありがとうございます。今後の情報提供等に当たっての参考とさせていただきます。アンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

該当する箇所に○印をつけてください

【ご所属】 1. 都道府県 2. 地域協議会 3. その他( )

Q1: 基調講演「森林と災害 森林ボランティアの観点から」(蔵治 光一郎 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属演習林 教授)のご感想を教えてください。

1. 大変参考になった      2. 参考になった      3. ふつう  
4. あまり参考にならなかった      5. 参考にならなかった

Q2: 「活動組織の活動事例報告」のご感想を教えてください。

1. 大変参考になった      2. 参考になった      3. ふつう  
4. あまり参考にならなかった      5. 参考にならなかった

Q3: パネルディスカッションのご感想を教えてください。

1. 大変参考になった      2. 参考になった      3. ふつう  
4. あまり参考にならなかった      5. 参考にならなかった

Q4: 参加してのご感想、ご意見を記入ください。

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。

ご記入いただきました個人情報は、本セミナーの運営管理ならびに令和元年度森林・山村多面的機能発揮対策検証事業に関わる請負業務の目的にのみ利用させていただきます。